

TOTTORI

25th

JUNIOR
CHAMBER



過去・現在……

いま新たなる未来に向って



JCI Creed

We Believe:

- That faith in God gives meaning and purpose to human life;
- That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;
- That the economic justice can best be won by free men through free enterprise;
- That government should be of laws rather than of men,
- That earth's great treasure lies in human personality;and
- That service to humanity is the best work of life

JCI宣言文

理性と法による社会の秩序を確立し、
個人の創意と公正な競争を通じて、
経済の発展を実現し、
隣人の幸せを願う者が正しく報われる
民主主義社会の達成を誓い、
民族の気概を結集して
日本の平和と独立を守り、
人間性の信頼こそすべての国を結ぶ
きずなであることを確信する。

綱 領

われわれJAYCEEは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての
英知と勇氣と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

目 次

あいさつ	1
祝 辞	2
お 祝 い	3
ZOOM UP	
少年野球	6
施設合同運動会	16
鯉の放流	22
こどもまつり	30
いなばっ子スクール	38
その他の事業	46
事業史チャート	56
収支決算統計表	58
MESSAGE	
OB名簿	60
会員名簿	98
式典案内	104
組 織 図	105
あとがき	106



●理事長
大呂 隆則

ご あ い さ つ

1984年、
鳥取青年会議所は創立25周年を迎えました。
「明るい豊かな社会」の創造を目指して
今日まで25年間
ズッシリと重い歴史と伝統が積み上げられています。
顧みれば
創立時47名で設立された私達の青年会議所は
25年の時の流れと共に
大きく成長充実し、
時代の変化と共に青少年の健全育成に、環境問題に、
あるいは経済問題等々社会の様々なテーマに
青年として真剣に取り組んでまいりました。
そしてそれらは今大きく花開こうとしています、
これらの事を考える時、
普段は気付かない歴史と伝統の力を
感ぜずにはられませんし、
この歴史と伝統を積み上げてこられた多くの
諸先輩の努力に心より敬意と感謝を
表せずにはられません。
今、私達に25年の
この豊かな果実をもたらしたものこそ、
諸先輩や現役が一体となって培ってきた歴史の
力である事を私は知っています。
しかし、この記念すべき年に私達がなすべき事は、
過去を振り返り賛美する事ではありません。
私達の持っている歴史と伝統に培われた
大きな力をいかに外部に反映させ、
寄与するかを考える事だと確信致します。
世界の様々な出来事の例を引くまでもなく、
歴史が今や大きな転換点にあり、
今後増々私達青年の双肩に
社会の命運がかかってゆくのは、
自明の事であります。
私達の目指す山はあまりにも高く大きく、
その頂きは天に聳えています。
しかし誰かが魁となり一步一步
着実に登って行かなければならないとしたら、
その先頭に立つものは私達でありたいと、
私は願っています。
最後に、
この記念誌が今までの25年の力を背景に、
これからの25年の歴史を創り出す
新しい旅の一里塚となれば、
私達一同これに優る喜びはありませんし、
又、25年間私達を温かく育てて頂いた
多くの皆様、並びに関係各位の皆様方に
心より厚く御礼申し上げご挨拶とさせていただきます。



●鳥取県知事
西尾 邑次

祝 辞

鳥取青年会議所が、創立25周年を迎えられるにあたり、心からのお慶びを申し上げます。

青年会議所は、「社会への奉仕」「個人的修練」「世界との友情」の三つの理想を掲げられて、敗戦により精神的物質的に荒廃した日本を再建するために立ち上がった青年の力を結集して創設され、今日まで社会の発展、文化の向上に多大な貢献をされました。

鳥取青年会議所は、この立派な精神のもとに、昭和34年に全国で156番目の青年会議所として設立され、今日まで若い情熱と熱い郷土愛により各分野において数々の目覚ましい事業を着々と実行され、地域社会並びに文化の発展に大きく寄与されてまいりました。

この四半世紀にもわたる会員各位の御努力は、並大抵のものではなく、その残された成果の大きさは万人の認めるどころであり、心から感謝申し上げますとともに、深く敬意を表する次第であります。

創立25周年を迎えられた昭和59年という年は県民こぞって取り組む「わかとり国体」を来年に控え、その準備の総仕上げの年でもあり、特に実行力のある会員の皆様方の力強い御協力を頂だき立派な大会としたいと念願するものであります。

御承知のとおり、昨今の経済情勢は、やや明るい兆しが見え始めたとは言え、国際的にも、国内的にもなお厳しい状況にあり、特に中小企業がほとんどである本県の経済は、今冬の豪雪による農産物等をはじめとする甚大な被害も悪影響を及ぼし、依然として個人消費の回復が遅れております。

しかし、会員各位には、日頃の活動で培われた行動力と、指導力をいかんなく発揮され、必ずやこれをのり越え、地域経済の活性化の担い手として活躍されるものと期待しております。

25周年という意義ある節目にあたり、青年らしい英知と、勇気と、情熱をもって一致協力し、明るく豊かな社会を実現するという理念を再確認され、鳥取県の、さらに日本及び世界の明日を築いていかれますことを切望し、鳥取青年会議所の一層のご発展と皆様のご健勝をお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。

過去・現在……そして未来へ



鳥取県知事

西尾 邑次



社団法人 日本青年会議所会頭

齊藤 志二



鳥取市長

西尾 優



社団法人 日本青年会議所中国地区協議会会長

小林 幹生



鳥取商工会議所会頭

米原 穰



社団法人 日本青年会議所島根ブロック協議会会長

馬庭 秀隆

今、新たなる前進を祝して……………。



社団法人 日本青年会議所鳥取ブロック協議会会長

谷 本 修 一



社団法人 釧路青年会議所理事長

國原 頼 信



社団法人 米子青年会議所理事長

神 谷 洋 司



社団法人 倉吉青年会議所理事長

岡 野 稔



社団法人 境港青年会議所理事長

渡 辺 明 彦



東伯青年会議所理事長

明 穂 嘉 文

Zoom up

鳥取市少年野球大会

プレイボール！ —明日のために—

■誕生まで

昭和20年太平洋戦争が終わり、暗黒と荒廃の中から再生日本が始まる。疲弊し尽した我国も朝鮮動乱の特需でようやく息を吹き返し、社会に明るさと自信が蘇えりつつある矢先、昭和27年4月、折りからフェーン現象の南風にあおられ、旧市の殆んどを焦土と化した鳥取大火にみまわれる。5千世帯余が焼けだされ、被害総額200億円を超えるものであった。また、大火より11年前には、鳥取大地震（震度6）で市内の建物のうち9割が全半壊し多くの死者を出した。我がまち鳥取は二度の大災害に遭遇し、心の痛手がまださめやらぬ昭和34年鳥取青年会議所が47名の士によって産ぶ声をあげた。「明るい豊かな社会」を目ざし、「郷土への愛と奉仕」の信念のもとに鳥取のまちにもようやく自分達の足下を見つめる余裕が生まれてきた。そして、先づ明日を担う子供たちに夢を与えようと、模索がつづく。折りしも、昭和33年夏の甲子園大会に鳥取西高が出場し、一回戦、新潟商高に勝ったものの二回戦で優勝した柳井高に善戦し惜敗を喫した。ちなみに、この時、木村 修OBは遊撃手として甲子園の土を踏んでいる。そして、昭和35年、春のセンバツ大会に米子東高が出場し、好投手宮本洋二郎を擁し、準優勝している。

この様な中、次第に野球熱は高まりつつあり、当時の諸先輩に無類の野球好きの方々の顔が多く見られるのも少年野球誕生の一因にあげられる。そして、当時、今日ほど小学校の体育施設は恵まれておらず、野球が子供のスポーツとして最もポピュラーなものであった。青年会議所が鳥取に誕生し、3年目を迎えた昭和36年、浜崎芳宏理事長のもと、「子供たちの豊かな情操と健全な心身の育成増進につとめ、よりよい社会環境の中で子供を育てりっぱな市民を育成するため」ここに鳥取市少年野球大会が誕生する事となる。

■第1回鳥取市少年野球大会

理事長：浜崎芳宏 大会委員長：鎌田悟一郎	主 催	鳥取青年会議所、市軟式野球協会、日本海新聞社
日 時 昭和36年8月7日～9日	後 援	鳥取市、市教育委員会
会 場 市営球場ほか市内4小学校	優 勝	醇風川内チーム
参加チーム 16チーム（子供会単位）	準優勝	醇風川外チーム

「第一回鳥取市少年野球大会は7日午前9時から遷喬小学校グラウンドで参加16チームの入場があり、高田市長、浜崎青年会議所理事長、山部本社営業局長、村上社福協議会長のあいさつ、浜崎市会議長の祝辞について行徳本通りチームの川上哲司君が選手宣誓し、遷喬、明德小学校会場に分かれて高田市長、浜崎市会議長のそれぞれの始球で3日間にわたる熱戦を開始」と開会式の様子を新聞は伝えている。ただ、初の対外事業でもあり、今日のJC諸事業とは比較にならないほどの苦勞が第1回大会を開催される迄にあった。のちに第10回大会を記念して新聞紙上に浜崎芳宏OBの話話が載っている。



「10年ひと昔というが鳥取市少年野球大会も今では、夏の風物として欠かせないものになるほど成長してきた。(略)第一回大会当時、小学生の対外試合は文部省通達で禁止されており、あっちに話を持ち込んで断わられ、こっちに持ち込んで断わられるという状態だった。いろいろ知恵をしぼったあげく、子供会の対抗戦なら文部省通達にふれないのではないかと思いつき、ようやく計画が実を結ぶこととなった。だから当時の主催団体に鳥取市厚生課が名をつらねていた。子供会の担当窓口が厚生課だからである。主催側に厚生課の名が消えたのは教育委員会が登場した3年前からだったと思う。」当時のJ C事業開催が如何に多くの難題をかかえていたかがよくうかがえる。この頃、参加チームのユニホームもまちまちで、大人もゲタばきでノックする人があったとか。今では笑い話の様であるが、大人も子供もなりふりかまわず一所けん命に打ち込む姿があってこそ初めて、のちの少年野球大会の発展につながるものである。

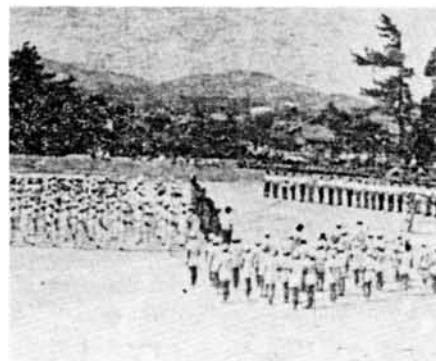
■第2回鳥取市少年野球大会

理事長：浜崎芳宏	大会委員長：鎌田悟一郎	主催	鳥取市、鳥取青年会議所、日本海新聞社
日時	昭和37年8月16日～18日	優勝	遷喬チーム
会場	市営球場、醇風小学校グラウンド	準優勝	稲葉山チーム
参加チーム	21チーム		

諸先輩の並々ならぬ努力で誕生した少年野球も、第1回を成功裏に終え、翌年第2回大会は参加チームも21チームと大幅に増加。会場も市営球場と醇風小学校グラウンドの2会場に移し、盆の16日から開催された。入場式は、日進小学校鼓笛隊の先導で行なわれ大会に華を添えた。試合は昨年優勝の醇風チームが準決勝で消え去り、遷喬チームと稲葉山チームの間で優勝が争われた。稲葉山はよく打ち、4回まで8-2と大きくリードしたが、遷喬も5回に2点を返し、最終回の7回表無死で打線が爆発、連打につぐ連打で大量5点をあげ9-8と逆点した。その裏稲葉山得点なく、遷喬のみごとな逆転優勝となる。

大会中、市営球場と醇風小学校グラウンドの間の連絡にハンドトーキーを用いたが、なにせ20数年前のこと、性能が芳しからず、調子が良かったり悪かったり、その都度、感度良好になる場所を求めてグラウンドや外野席を右往、左往。苦勞したとのことである。

(鎌田悟一郎OB談)



■第3回鳥取市少年野球大会

理事長：山根幸男	大会委員長：鎌田悟一郎	主催	鳥取市、鳥取青年会議所、日本海新聞社
日時	昭和38年8月8日～10日	優勝	賀露チーム
会場	鳥取市営グラウンド、醇風小学校グラウンド	準優勝	稲葉山チーム
参加チーム	17チーム(小学校区単位)		

苦肉の策としての子供会対抗で始まった少年野球も、先輩方の努力と文部省通達の緩和で、小学校単位でのチーム編成が可能となった。それまで1校区から2チームの参加もあったが、今回から1校区1チームの参加となり、参加チーム数は数の上では減少する。しかし試合内容は優れ、炎天下熱戦が繰り広げられた。大会はまず昨年同様、日進小学校鼓笛隊を先頭に17チーム250人が入場、グラウンドを一周した。次いで開会式に移り、

鳥取市少年野球大会



大会名誉会長以下の挨拶のあと、日進チームキャプテン佐々木利昭君が選手を代表して宣誓した。(写真参照)

試合は熱戦を展開、2回戦大正-美保は、23-14の大打撃戦を繰り広げた。優勝は昨年の覆者遷喬を準決勝で、一昨年の覆者醇風を下した賀露が手中にし、第3代優勝校となった。

今回は大会前日雨が降ったためメンバーの苦労は一通りではなかった。「前日雨が降ったためにグラウンドは水びたし、水はけやら土盛りにスコップを持って、てんやわんやだった。」

(浜崎芳宏OB、新聞紙上談話)

■第4回鳥取市少年野球大会

理事長：坂尾裕正	大会委員長：小田信夫	主催	鳥取市、鳥取青年会議所、日本海新聞社
日時	昭和39年8月11日～13日	優勝	大正チーム
会場	鳥取市公設グラウンド、醇風小学校グラウンド	準優勝	稲葉山チーム
参加チーム	19チーム		

少年野球大会も回を重ねる毎に、市民の間に定着、今回からはついに市域を越え、八頭郡、岩美郡からも参加した。即ち、船岡、谷、福部の3校である。福部チームが1回戦で船岡チームが2回戦で、谷チームが準決勝で敗れてしまったが、少年野球の広がりを示す証左として特筆すべきである。

試合は大正と醇風が勝ち進み、決勝の末、大正が勝利を手中にした。なお今回から新たに応援団賞を創設する。回を経るごとに、試合に負けず劣らず、盛んになってきた応援合戦に対して、大会を通じて最も統制のとれた応援団に賞を贈るものである。「炎天下、大会なかばでホコリが猛然と巻き起こり、とても試合どころではない。窮余の一策として会員たちがお堀からバケツリレーでグラウンドに散水した。しかし、それでもホコリはおさまらない。そこでハタと思いついたのが消防車のことである。消防署にさっそく依頼すると快く引き受けてもらい、消防車の出勤となった」(浜崎芳宏OB、新聞紙上談話)いやはや先輩方もたいへんな苦勞をなさったものである。でも今となっては、ほんとに懐しい思い出であろう。以後散水は消防署にお願いしている。

■第5回鳥取市少年野球大会

理事長：西尾昌之助	大会委員長：川島 久	主催	鳥取市、鳥取青年会議所、日本海新聞社
日時	昭和40年8月6日～8日	優勝	湖山チーム
会場	鳥取市営球場、醇風小学校グラウンド	準優勝	久松チーム
参加チーム	19チーム		

大会初日は折悪しく台風通過のため荒天となり、試合スケジュールに一部変更があった。球児達はこの悪天候をものともせずプレーに打ち込み、熱戦が展開された。翌2日目は台風一過、前日とはうって変わった快晴に恵まれ、父兄、クラスメートの声援の下、戦いを続け、湖山チーム、遷喬チーム、津ノ井チーム、久松チームの四強が、準優勝に駒を進めた。最終日は午前11時から湖山チーム - 遷喬チームで準決勝戦が始まり湖山チームが遷喬チームをくだし、優勝に一步近づいた。一方の久松チームも続く試合で津ノ井を下し、決勝戦は

旧市内対新市内チームの戦いとなる。

久松チームは4回表まで大量7点をリード、試合は一方的に運ばれるものと皆信じていたその裏、湖山チームは一抛に5点を返し、6回裏にも2点を入れ試合を白紙に戻した。7回仲良く1点ずつ得点、延長戦にもつれ込んだが8回裏、湖山チームがねばり腰にものを言わせサヨナラ勝ちした。しかし、この大決戦の裏側で悲しいドラマがあった。「優勝戦は久松と湖山で争われた。久松のピッチャーは福矢君。お父さんは熊谷組の鳥取出張所長をしていたが、不治の病いで日赤病院に入院していた。絶対安静だったが、むすこがテレビで見えるというので、こっそり病室にテレビを持ち込んで観戦した。福矢君はお父さんの声援にこたえて力投したが、お父さんはその翌日なくなられた。」(浜崎芳宏OB 新聞紙上談)。今大会の試合前のグラウンド整備の時、数人のチャーターメンバーが、一所懸命グラウンドを掃除しているなか、2人の副理事長が遅れて来、大きなカミナリが落ちたとのこと(鎌田悟一郎OB談)当時新入会員の最大の修練の場であった少年野球の一端をかいまみる思いである。



■第6回鳥取市少年野球大会

理事長：亀井康孝 大会委員長：山本富二	主催 鳥取市、鳥取青年会議所、日本海新聞社
日時 昭和41年8月5日～7日	後援 鳥取市、鳥取市軟式野球協会、鳥取市社会
会場 鳥取市公設グラウンド、鳥取西高グラウンド	福祉協議会、鳥取市子供会助成協議会
参加チーム 18チーム	優勝 津ノ井チーム 準優勝 醇風チーム

大会初日からホームラン8本が乱れ飛ぶ、第6回大会は大打撃戦が展開され、うだるような暑さの中、いやが上にも球趣を盛り上げた。2日目もホームラン2本が叩き出されるなど、好試合が続出。準決勝 津ノ井チーム - 賀露チームは、大会初の延長戦となり7回迄行なわれたが、結局勝負がつかず、大会規定により抽選で津ノ井の勝ちとなった。これには後日談がある。「勝敗が決まらなければキャプテン同士の抽選で勝敗を決めることになっている。賀露チームがジャンケンに敗れて優勝を逸したことがあったが、キャプテンはこの責任を感じて5、6日学校に姿を見せなかったという話を聞いている。そんなことから、キャプテンだけではなく、チーム全員のジャンケンで決めたらどうかという案が出たこともあった。」(浜崎芳宏OB、新聞紙上談話)如何に少年野球に熱が入っていたか、伺い知ることができる。

優勝戦でも津ノ井チーム - 醇風チームが好試合を展開、約千人の観客を魅了した。試合は醇風の善戦むなしく3-0で、津ノ井が初優勝を飾った。

■第7回鳥取市少年野球大会

理事長：亀井康孝 大会委員長：浦本祐之	主催・後援 前年に同じ
日時 昭和42年8月4日～6日	優勝 遷喬チーム
会場 鳥取市公設グラウンド、鳥取西高グラウンド	準優勝 大正チーム
参加チーム 20チーム	

小学校単位の参加になって初めて20チームの大台にのった今大会も、うだるような暑さの中で、始まった。開会式のあと富桑チーム - 日進チームの試合で幕がきって落とされたが、炎天下にも拘らず、少年らしいき

鳥取市少年野球大会

びぎびしたプレーが繰り広げられた。2回戦第2試合湖南チーム - 遷喬チームで木下英幸君（湖南）は、大会史上初の2打席連続ホームランを打ち大いに注目された。しかし後続ならず試合は6-16の大差で優勝校遷喬に敗れた。前回と同様、決勝戦の様子は山陰放送ラジオで実況中継されたが、今回特に、小学生1人、中学生4人の豆アナウンサーが登場、試合の実況中継をし、当時、話題をさらっている。因みに、当時附中2年（14才）で中継に加わった紅顔の美少年梨原剛君は、現在、わが鳥取JCの中年メンバー（30才）として活躍している。

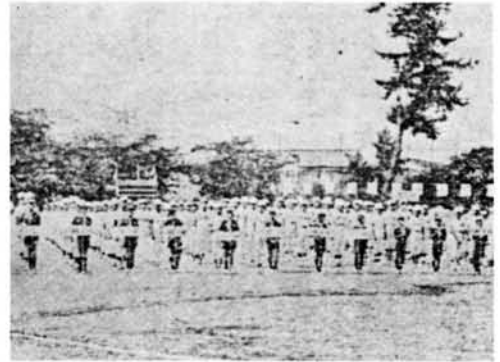
■第8回鳥取市少年野球大会

理事長：中尾喬一	大会委員長：石本博美	主催	鳥取市、鳥取青年会議所、日本海新聞社
日時	昭和43年8月2日～4日	後援	前年と同じ団体、鳥取市町内会連合会
会場	鳥取市公設グラウンド、鳥取西高グラウンド	優勝	富桑チーム
参加チーム	16チーム	準優勝	日進チーム

開会式の入場行進は、鳥取西高プラスバンドの行進曲演奏の
って、堂々と入場、今回百羽のハトも大会に華を添えた。

試合も暑さにめげず、はつらつとしたプレーを展開。好守ともよくまとまっている富桑チームと、好投手市浦を擁し、猛打の日進が勝ち進み、決勝戦を迎えた。決勝戦も1点を争う投手戦を展開。観衆がかたずをのみ見守るなかで、最終回富桑チームが、ラッキーな1点を拾いサヨナラ勝ち、初優勝を飾った。

また今回から後援団体として新たに、鳥取市町内会連合会に加わってもらい鳥取の夏の風物詩として一層市民の間に浸透していったのである。青年会議所活動にとってこれほど喜ばしいことはない。「とにかく青年会議所の会員たちは大会準備に、当日の世話に一所懸命だ。この姿を見てある人が、少年野球の真の意義は、おとなが子供の事業に献身的に奉仕している、そこにあるのではないかと言う。その通りだと思う。運営する側としては、グラウンドで展開するプレーの内容より、けがをしなればいいがとか、あすの段取りをどうするかで頭がいっぱいだった。」（浜崎芳宏OB、新聞紙上談）



■第9回鳥取市少年野球大会

理事長：中尾喬一	大会委員長：辻 敏治	主催・後援	前年と同じ
日時	昭和44年8月3日～5日	優勝	醇風チーム
会場	鳥取市公設グラウンド、鳥取西高グラウンド	準優勝	日進チーム
参加チーム	18チーム		

雨の為、大会史上初めて、日程を2日延期して開催。開会式は前回と同じく、鳥取西高プラスバンドを先頭に18チーム、270人が堂々と入場。ちょうど日曜日と重なり、スタンドにつめかけた千人近い児童と父兄が見守るなか、津ノ井-久松戦で闘いの火ぶたは切って落とされた。連日の善戦にもめげずチビっ子達は好プレーを展開、スタンドを沸かせた。試合は攻守とも安定している日進と、好投手池成を擁する醇風が勝ち進み、最終日を迎える。醇風池成は強豪日進をよく抑え、最少点に留め、味方のチームの2度目の優勝に大きく貢献した。一方の日進はまたもや決勝戦で涙をのみ、優勝までにはさらに3年の歳月を要したのである。

8年前、次代を担う少年達のために夏休みを利用し、野球を通して少年達の体力向上を図り、また健全化もあわせて狙った少年野球も「開会式で倒れる子供がいて、多いときには15人もバタバタ倒れるありさまだった。長い祝辞がなくなって開会式の時間が短くなったのと、少年たち自身の体力向上によるものだと思う。」(浜崎芳宏OB 新聞紙上談)と、社会が豊かになったことと併せ、所定の成果を挙げてきつつあったのである。そして、いよいよ10周年の記念大会へと継げられてゆく。

■第10回鳥取市少年野球大会

理事長：玉木久夫	大会委員長：浜崎貢三	主催	鳥取青年会議所、軟式野球連盟県支部 日本海新聞社
日時	昭和45年7月31日～8月2日	後援	鳥取市、市社会福祉協議会、市町内会連合会
会場	公設グラウンド、鳥西高グラウンド	優勝	遷喬チーム
参加チーム	19チーム	準優勝	大正チーム

年々、盛り上がりを増してくる少年野球大会も、第10回を迎え、新聞には参加19チームのキャプテン談話が載せられた。久松チーム、福田 健君は「学校が工事中なので練習する場所がなく、練習が思い通りできなかったのが心のこりです。」と語っている。記念大会とあって大会気分は一段と盛り上った。そして、金田正一氏を解説者として招く予定にしていたが、実現しなかったものの同氏から祝電が寄せられた。また、山陰放送では優勝戦の模様をラジオで録音中継し、豆アナウンサーが登場した。この大会で注目されるのは、大正チーム、美和チームの新市部チームが従来非力とされていたにも拘らず、共に準優勝戦までコマを進め、善戦した事である。10年にして、少年野球が全市的に浸透、波及し地域レベルが均一化したといえる。

ここで、紙上談話として掲載された記事を引用しよう。「私は昨年青年会議所を卒業したが、第一回、第二回大会の大会委員長をやり、当時を回顧しながら観戦していると、少年たちの体力向上、ユニホーム、マナーなど、さすがに10年の伝統がでてきた様に思う。(略)少年たちの野球を通じての根性と勝負への執念には思わず目頭が熱くなるシーンがある。(略)」(鎌田悟一郎OB談)少年野球を経験したメンバーには入会して間もなく誰もが一度は経験する「思わず目頭が熱くなる」状態。これが少年野球そのものではなからうか。

また、「今大会を見て一番強く感じた事は新市と旧市との差がなくなり、伸び伸びしている点ではむしろ新市部の方がまさっている。(略)今後の希望として、少年野球の県大会をぜひやりたい。」(浜崎泰三OB談) 県大会開催への意欲的な姿勢がこの時期言われた。既に、米子、倉吉、境で少年野球大会が開催されており、いよいよ翌年より開催実現となる。



■第11回鳥取市少年野球大会

理事長：池内勝信	大会委員長：安東 正	主催・後援	前年に同じ
日時	昭和46年8月6日～9日	優勝	醇風チーム
会場	西高グラウンド、醇風小学校	準優勝	富桑チーム
参加チーム	24チーム		

この大会は、第1回鳥取県少年野球大会の予選を兼ねる事もあり、岩美郡より福部チーム、谷チームが加わ

鳥取市少年野球大会

り、大会史上最多の24チーム参加をみた。既に八頭郡大会は8月1日に八頭高グラウンドに6チームが参加して行なわれ八東チームが決定。更に、八東チームは市準優勝の富桑チームと東部代表校2チームの椅子を争うも、惜しくも敗れ、東部代表校は、醇風、富桑チームと決まる。

かくして第1回鳥取県少年野球学童部選手権大会（県軟式野球連盟、県下三地区青年会議所共催）は各ブロック代表4チームが参加し、8月22日鳥取市営球場にて開催された。戦績は東部が他地区を寄せつけず、決勝戦は醇風、富桑チームの東部同志の対戦となり、市大会の再現となる。そして、第1回にふさわしく、富桑チームの田中投手は醇風チームをノーヒットノーランに押え込み、2回に得点した1点を守り切った。球史に残る名勝負であった。第10回大会より軟式野球連盟県支部が、主催に新たに加わり、県大会開催及び運営上、多大の協力を得、また、予選大会も同様の協力を得る事は特筆すべき事である。

■第12回鳥取市少年野球大会

理事長：古寺善三　　大会委員長：川島 久	主催・後援　前年に同じ
日 時　昭和47年8月4日～6日	優 勝　日進チーム
会 場　市民スポーツ広場	準優勝　富桑チーム
参加チーム　22チーム	

この大会より会場が、千代川原市民スポーツ広場に移り、以後、第16回まで同じ会場で開催される事となる。新設のスポーツ広場で開会式が行なわれ、金田裕夫市長の始球式で熱戦の火ぶたが切られた。決勝戦は日進、富桑両チームの対戦となったが、両チームとも好投手を擁し、堅い守備に守られ、延長12回まで0が続ぎ、勝負がつかずジャンケンで日進チームに優勝が決まる。少年野球史上初の息づまる決勝戦であった。第2回県大会では日進チームは惜しくも敗れ、境チームが優勝している。



■第13回鳥取市少年野球大会

理事長：涌本祐之　　大会委員長：木村武生	主催・後援　前年に同じ
日 時　昭和48年8月3日～5日	優 勝　城北チーム
会 場　市民スポーツ広場、市営球場	準優勝　遷喬チーム
参加チーム　24チーム	

夏の甲子園に鳥西高の出場が決まり、エース・加藤投手（法大一日生）がかって少年野球大会出場選手だった事もあり、長年に亘る少年野球大会の開催がようやく実となり花となった喜びを感じたメンバーも多かった。鳥西高は1回戦仙台育英高に勝ったものの、2回戦富山高高にスミ1で惜しくも敗れた。少年野球大会では城北、遷喬チームが圧倒的な強さを見せ、一回戦ともに大差のコールド勝ちで勝ち進み、優勝、準優勝の栄冠に輝いた。また、この大会のテレビ中継が行なわれ、野球に精通している涌本祐之理事長の名解説はまだ記憶に新しい。

■第14回鳥取市少年野球大会

理事長：清水昭允　　大会委員長：角脇篤彦	主催・後援　前年に同じ
日時　昭和49年8月2日～4日	優勝　醇風チーム
会場　市民スポーツ広場、市営球場	準優勝　城北チーム
参加チーム　25チーム	



前年より、準決勝、決勝戦は市営球場で行なわれ、決勝戦では、醇風チームが城北チームに10-4の大差で快勝し、3年ぶり2回目の県大会進出を決めた。

第4回を迎える県少年野球選手権は、この大会より一郡一市代表制となり、過去最高の110校、1,800余人の球児が参加して各地区予選大会で熱戦をくり広げた。

そして、会場も鳥取市営球場で開催され、用瀬チームが優勝した。第4回にして初めて郡代表チームに栄冠が輝いた。市代表の醇風チームは敗退したものの、敗退を

糧とし、翌年県大会優勝の伏線となっている。

■第15回鳥取市少年野球大会

理事長：山根常愛　　大会委員長：赤松英洋	主催・後援　前年に同じ
日時　昭和50年8月1日～3日	優勝　醇風チーム
会場　市民スポーツ広場、市営球場	準優勝　美和チーム
参加チーム　26チーム	

少年野球大会も15回を迎え、市民に親しまれ、ますます夏の一大風物詩となった。当初の青少年の健全育成、心身の鍛錬という目標は一応達せられ、野球の技術的向上とスポーツを通じて精神力を養おうと、第15回を記念して、元読売巨人軍監督、川上哲治氏を迎える事となる。

9月21日午後1時20分千代川スポーツ広場で、「川上野球教室」が開催された。あいにくの小雨模様の中、遠くは鳥根県横田町、倉吉市河北小学校、八東、青谷各スポーツ少年団等野球少年が約400人参加し、2時間に亘り、投球、守備、打撃の基本プレーの指導を受けた。そして、夜は市民会館で同氏の文化講演「野球と人生」が開催され、基本的プレーが如何に大切であるか、また、勝負への執念等について講演され、集まった市民を魅了した。

そして、この年より継続事業の他団体への移管の声が内部的に次第に高まってくる。加速度的な社会の変化に即応できる運動、JCに替わる団体の育成、青少年開発運動への模索は続く。



■第16回鳥取市少年野球大会

理事長：本田 博 大会委員長：熊田省吾 日 時 昭和51年7月30日～8月1日 会 場 市民スポーツ広場、市営球場 参加チーム 26チーム	主催・後援 前年に同じ 優 勝 醇風チーム 準優勝 美和チーム
--	---



この年5月16日には青年会議所主催のもとに第1回鳥取こどもまつりが誕生している。更に、5月30日昨年に引き続き「川上少年野球教室」が川上哲治氏、元巨人軍投手菅原氏を招き、市営球場にて開催された。参加者は約1千人であったが約百人が直接技術指導を受けた。午後5時からホテルニューオータニにて、指導者講習会も開かれ、少年野球の指導者約40人に指導のあり方、疑問点等の講習が行なわれた。

そして、7月30日この年の最高気温 33.5°の炎天下の中、スポーツ広場で開会式と第1回戦が始まった。折りから、モリントリオールオリンピック開催中で、翌31日朝日本女子バレーチームがソ連チームに勝ち、金メダルを獲得したのも懐かしい事である。また、この日夏の甲子園大会山陰地区予選で県勢チーム米子東高、倉吉北高が共に敗退している。

市民スポーツ広場ではうだる様な暑さの中チビっ子たちは打ち、走り、守ってはつらつとしたプレーを展開し決勝戦では醇風チーム、美和チームの前年と同じカードとなった。醇風チームは好投手笠松君（昭和56年鳥西高夏の甲子園出場メンバー）を擁し、接戦の末美和を倒し3年連続6回目の優勝を成し遂げた。惜しくも涙をのんだ美和チームは2年連続準優勝に甘んじたが、翌年、見事に雪辱を果たすこととなる。

■第17回鳥取市少年野球大会

理事長：濱崎貢三 大会委員長：尾崎義人 日 時 昭和52年7月31日～8月2日 会 場 市営球場、鳥商グランド 参加チーム 26チーム	主催・後援 前年に同じ 優 勝 美和チーム 準優勝 附属チーム
--	---

この大会では、市営球場を3日間メイン会場とし、サブ会場として鳥商グランドを使用した。結果的には記念すべき青年会議所主管最後の大会となったが、開会式は市営球場で盛大に行なわれた事を記憶している。

1回戦より熱戦が繰り広げられ、決勝戦では初の決勝進出を果たした附属チームと2年連続準優勝の美和チームが対戦した。結果はねばる附属チームを振り切り美和チームが初優勝の座に輝いた。のちに行なわれた県大会でも美和チームは大活躍し、決勝戦は用瀬、美和の東部同志の対戦となったが、4-3で用瀬に惜し



くも敗れた。ここに昭和36年第1回少年野球大会として産ぶ声をあげ、幾多の諸問題を乗り越え、回を重ねる毎に次第に市民に不可欠の一大スポーツ大会にまで成長した少年野球がある。以降、青年会議所主管から鳥取市小学校体育連盟へ移管される訳であるが、青年会議所の歴史は少年野球大会が一つの基幹事業であり、内部的、また対外的にも共に両輪の如く成長してきたと言っても決して過言ではない。既に、こどもまつりは前年に誕生し、翌昭和52年より教育文化問題委員会（安田晴雄委員長）が新設され、青少年開発運動を量的かつ質的にも充実させてゆくことになる。



少年野球移管後、青少年開発委員会は2年にわたる非行問題への積極的な取り組みののち、やがていなばっ子スクール開催へと移行してゆく。「J Cの少年野球」はここに事業として終止符を打つ訳であるが、その残したものは測り知れぬほど多大であった。

■移管後の少年野球大会

鳥取市少年野球大会

	優勝チーム	準優勝チーム
18回(昭和53年)	城北	世紀
19回(昭和54年)	美保	倉田
20回(昭和55年)	醇風	世紀
21回(昭和56年)	美保	東郷
22回(昭和57年)	米里	醇風
昭和58年	第13回鳥取県少年野球選手権大会 鳥取予選 醇風 世紀	
	第1回鳥取市小学校野球選手権大会 湖山 倉田	

昭和53年7月31日より3日間、市民スポーツ広場にて「第18回鳥取市少年野球大会」が開催された。主催には鳥取市教育委員会、鳥取市小学校体育連盟、新日本海新聞社、鳥取市軟式野球協会があたり、後援には鳥取市、市社会福祉協議会そして鳥取青年会議所が名を連らねている。以来、昭和57年まで青年会議所が後援することとなる。

昭和55年第20回大会には、次第に深刻になりつつあるドーナツ化現象を考慮し、各校5、6年生の児童数の多い方から順に参加校を二分し、多い児童数をAゾーン大規模校、少ない児童数をBゾーン小規模校に分け、各ゾーンの第1位同志が決勝戦で対戦する方式を取っている。そして、県大会予選も兼ね、鳥取市地区予選の優勝チームが市代表として県大会に参加していた。

昭和58年になり、新たに第1回鳥取市小学校野球選手権大会（主催…鳥取市教育委員会、鳥取市小学校体育連盟 後援…鳥

取市）が7月27日より5日間市美保球場で行なわれ、この大会の4日前の7月23日より25日まで、第13回鳥取県少年野球学童部選手権大会、鳥取市予選（主催…鳥取県軟式野球連盟 共催…山陰中央新報社 主管…鳥取市軟式野球協会 後援…鳥取市教育委員会、市体育協会、昭和ゴム㈱）が開催されている。この二つの大会が殆んど相前後して開催された事は少年野球関係者、父兄に少なからずとまどいを起こさせた。

これは、昭和50年5月より経営危機に陥り約1年休刊止むなくに至った日本海新聞社が鳥取県少年野球大会の共催を外れ、代わりに山陰中央新報社が共催となった事と県軟式野球連盟が同様の大会を併立したことに起因する。子供たちのひたむきなプレー、スベリ込んできた走者と送球された野手とのタッチプレーで顔を泥だらけにして大人の審判の判定を待つ四つの眼。子供達のただひたむきな澄んだ眼差しに私達は応えてやりたい。そして、早い時期に市少年野球大会が整序され、少年野球大会が名実ともに永遠に栄えん事を願うものである。

担当 谷口博文・松岡正樹

施設合同運動会

友よ翔べ “Do your best!”

敗戦を味わった日本が郷土の再建を目指した頃、JC運動が起こり、鳥取でも将来を担う子供達の為に、少年野球大会を始めた。しかし、メンバーの中に「谷間にいる子供達」の事を考えなければならない、との気運が高まり、JCの三信条である奉仕と修練を考え合わせた時、それでは福祉の実態を勉強して見ようと云う事になり、何回も勉強会を開いて検討した結果、年に一度、それぞれの施設にいる子供達が一ヶ所に集まって運動会をやろう、と云う事で施設合同運動会が生まれた。

児童福祉施設児童招待運動会

昭和43年6月2日（日）

於 十六本松

招待施設

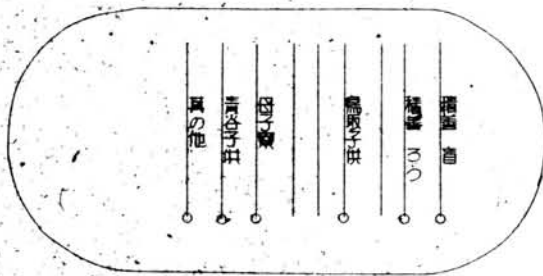
積善学園、鳥取子供学園、里子会
貴谷子供学園、鳥取母子寮

鳥取青年会議所

プログラム

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30				
海濱幼稚園	三木幼稚園	一風幼稚園	五木幼稚園	六木幼稚園	七木幼稚園	八木幼稚園	九木幼稚園	十木幼稚園	十一木幼稚園	十二木幼稚園	十三木幼稚園	十四木幼稚園	十五木幼稚園	十六木幼稚園	十七木幼稚園	十八木幼稚園	十九木幼稚園	鳥取青年会議所	鳥取青年会議所	鳥取青年会議所	鳥取青年会議所	鳥取青年会議所	鳥取青年会議所	鳥取青年会議所	鳥取青年会議所	鳥取青年会議所	鳥取青年会議所	鳥取青年会議所	鳥取青年会議所	鳥取青年会議所	鳥取青年会議所	鳥取青年会議所	
ラジカ	走	走	走	走	走	走	走	走	走	走	走	走	走	走	走	走	走	人競	人競	人競	人競	人競	人競	人競	人競	人競	人競	人競	人競	人競	人競	人競	人競
全	小	中	幼	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	全	小	中	幼	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
1	4	5	2	3	6	3	6	3	6	3	6	3	6	3	6	3	6	全	小	中	幼	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
全	小	中	幼	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	全	小	中	幼	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
全	小	中	幼	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	全	小	中	幼	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
全	小	中	幼	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	全	小	中	幼	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
全	小	中	幼	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	全	小	中	幼	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中

○開会式 全員 運動の服装で整列



本部

社会福祉問題委員会の児童施設合同運動会は、1961年度理事長浜崎芳宏OB、社会福祉問題委員長涌本祐之OBの手によって施設児童運動会として行なわれた。そして、数百名の子供達の参加で第1回目が開催され、子供達が笑顔で遊ぶ姿に感激しその翌年、第2回目の施設児童合同運動会が開催された。

3回、4回と続けるうちに恒例となり場所も砂丘から十六本松そして砂丘と変えて、開催され第10回施設合同運動会「継続事業の一つ、施設合同運動会も10回を数え、好天下の5月23日、鳥取砂丘で開催、積善学園他5施設の児童400名を招待し、BBS会員の協力によって盛大な運動会となった。広々とした大砂丘の中で我が身の不自由さも忘れ、唯競争に没入している子供達はとても印象的であった。」

この間鳥取BBS会、その他団体の協力により増々定着して行った。



施設合同運動会

第20回施設合同運動会

この年は国際障害者年の初年度であり、20回記念と云う事で、各施設に自転車、書棚等を寄贈する。前日は「郷ひろみチャリティーコンサート」を開催し運動会に参加する施設の子供達を招待し、又売上金で車イス10数台と車イス専用自動車等を寄贈した。

そして、1982年度、場所を青島に移し第21回目を迎え青年会議所と多数の協力団体と共に完全に継続事業として成長しています。

そして今年も第23回施設合同運動会は開催される。(子供達が純粋に喜び楽しそうに遊ぶ姿を見るかぎりこの事業は永遠に続く。)



施設合同運動会開催月日・場所・委員長

第1回	S37. 6. 3	砂丘	涌本 祐之
第2回	38. 10. 20	旧砲台	米沢 安民
第3回	39. 5. 24	"	土家 徹
第4回	40. 6. 6	砂丘 (すりばち裏)	安部 誠吉
第5回	41. 6. 5	十六本松	橋本 博夫
第6回	42. 6. 2	"	浜崎 泰三
第7回	43. 6. 2	"	足立利喜雄
第8回	44. 6. 15	"	本田 博
第9回	45. 6. 7	"	平野 之致
第10回	46. 5. 23	砂丘	小島 英二
第11回	47. 6. 11	"	清水 昭允
第12回	48. 6. 10	青島	福田洋一郎
第13回	49. 6. 11	"	栗嶋 道和
第14回	50. 5. 25	"	河村 皓一
第15回	51. 6. 13	"	河村 皓一
第16回	52. 6. 5	"	青山 征洋
第17回	53. 9. 3	子供の国 運動場	吉川 哲
第18回	54. 9. 9	"	尾崎 英篤
第19回	55. 9. 14	"	姫村 光則
第20回	56. 9. 13	"	松谷 一生
第21回	57. 9. 12	鳥取少年自然 の家体育館	瀧本 紀晴
第22回	58. 9. 11	青島	森田 勝憲



「施設合同運動会によせて」

元積善学園次長 箕嶋隆夫

鳥取青年会議所主催による県東部児童福祉収容施設の合同運動会が開催される様になったのは、昭和37年からである。社会の不幸な子供達の為に何か手を差しのべ幾らかでも幸の一助にし将来、社会の一員として立派に成長して行く子供達の育成に助力しようとの意図からである。

昭和36年3月であったか、当時の浜崎芳宏理事長以下4名の役員が積善学園を訪れになり特殊性を持つ殊な施設の子供達への関わり方や行事について話し合った結果、施設の交流には運動会（唯、技を競うと云う事ではなく全児童が自分のペースで力一杯参加して共に障害の克服を分かち合っコミュニケーションの出来るふれ合いの場）が一番良いと決定した。しかし、36年度は研究と準備の年とし翌37年度から取組む事となった。36年度はJ Cと施設との結びつきと云う事で、積善学園と鳥取こども学園の子供を4月中旬に津山の鶴山公園へ招待、秋には積善学園の高学年児を米子陸上自衛隊、美保航空自衛隊の見学が実施され特に生まれて始めて乗せて頂いた飛行機の思い出は当時の子供達のアルバムに心深く残っている。昭和37年4月から運動会に向けて色々計画や準備が進められ私もその会議や準備のお手伝いに顔を出させて頂いた。

第1回の運動会は昭和37年6月3日鳥取砂丘の真中で行われた。その理由は養護、身体障害、肢体不自由、精神薄弱等の特殊な施設の子供達であるので広々とした何の障害物もなく安心して元気一杯伸び伸びと羽を伸ばせる場所をと云う配慮からであった。当日は朝から曇りであったが決行した。しかし昼前から雨になり午後から中止となり残念であったが大変有意義に思った。参加施設は積善、鳥取こども、青谷子供、鳥取母子寮の4施設。第2回は6月の梅雨期をさけ体育の月、10月にと云う事で10月20日に旧砲台跡で実施した。この日より郡家母子寮にも呼びかけたが日曜日は教会のお祈りがあり、全員参加が困難との事で一部の人の参加であった。第3回目より秋は各学校の運動会や各施設の行事等の集いの関係で調整が取れないので春にと云う事で39年5月24日に実施。第4回は40年6月6日、砂丘すりばち裏で実施した。第5回は41年6月5日、里親の会も参加があり場所も十六本松で行った。其の後、第9回までは十六本松で行ったが十六本松が道路工事の為不可能となり10回46年より砂丘で実施し、その頃より精薄施設松の聖母学園、若草学園の参加で児童数も増加し約400人位となった。又、B S S等の協力団体の援助があった。第11回47年も前年と同じ場所であったが、第12回48年より湖山池の青島で行う様になった。その頃から日赤奉仕団等の奉仕団体グループの援助協力を得ながら最大となり運動会も定着して来た。16回の52年まで青島で行ない、この年まで春5、6月に実施されたが17回は春に全国青年会議所大会が鳥取市で開催される事もあって運動会は秋9月第1日曜日を日度にと云う事で9月3日、場所も子供の国の運動場となった。以来20回、56年まで子供の国で開催された。しかし青年会議所が施設児童のみならず一般社会の児童全般の健全育成の為以前より少年野球大会や5月の子供の日の行事として青島子供まつりを行なう様になり、21回、57年より青島でと云う事になった。第2回より20回迄天候に恵まれた運動会もこの年は雨となり運動会始まって以来初めての屋内実施となり、桂見の少年自然の家体育館で行ったが走ったり飛んだりばかりでなくゲーム遊びや踊り歌等もあり、なごやかな交流会で楽しく有意義な運動会であった。22回は青島で58年9月11日に開催されたが生憎の悪天候であった。しかし主催のJ C又B B S、日赤奉仕団等沢山の参加を頂き子供達は嬉しとして一日を過ごして自分の人生に明るい希望と力強く生きて行く心を持つ事が出来たと思います。子供達が『先生、将来もJ Cに運動会を続けて頂く様お願いして下さい』と云ってくれました。

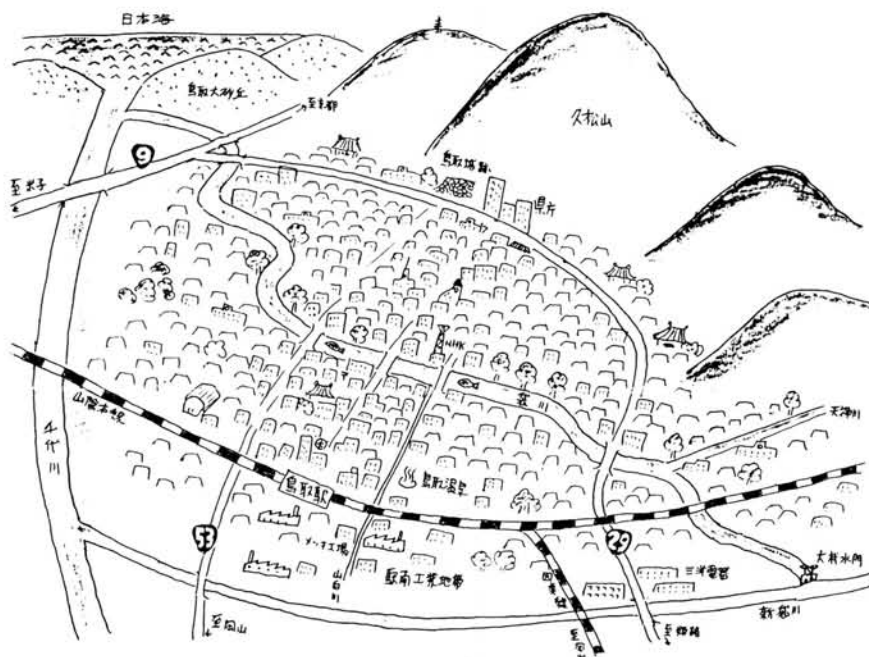
担当 松谷一生・竹崎栄志

袋川鯉の放流

—その源流を訪ねて—

25周年記念誌の森原チーフに「鯉の放流を編集してごせえ。」と言われた大西君と手島君、何せ入会前の事なのでさっぱりわからん。そこでまず、鯉の放流と言えは「15周年記念事業」当時の理事長清水OBのところへ聞きに行こうという事になり、大西君は先輩風を吹かせて「オイ手島君、清水OBにインタビューをして来てごせーや、色々勉強になるけ。」手島君「ハイ、行って来ます。」って訳で清水OBのところへカセット片手にインタビュー。

訪うとすでに山積の資料を準備していただいており、当時の写真や資料を拝見しながら、苦労話やエピソードをお聞きしていたところ、「以前から」JCが取り組んだ袋川の美化運動と73年に鳥取城のお堀に鯉の放流をしたのが74年の袋川鯉の放流へと結びつくとる訳です。」との話。「それじゃあ、前年にも」JCは鯉の放流をやっておった訳ですね。」「たしか城下町鳥取誕生400年の時でお堀に鯉を放したはずです。当時の理事長は涌本君ですけえ聞いてもらったらようわかるでしょうや。」



聞いて帰った手島君「涌本OBが理事長の時だそうですね聞いてもらえんでしょうか。」「そんなら今度はわしが聞いてこようか。」ってな訳で大西君、涌本OBにインタビュー。

「理事長されとった時にお堀の堀に鯉を放されたそうですが、その時のお話を聞かせてもらえませんか。」

「お堀に放した鯉2,000匹は日置桜の山根君とサンショウの熊田君と木村塗料の本田君と私の4人で農業用の溜池

に放そうと思って稚鯉を1万匹一緒に買ったんだけど、溜池に大きな鯉がおって放しても食われてしまうというんで、うちの庭池と山根君のところの防火用水とに5,000匹づつ放したんだな。ところが、夏頃になると鯉は大きゅうなるし、入れた所が狭いしで死にだしたんだな。ちょうどその年に城下町鳥取400年の記念事業もある事だし、このままでは鯉も死んでしまうけ、それならお堀に放そうという事になった訳だな。」

「そうすると、その時はまだ袋川に鯉を放流しようという話は出とらなんだんですか。」

「もちろん、正式には出とらなんだけど、15周年に袋川に鯉を放流したら良いんじゃないかという話はしとった様に思うな。お堀に鯉を放流した時に、袋川にも少し放したな。」

「エ！73年に、もう袋川に放流しとったんですか。」

「もちろん事業としてではないけど、試験的に放したと思うよ。」

これは面白い話が聞けたと思い2匹目のどじょうならぬ鯉の話をさがして山根OBにインタビュー。

「涌本OBが理事長の時にお堀に放した鯉の話を聞かせてもらえませんか。」

「だいたい涌本君の話の通りだけど、溜池に放せなんだのは大きな鯉のおった為じゃなしに、だれだかその池に漁業権を持つとる者がおって、放させっだッ放させんたッちゅう話になって、そんなややこしいなら自分らで飼おういやちゅう事になったのが本当だったと思うなあ。」

「お堀の堀に鯉を放した時に袋川にも少し放されたそうですね。」

「さッ放したッろうか、よう覚えとらんなッ、袋川に放した鯉について覚えとるのは、わしが浅津の湯村養



鳥取城のお堀に放流

魚場に話をして当才鯉を1匹30円にまけさせて79年の春15周年の記念事業に放流した事だなあ。」

次は熊田OBのお話。「溜池に4人で1万匹の稚鯉を放そうと買ったんだけど、溜池が水もれするって事でそれを修理するのに50万円位かかるっていう事だったんだよな。我々は鯉を飼うのが目的じゃなくて、ただそこに溜池があったから鯉でも放そうかっていうだけだったんだから50万円も出すのはバカらしいという事になって涌本君と山根君の2人の所で飼ったわけだ。」

「涌本OBのお話では、お堀に放した時に袋川にも鯉を放したそうですが。」

「いやッ、それは憶えてないなッ、ただ夏だったか台風の時だったかで、大水が出て涌本君の所の鯉が袋川に流れた事はあったよな。」

「お堀に鯉を放した時には、袋川に鯉を放流しようっていう構想はあったんですか。」

「以前から」Cは袋川美化運動をやって来て、その2年前に市長さんらとドブ川下りをしたりした訳だが、その一環として鯉を放流して、もしも鯉が死ぬ様な事になれば、市民の関心が袋川の美化に向いて来るんじゃないかという考え方はあったよな。」

大西君からOB3人の話を聞いた手島君「10年もたつと記憶に食い違いが出て来るんですね。」

「そうだなッ、それに袋川の鯉の放流の原点とも言えるお堀への放流がもともと意図したものじゃあなしに瓢箪から駒というか、個人的な道楽から出て来たものだちゅうのが面白いなッ。」

「しかし、当時の」Cメンバーの意識の中にふる里の美化とか袋川の問題が常にあったから結びついたんでしょうね。」

「われわれ現役メンバーに当時の様なふる里に対する情熱が常に意識の中にあるだろうか、自らに問直し

袋川鯉の放流

て見る必要があるなァ。」「清水OBや熊田OBのお話では、かなり前から、袋川の美化運動がJC活動の中で取り上げられとったんですね。」「もっとさかのぼって調べてみないけんなあ、池内理事長の時のどぶ川くだりの話と玉木理事長の時の写真展と袋川現地調査の話をわしが聞いてみるわ。」

「池内OBが理事長をされとった71年度に袋川どぶ川くだりをされたそうですが、その時の話を聞かせてもらえんでしょうか。」

「袋川をきれいにせないけんといっても現状を知らなどうにもならんということで9月の25日に金田市長・小谷連合婦人会長・県立博物館の清末先生と報道関係者などいっしょに2艘の舟に分乗して大杖の水門から



どぶ川くだり

若桜橋までを見て廻ったわけですが、空カンやポリ袋がようけ捨ててあるし、河川敷がゴミ捨て場になつとる所はようけあるし、不法建築物はあるし、場所によっては生き物が全々見当たらん程汚れとりました。だけど、清末先生のお話によると、市内の川としては見込があるということでした。どぶ川くだりのあとの懇談会で護岸の改修、川底の浚渫、水量を増やす事、市民の袋川の美化意識高揚を提言し、金田市民もその方向で努力するという約束をされました。」

「その時にはまだ鯉を放すっていう様な構想はなかったんではないですか。」

「市民の意識の高揚の為に鯉を放してみようかっていう意見はあった様

に思うけど、実際に放したのは涌本理事長の時だったなァ。

お堀と栲谿と袋川に鯉を放したですわ。」

「やっぱり涌本理事長の時に袋川にも鯉を放されたんですか。実は私が涌本OBに話をうかがった時には、そういうお話だったんですが、当時の関係メンバーの方々にそのお話をしたら、覚えとらんという事だったんでもう一つはっきりせなんだんです。」「その他に、当時の袋川美化運動で憶えておられる事はありますか。」

「当時の資料を見ると、7月2日に市・県・県警等を集めて懇談会をとりとりますなあ。」

「それは市民運動を盛り上げないけんという考えでやられたんではないですか。」

「そうです。実は、袋川の美化運動は当時千歳JCが、千歳川の美化運動をやとって我々もやろうじゃないかということだった訳です。」

「そうすると、袋川の美化運動には手本があった訳ですね。その他に何かエピソードはありますか。」

「汚れた袋川の写真を撮って展示しました。場所はどこの銀行だったでしょうや。それと、当時袋川に矢板を打って川幅を半分位にして駐車場を造ろうって話があったんですけど、当時の石破知事の『川が死んでしまう』の一言でこの話



(当時の汚れた袋川)



(栲谿にも放流)

がなくなったのを憶えています。」(10周年記念誌「ひらけゆく鳥取」にも特に商店街関係者から、袋川の利用方法として駐車場にしてはどうかという意見があるとの記載有り。)

大西君次に玉木OBのお話をうかがおうと電話すると、奥様が出られて御入院中とのお話、そこで、70年度都市問題委員会委員長米沢OBにインタビュー。「当時の資料を読むと、70年に袋川の現地調査をやっておら



(写真コンテスト)

れますが、当時の様子をお聞かせ下さい。」

「記憶がはっきりしませんが、前年に発刊された10周年記念誌『ひらけゆく鳥取』の市民意識調査の中で、袋川をきれいにしてほしいというアンケート結果が出ており、まず、JCとしては袋川の実態を勉強せないけんという事で、確か市の担当者といっしょに現地調査をしました。大杣の水門から下流に向かって歩いた事をおぼえとります。この調査が71年度の市長とのどぶ川下りの伏線になったと思います。」



(上流・袋川取り入れ口)



(下流・千代川との合流付近)

「写真展をやっておられる様ですが、憶えておられる事を聞かせてもらえませんか。」

「さあ、そんなんしましたかいなあ、何せ昔の話ですけえなあ、したとすりゃあ、茶町の辺の屋形舟や春の桜土手の写真やら、昔の袋川の風景を集めて展示したんだないでしょうか。どっちにしてもよう憶えとらんぐらいですけ、そんなたいしたもんだないですわ。」

「それから行政との懇談会をやっとられますけども……。」

「そういやあ、大森助役だったか収入役だったかに来てもらって懇談会したですかなァ。とにかく卒業の年だったもんで袋川を何とかせないけんっていう意識はあった訳ですけども、まず現状を調査して、あとは次に託すっていう考えだったですなあ。」

10年前からだと思った鯉の放流も源流を訪ねれば、そのさらに5年前の「ひらけゆく鳥取」に発している。昔の事でOBの方々の記憶も定かでない事項もあったが、現在では忘れられている事実も確認出来、インタビューを受けていただいたOBの方々のJC活動に対する情熱にふれ、担当の兩名には収穫の多いものであった。

袋川鯉の放流

青山OBのインタビューから帰った手島君、「シアンが流れて、それまでより更に市民の袋川の美化に対する意識が高まったんですね。」

大西君、「熊田OBが話された通り、死んだ鯉はかわいそうだが、J Cの放した錦鯉は、生きて泳ぐより大きな役割をしたのかも分らんなあ。当時、わしも都市開発委員会に所属しとったけど、委員会でもかなり議論をして声明文を出したのをおぼえとるで。」

不法行々、 シヨック!! 魚の大量死事件発生 討して声明書を発表



最後に手島君がインタビューした、荒田OBのお話。

「大体、この事業は地味でまじめなもので、あまり面白い事や楽しい話はないけど、川掃除をしていて、中にはまだ新しい自転車も何台かあって、おどろいた。下流の方で、釣をする人がいるという市民からの通報があったが、禁止したりする規則がないので、釣られる数よりも、沢山の鯉を放せばええじゃないか、という気持ちだったなあ。ああ、そうそう何年前かに、放流した鯉の稚魚が生まれとるっちゃう話を清末先生から聞いて、とてもうれしかったなあ。」



15周年記念 鯉の放流



ようなことで、別にとりたてて話す事はないけども。子供が釣ったりすくったり、悪い事をするのではないかと思っていたんだけど、袋川流域の子供から鯉を釣っている大人がいるという通報があって、大人の1人としてなさげなかったです。それと、川ざらえをした時、三輪車やタイヤなど大きなゴミが多く、特に橋の近くの草が多い所にはゴミがたくさんあり、トラックで2台のゴミが出たですなあ。」

「袋川の絵の展示会をされたようですが。」

「確か小学校に画用紙を配り、児童に画いてもらい、社会福祉会館で展示会をしましたなあ。」

「当時の資料で、袋川で大量の魚が死んだようですが。」

「あれは確か夜間、山白川と袋川の合流地点より下流に大量のシアンが流され、翌朝ようけ錦鯉なんか浮いて、マスゴミも大々的に報じ、市民の関心が高まるとるなあと思ったですなあ。」



バンバカバーン

その後のJ Cの袋川に対する取り組みを調べるべく、手島君、青山OBにインタビュー。

「鯉の放流2年目に担当委員長をされておられますが、その時のお話を聞かせて下さい。」

「鯉の放流そのものは前の年と同じ



(第2回鯉の放流)



(川ざらえ)



(取れたゴミの山)

袋川鯉の放流



当時のポスター

マスコミへのPR



PRカー



1人1匹30円募金

再び清水OBへのインタビュー。「15周年記念事業として『水と緑』をテーマにして取り組んでおられた様ですが当時の話を聞かせて下さい。」

「市民1人ひとりが袋川の美化に注目する様な運動をせないけんと考えて、放流用の鯉を皆で買おうという30円募金運動を行なったわけです。PRにも力を入れてポスターを作ったり宣伝カーを走らせたりしました。その結果、マスコミも大きく取りあげてくれて、袋川の美化運動だけでなく、JCのPRにもなりました。当時、袋川もJCの働きかけなどでかなり

以前よりきれいになったと言われとったわけですけど、鯉など棲めるはずはないと思っとる人が多かったんで、放流の前に金網の中に鯉を放して毎日観察をして、まず本当に生きれるかどうか確認したんですわ。5月25日に鯉1万匹を放流し、サツキ120本を記念植樹したわけですが、放流後、国府町の方やら湖山池に釣に行っとった人から鯉を見たという連絡をもらい、市民の注目がJC活動に向けられているなと喜しく思っとりました。ところが、この鯉を早速釣ったり、網でごっそり捕ったりするもんがおって困りました。」

「放流するのを錦鯉に決めたのは、何か理由があったんでしょうか。」

「鯉は水の汚れに強いし、錦鯉なら濁った川でもよく見えるんで選んだわけです。」

「鯉を放流して良かった事は何か。」

「まず旧袋川の水質が公表される様になった事でこれは、今でも続けられとります。それから他団体も袋川に放流をしたりして市民の関心が高まり、行政による下水道の整備等を推進する効果もありました。」



(試験放流)



(記念植樹)

インタビューを終わって手島君「鯉の放流は15周年の時からだと思ったりしましたけど、その5年も前から袋川美化に対する運動をされとった訳ですね。大西さん。」

「しかし、今までの鳥取J Cの運動の中でもこれだけ完璧に調査・分析・企画・実行・評価のC D 4サイクルが行なわれた運動もないんじゃないのかな。」

「少なくとも当時の先輩達の頭の中には常に袋川の美化等、鳥取をより良い街にしようって意識があったんですね。ドブ浚えをしたり、草を刈ったり、派手な事業じゃないけれど、一つ一つの積み重ねが市民の意識の中にも深く根ざしたんですね。」

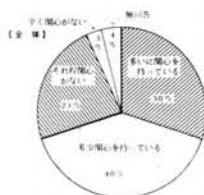
「今、地環委員会のメイン事業になっている夢現展は、市民が集まって『ふるさと』を見つめ直そうという主旨で始まったんだけど、市民の意識を袋川だけでなく、さらに広い意味での郷土に対して高めようという考えなんだよ。」

「夢現展がそういう考え方で始まったとは知りませんでした。全く違う事業の中に先輩の人々の精神が生きているんですね。」

「そうだ、段々分かって来たがな、鯉の放流の源流をはるばる訪ねたかいたったなあ。これからも力を合わせて頑張らあで。」

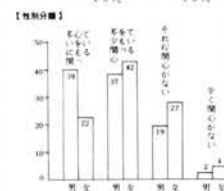
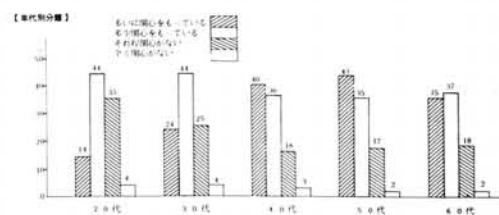
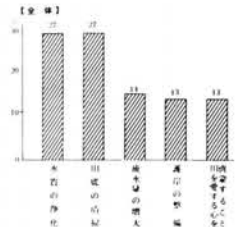
30. 旧袋川の美化に向って、民間・行政で努力していますが、どう思われますか。

1. 多めに關心をもっている。
2. 多分關心をもっている。
3. それ程關心がない。
4. 全く關心がない。



31. 美化への今後の課題として、どれが一番にすべきだと思いますか。

1. 水質の浄化
2. 流水量の増大
3. 川底の清掃
4. 源流の整備
5. 川を愛する心を啓蒙すること
6. その他



(ひらけゆく鳥取IIより)

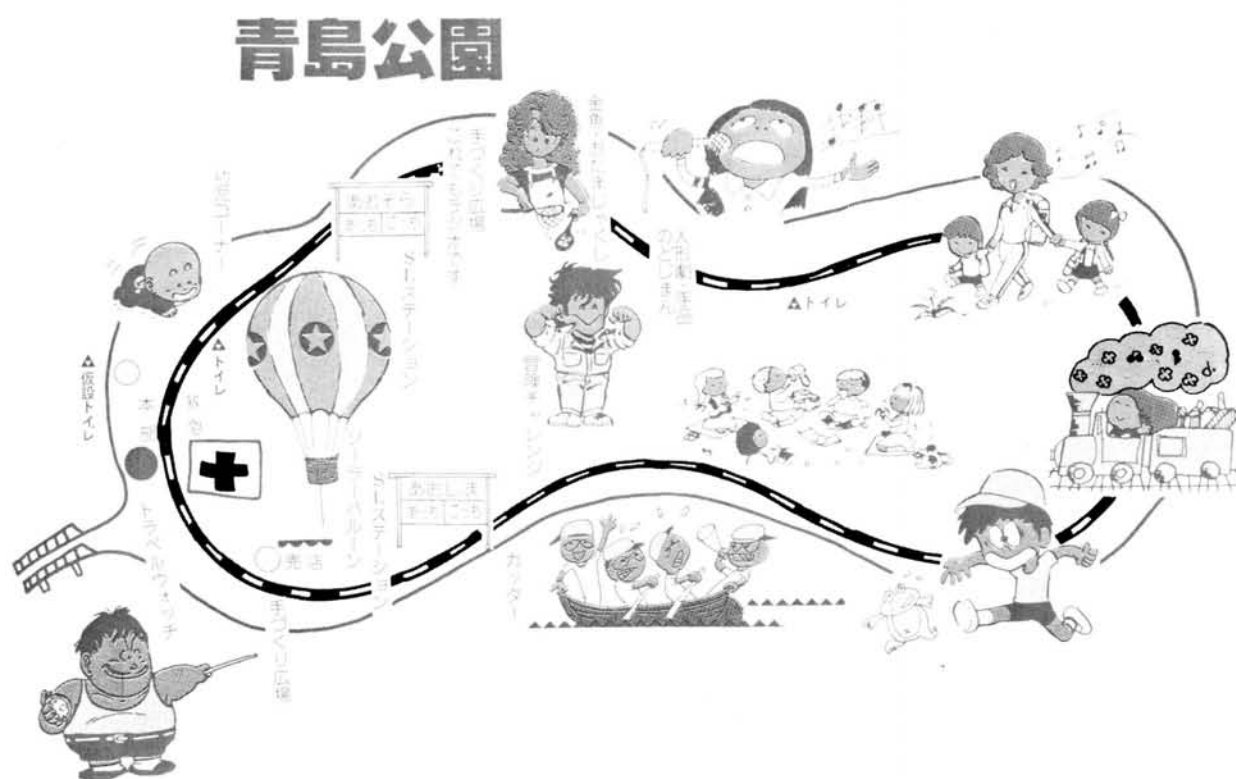
<年 表>

'69	ひらけゆく鳥取で問題提起
'70	袋川現地調査、行政との懇談会、写真展
'71	どぶ川下り及び懇談会、袋川美化問題を市長と語る会
'73	城下町400年祭で袋川へ錦鯉放流
'74	15周年記念事業で錦鯉1万尾放流(30円募金)とサツキの植樹等
'75	鯉の放流、絵画展、川ざらえ、袋川に鯉を育てる集い、美化合同パトロール、[シアン流される]
'76	鯉の放流、袋川清掃
'77	鯉の放流、袋川清掃
'78	袋川の清掃(2回)、鯉の放流(JCデー統一事業)
'79	袋川の清掃
'80	袋川美化推進パトロール(1日4回)7/20まで5回、鯉の放流、清掃
'83	鯉の放流(木のまつり)、放流鯉販売

担当 大西左登志・手島 充

鳥取子どもまつり

■大切な子どもたちを、自然の中で一日中とんだり、はねたり、どろんこになって遊ばせようという願いをこめて、鳥取子どもまつりが、始まりました。



鳥取子どもまつり歴代実行委員長名

回	月 日	実行委員長名	スロ ー ガ ン
1	5月16日	角 脇 篤 彦	育てよう 元気な子どもたち
2	5月29日	寺 谷 誠一郎	育てよう強い子供達
3	5月5日	尾 崎 義 人	どろんこへっちら、元気なぼくら
4	5月5日	大 呂 隆 則	
5	5月3日	安 田 晴 雄	なんでもやるんだ やっちまおう
6	5月4日	竹 内 敬 雄	ぼくもわたしもみんなともだち
7	5月2日	山 本 洋	ぼくのぼうけん私のぼうけん、みんなでチャレンジ
8	5月3日	門 田 成 男	アタック 青島 ぼくらの広場だてえ
9	5月3日	瀧 本 紀 晴	みんなの青島!! 遊んでいい友

■鳥取こどもまつりの誕生



鳥取こどもまつりは今から8年前、本田理事長の時に角脇実行委員長のもとに、第一回目が行なわれました。鳥取こどもまつりは“市長と市民との対話”で子供達の問題がとりあげられた際に話題になりました。私達鳥取青年会議所のメンバーも一緒になってこの事を考えました。子供達は、情報過多社会で選別意識もなく社会規範に束縛され、むなしく時を過ごし自意識など皆無でした。この様な社会の流れに竿をさす様に、子供達にやる気を！との主旨により鳥取こどもまつりは誕生しました。

青島の自然と共に次の世代を担なう子供達が遊びを通して友を作り、いたわりの気持ちをはぐくみ、子供達の忘れてしまっている古き良き遊び、又創造意欲をかきたてるものをと考え、このまつりをJC運動のメイン事業として、はかりしれない夢と、ロマンを求めて育ててきました。



■新たな方向への模索——鳥取こどもまつり

私達鳥取青年会議所は、福祉施設の児童を対象とした合同運動会や少年野球大会の主催を通して、少年問題には以前より並々ならぬ関心と実績をもっていました。

ところでこれらの事業は、一部・特定の子供達が対象であり、もっと広くの子供を対象とする事業は……との意見が年毎に高まり、私達鳥取青年会議所は新たな方向へ模索を始めました。

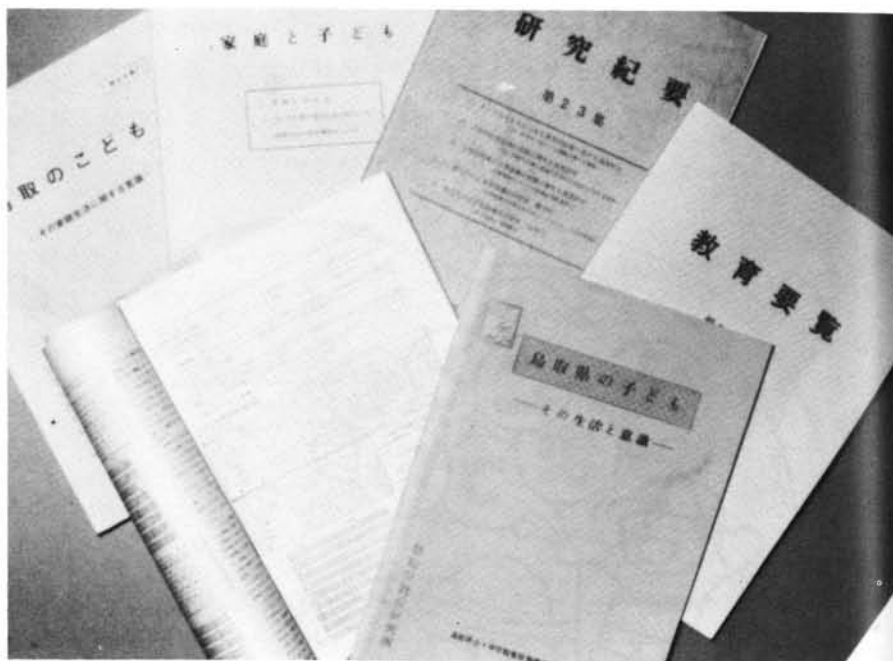
私達は、県や市の教育委員会、県教育センター、児童会館等を訪ね、子供の生活実態調査の報告書等を調査分析し、学習・遊び・家庭生活の中で、子供達がどういう状況にあるかを把握しました。

近年、子供をとり巻く環境は、憂慮すべき事態であり、選別意識を持たない子供の心を深くむしばんでいます。この打開策は環境だけの問題ではなく子供自身の問題、家庭教育、社会教育の問題にまで波及するものです。

そこで、私達鳥取青年会議所は、後者の問題をとりあげました。鳥取市郊外の湖山池に浮かぶ青島の自然の下、開放された中で、子供達が何かを感じ、自分で考え、行動し、交友し合う場を提供し、併せて親や社会に子供を考えてもらおうと、鳥取こどもまつりを企画しました。

私達は、この考えを基にしてこどもまつりの発想・目的を市・教育委員会に説明し、協力を要請しました。また、広く市民団体に呼びかけ、協賛を得た団体の中で実行委員会を組織し、昼夜、実現に向かって協議を行ないました。同時に、市内の小・中学校を訪問し、児童に対して具体的な事業内容についての希望調査も行ないました。

2回目以後も、協力団体の数は増え、こどもまつりも社



会的関心が高まってきました。当初はほとんどのコーナーを鳥取青年会議所が指導・管理したが、序々にコーナー分担を他の団体に委ねることにより、実践指導力開発のトレーニングにもなりました。

また地元紙に对外広報を掲載し、こどもまつりのPRを兼ね、子供の現状と将来について、提言を行ったり、前日パレードを市内の目抜き通りで行ない関心を高めました。



■鳥取こどもまつりを支えてくれた仲間達



子供達がいつも楽しみにしている鳥取こどもまつりは、たくさんの仲間達が、一生懸命、心をこめて子供達の為がんばっています。

私達鳥取青年会議所は、これらの仲間達と一緒にとりくんできました。

そして今私達の願いは、もっと広く多くの仲間達が、大切な子供達と共により素晴らしい鳥取こどもまつりの実現に向かって、絶えることなく前進する事です。

鳥取こどもまつり主催団体名

鳥取市・鳥取市教育委員会・鳥取青年会議所・鳥取市連合青年団・鳥取市老人クラブ
鳥取市交通安全指導員会・日本ボーイスカウト東部地区協議会
ガールスカウト日本連盟鳥取第1団・日本海洋少年団連盟鳥取団・鳥取市社会福祉協議会
鳥取ロータリーアクトクラブ・鳥取赤十字奉仕団・鳥取学生赤十字奉仕団
鳥取市松保地区青年団・日赤アマ無線奉仕団・鳥取BBS・鳥取大学ヨット部
鳥取家政高校社会班・人形劇団こうま座・鳥取おやこ劇場・交通安全クラブ
鳥取マジシャングループ・鳥取大学奇術同好会・鳥取市子供会指導者連絡協議会
鳥取市交通安全母の会・鳥取大学ケン玉研究会・児童会館母親クラブ・鳥取大学YMCA
ワイズメンズクラブ・カーニバル鳥取実行委員会・鳥取市勤労青少年ホーム利用者協議会

鳥取こどもまつり協賛団体名

鳥取ロータリークラブ・鳥取北ロータリークラブ・鳥取西ロータリークラブ
ユネスコ協会・鳥取市小学校PTA連合会・鳥取市中学校PTA連合会
鳥取市小学校校長会・鳥取市中学校校長会・青少年育成鳥取市民会議
鳥取市公民館連合会・鳥取自治連合会・NHK鳥取放送局・日本海テレビ放送・山陰放送
陸上自衛隊米子駐とん部隊・鳥取ライオンズクラブ・鳥取中央ライオンズクラブ
鳥取いなばライオンズクラブ・鳥取久松ライオンズクラブ・国際ソロプチミスト
鳥取市立南中学校プラスバンド・鳥取市立修立小学校吹奏楽団・八東町緑山農場

鳥取こどもまつり



写真集



■楽しかった、来年も……

子供達は本当に楽しそうです。青島は一日中チビッコの歓声が一杯でのびのびと遊んでいます。そして誰もが、また来年も青島に来ようねと声をかけあって帰っていきました。



最高の日だった

智頭小学校3年
宮本 正明

昨日、第2回鳥取子供祭りに行った。人がたくさん来ていた。まいごコーナーなんていいと思う。たとえまいごになっても、そのコーナーに行けば、放送で、呼ばれるから、親の人にわかるから。運動コーナーだったら、運動の好きな人にもってこいで、おもしろいだろうし、子ぶたと遊ぶなんて、おもしろいけど、牛にこわがっていた人が多い。だが、目せんの中にある動物と遊ぶなんて、おもしろい。コーナーを持ちいいなと思う。だが、あのコーナーもおもしろい。ゴーカートとか、交通公園も作れば、もっとおもしろいと思う。いろいろなコーナーがあったけど、運動コーナーは、体をきたえるようなものをおいていけば、もう少しおもしろいコーナーになったと思います。魚つりをきめて、船で、つってもよかったら、最高だったのになあと思ってる。だが、工夫した、いいおもしろいコーナーが、いくつかあった。ボーイスカウトみたいなカッコいい子がいた。たいてい、道で、まいごにならないように見はっているにちがいないと思った。最後に、若いおにいさんたちが、トランシーバを持って、人をさがしていた。昨日は、最高の一日だった。トイレが少なくて女の子が行列をついていたが、もう少し多く作ったらと思った。放送が少しはなれた所では、何も聞かえなかったが、事故のことも考えて、島全体に聞こえるようにするべきだと思う。来年は、もっとよくして楽しい祭りしてください。



楽しかった子どもまつり

久松小学校5年
児島 江麻

この、子どもまつりは、自由に遊ぶこともでき、とてもよい行事でした。しかし、同じ場所だけではなく、いろいろな場所でやってみてはどうでしょう。もっと子どもまつりのよさが出てくるといいと思います。

落書きの板などを最後にもやしていました。その板などをくふうしてすばやく小鳥のえき台などをみんなで協力して作って見れば、小鳥もたくさんよってくるにちがいないと思います。

わたしはこんなこともつけくわえてすると、もっとりっぱな子どもまつりになると思います。

また、大へんよかったのは、自由になんてでもできるというのがとてもよかったです。

現在ではなんでも、お金を出して、品物を買ったり、ゲ

海潮音

この日の午後、祭り
目録というものが
う。第2回鳥取こど
もまつりが開かれた
朝山徳海が青島
には、さわやかな湖
上を遊覧船が吹き、高層ビ
ルの下で子どもたちは元気いっ
ぱいハネ回って遊ぶ。それは
自然の中を遊ばせることを、
精進の心で表現したものであ
らうと想像する。

魚釣り、運動会、工作、小動物、準備した各コーナーがわさわわと盛りだくさん。チビッコの子たちは自分好みのコーナーに一目散ら駆けつけ、思い思いに遊ぶ楽しさを味わっている。その様子を見ながら、お母さんたちは目を細く微笑みながら、お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

運動会も盛りだくさん。チビッコの子たちは、お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

チビッコの子たちは、お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

お話を聞いている。お母さんたちは、お話を聞いている。

■……こどもまつりがすんだ…… ここに、一人の男が身をもって体験した ドラマがある。

< 2月X日 >

鳥取こどもまつり、JCプロジェクトチーム某所にて初会合。メンバー多めに飲む。

< 2月X日 >

まだまだ先はながい。そんなに急いでどこへ行く。又々、プロジェクトチーム数名で飲む。

< 3月X日 >

プロジェクトメンバー全員集合!“ 皆さん、ひとつ体を私にあずけてほしい。”

“ よし! 俺達の体をあずけてやろうじゃないか! ”

< 3月X日 >

福祉会館にて他の団体に協力依頼。(他の団体に迷惑をかけない為にも成功させなくてはと緊張する。)

< 4月X日 >

アー、ダンダン近ずいてくる。細かい分担、スケジュール等々の打合せ。(にわかメンバーが殺気だってくる。)

< 4月X日 >

ここ数日、家にも帰っていない。かわいい女房もほったらかしにして。(マ、これも皆、子供達の為だから、がまんしなさい。)

< 5月X日 >

何故かイライラしてくる。プロジェクトの連中だいじょうぶかな。A君、B君へ電話すれど不在。

(アー心配だ、心配だ)

< 5月X日 >

A君、B君、C君……………。

自分の仕事をほっぽりだし、もう10日間も会社に顔を出していないとの事。その損害も大変だったろう。

しかし、彼ら曰く“ エーイ、どうにでもなれ、実行委員長やチビッコの為に心中したるワ” 本当にありがとう、JCではじめて知りました。熱い友情を。

< 5月X日 >

神様! お願いします。 なんでもするから、あすを天気にしてください。

雨を降らせるなんてあまりにもチビッコがかわいそうです。

< 5月X日 >

9時、バン、バン、バン、花火があがった。ただ胸がいっぱいです。皆さん、本当にありがとう、みてく
ださい、こんなに子供達がよろこんでいます。この輝くチビッコの目の光、あんなにはしゃいでいます。

アハハ、向こうでチビッコがころんでいます。

担当 門田成男・高岡 繁

いなばっ子スクール

育もう あすの郷土を担うこどもたち

■本事業誕生の背景

群青色の日本海の波に洗われる鳥取砂丘を北に、なだらかな中国山脈を望みながら、豊かな水と緑のまち、鳥取市がある。古くは因幡の国府が置かれ、近世には池田藩32万石の城下町となり、因幡米の集散地として賑わいを見せたまちであった。やがて、明治22年市政が施行され、当時人口約5万の小都市も、県の中心地として着実に発展の道を歩んできた。しかしその間には、1943年鳥取大地震、1952年鳥取大火と二度の災害にみまわれ、市民は大きな打撃を被った。

災害復興の中、1959年鳥取青年会議所が設立された。そして、青少年に夢を与えようと2年後には「第1回鳥取市少年野球大会」が開催され、多くの市民団体の協力を得ることになった。この事業は、第18回より鳥取市小学校体育連盟に移管し、その2年前より始まる「鳥取こどもまつり」に力を注ぐこととなる。

こどもまつりは35市民団体、サークルを巻き込み、毎年1万5千～3万人の児童、市民を対象としているが、遊びを通じての自然とのふれあいをスローガンにしているので、リーダー育成はできない。そこで、1978年、「親子アンケート」、「第3回こどもまつりアンケート」、翌年の「ひらけゆく鳥取Ⅱ」市民意識調査を参考にして、今、こどもたちに何が必要であるかを検討した結果、「自主性」、「連帯性」、「創造性」を基調とし、学校でもなく、家庭でもない体験学習の場が必要であると判断した。

更に、「豊かな人情」、「緑の大地」、「きれいな空気」、「歴史と伝統」など鳥取の誇れるものを認識させ、共同生活を通じて、協調性を養い、こどもたちが何事にも粘り強く考え、積極的に自分から行動し、よいチームメンバーであり、よいリーダーとなり、誇りある「郷土を築く」こどもたちの育成を目的として、1980年8月、「いなばっ子スクール」が誕生した。

■事業の展開

本年度第5回を迎える本事業は、市内全小学校より参加する小学校4年～6年、約50名の児童で構成され、1チーム7～8名で7チームに分けられ、更に海辺、山間、市街地の子と男女を均等に班分けされる。各々のチームには、リーダー、サブリーダーを各1名配置し、れきさん会、鳥取出身の学生、JCメンバーがこの任につく。

このスクールのユニークな点は第1に、チームで意見を出し合い、みんなで粘り強く考え、みんなで発表する点である。第1回、第2回の「カード学習法」、第3回の「新聞づくり」、第4回の「観光客アンケート」を通じて日常生活でこども達を感じる種々の問題を一人一人の自主性を尊重し合いながら、みんなで考え、辛抱よくやりぬく事がメインとなっている。第2点はこども達がふるさとを知り、自然を守り育くみ、情操豊かにする事である。「砂丘の清掃」、「花絵作り」、「地引網」、講演「鳥取市の歴史と伝統」、「佐治村手すき和紙工場の見学」、「観光客アンケート調査」等のメニューはこども達にふるさとを再認識させるものである。第3点は、運営、学習を学校関係者、社会教育事業団、父兄、鳥取大学参画サークル、青年会議所が練

り上げ、企画に子ども達が参加する事である。手段といくつかの条件を与えれば、子ども達は自分の力で考え歩き始める。いなばっ子スクールを通じてメンバーが認識した事の一番大きな感動である。スクールの中で、各チームが2日目の午後から独力で歩き始め、カード学習、新聞作りが個々の責任とチームの力となって、最終日の成果発表では父兄の前で、驚くほど子ども達の眼は輝き、堂々と発表する。やがて、3日間やりぬいた自信は子ども達の日常生活の中でも様々な変化を起こしてくれるものと確信している。

最後に、知らない者同志のスクールという点で特徴がある。感想文では、殆どどの子ども達がスクールに参加する前の不安を訴えているが、自ら積極的に話しかける事でいとも簡単に友達ができるのに驚いている。そこからもう一歩進んで、協力し合う事の大切さ、苦しくてもやり遂げた事のよろこび、更に、「自分が大きくなったらリーダーをして、友だちの大切さを知らない子供に教えてあげようじゃないか」と個から地域へ発想の転換を図ろうとしている。1981年は国際障害者年で第6回鳥取子どもまつりに障害児童を招待する企画がなされ、いなばっ子スクール卒業生に世話をして貰ったが、一日中、障害児に付き添い、誠心誠意で世話をする姿を見て、いなばっ子たちが見事に成長しているのに驚いた。スクールでの自己変革が芽づいているとの確信を私達に与えてくれた。

■ チーム発想法

「いなばっ子スクール」では、見学、講義、実習などの研修を通じて「郷土の再発見」に努め、チームを編成してチーム行動を進め、その成果を『チーム発想法』の応用でまとめました。

その『チーム発想法』とは？

1. チーム発想法は、カード式発想法ともいわれます。
2. 発想法とは、異質のデータ・情報を統合することによって、新しい発想とアイデアを生む方法論です。その方法は、まずテーマに関して、なにか関心をひいたデータはすべて集め、カードに書きこみ、そのカードで親近感を感じずるもの同士を組みたて、図解し、文章化するものです。
3. この発想法を小集団や組織に導入するため、チーム発想法が工夫され生みだされました。みんなで考え、みんなで実行しようという点で、チームワークを育て、チームで問題を解決していく点で、大きな効果があるといわれ、活用しやすいものです。
4. チーム発想法の特色として、つぎのことが考えられます。
 - ① 価値観、ワク組から飛びだした新しい考えかたを生みだす。
 - ② 問題解決能力を伸ばす。
 - ③ 心と心を通わせるコミュニケーションを育てる。
 - ④ 強固なチームワークを育てる。
 - ⑤ リーダーとしての感覚、考えかた、感受性を練磨する。
 - ⑥ どんな人の、どんな発言でもとりあげ、全力をだし切らせる。
 - ⑦ 楽しくできる。ゲームのように全員で考えあう。
 - ⑧ そのときの時間に応じて、やりかたをかえてできる。
 - ⑨ 話しあいの過程が印象強く、構造的。またそのような記録、整理が可能である。
 - ⑩ できあがったものに迫力があり、説明も味がでる。

■いなばっ子感想文

本事業に参加したこども達は、親元を離れての種々の活動を通じて、学校でも、家庭でも出来ない貴重な体験をし、小学校時代の忘れ得ぬ思い出をつくっている。

初めて会った他校のこども達との、2泊3日、あるいは3泊4日の触れ合いは、現在のこども達の生活環境に欠けている、何か、を見出した様に思うと同時に、現在の社会が抱える少年非行問題の克服の糸口を見出した様に思われる。ここに、こども達が残していった本事業の感想文を、活動風景の写真とともに紹介します。

「いなばっ子スクールの感想」

醇風小 6年 清水麗子

Dチームですごした2泊3日、とても楽しい日々でした。他の友達のかわりに来た私は、同じ学校の友達と部屋がわかるのは、とてもつらかったです。けれども、初めて見たことも、しゃべったこともない友達どうしが、学校の別なく遊べたり、話をしたり、みんなが一つのことをいっしょけんめい考えたり、まるで生まれた時から遊んでいたように仲よくでき、とてもうれしかったです。友達ができるまで、とても不安でした。その不安も、ふき消してくれるように「アット」言うまに、Dチーム全員仲よくなりました。



けれども、声が低いためあまりしゃべれなかった私にとって、Dチームの女子の人は、やさしくなだめてくれました。あまり学校でも決まった人しか、しゃべらない私にとってとてもうれしいことでもありました。ここに来て、友達がどんなに大切に、どんなに自分に必要なのか知り、よかったです。

知らない人、しゃべったことのない人、学校がちがってしゃべることのない人、初めて合う人、これからの社会でどのように必要になって来るかはわからないが、いなばっ子で、一番よいことをおそわった。それは、「友達の愛情」。それだけにいなばっ子スクールでは、友達の大切さを知らない私たちに、おしえてくれたのだろうと思った。男女関係なく、笑ったり、おこったり、ケンカしたり、卓球したり、ふだん学校ではできないことをしたり、いろんな所を見学したり、その中で友達のふれ合い、大きくなり、今度は自分がここに来て「リーダー・サブリーダーをしてあげようじゃないか。そして友達の大切さを知らない子供におしえてあげようじゃないか。そして、みんなといっしょに勉強をしたり、自分が子供のころしてもらったように、おしえてあげようじゃないか。」という気持ちになりました。

友達の大切さ、とうときをおしえられた2泊3日でした。大きくなっても、二度とこの大切な思い出を忘れることはないでしょう。

これからも、こんな行事をもっともっと増やしていきたくらいと思います。

「いなばっ子スクールの感想」

世紀小 5年 中 沢 雅 樹

ぼくは、いなばっ子スクールに来てよかったと思いました。リーダーは、どの班の人もやさしそうだったしそれに、いなばっ子スクールでやることは、初めてのことがほとんどだったからです。

一番思い出にのこったのは、市場の見学とせりでした。これも初めてのことで、とてもたのしかったです。それから広徳寺で座禅をした時、ぼくは30分から50分という長時間したことがあるので5分や10分では、少しざんねんなかんじもしましたが、いい言葉を教えてもらいまんぞくしています。地引網も初めてでした。なかなか引れないのでざんねんでした。

さいごのカード学習の時、ぬけだして高校野球を見ていたりした人もいてなかなか進まなくて、さいごみんながしんげんにやったら、いいのができました。発表の時、6年生の人がいいぐあいまとめて言ってくれました。

初めてのことがほとんどでした。お寺でいい言葉をおしえてもらいました。こういうスクールがあればいつでも、何回でも参加し、いろんなことを学び、いろんな人と友達になりたいと思います。

また来年もあれば参加し、いく年かたてばこんなことのリーダーになりたいと思います。



魚いっぱい採れたかな？

いなばっ子スクール日程表(第2回)

	第1日 8月4日(内)		第2日 8月5日(外)		第3日 8月6日(内)
			5:30 起床		5:30 起床
			身辺整理・移動		身辺整理・移動
			6:30 地引網(浜村)		6:00 講話と座禅(福井)
			↓		↓
9:00	集合 博物館前		8:00 朝食		7:00 朝の集い参加
9:30	(マイクロにて出発) 入所		9:00 キャンプ後片づけ		8:00 朝食
	開講式・入所式		10:00 鳥農見学		9:00 カード作成・まとめ
10:30	テント設営				
11:30	チーム作り		12:00 昼食		12:00 昼食
12:00	昼食		13:00 今までのまとめ		13:00 後片づけ・退所式
	各チームごとに考える		カード作成		13:30 出発
			スポーツ		14:00 博物館
14:00	花絵作成		16:40 連絡会		成果発表
			17:00 夕べのつどい		閉講式
16:00	食事用意		17:30 夕食		16:30 解散
17:00	夕べのつどい		18:30 手品		
19:00	キャンプファイヤー		天体観測・映画		
	?		20:30 随時入浴		
21:00	ミーティング				
22:00	就寝		22:00 就寝		

- ※ 第一日目の昼食はこちらが指定した物を各自に用意させる。
- ※ “ ” 夕食はこちらが予算を与え、材料は当方が用意し、買物から料理まで全てを各チームにまかせる。
- ※ 雨天の場合は、キャンプファイヤーをキャンドルサービスに、天体観測を施設見学に変更

「いなばっ子スクールで感じた事」

神戸小 5年 有田 隆史

8月の8・9・10日は、「いなばっ子スクール」で、2泊3日他の学校の人たちといっしょに宿泊しました。この「いなばっ子スクール」は、夏休みの楽しい思い出になりました。

8月8日の午前9時ごろに、博物館前をバスで出発し、サイクリングターミナルに行きました。バスの中は、みんな知らない人ばかりで、「この人たちと、うまくやっていけるのだろうか。」と、心配になりました。「だれか一人でも知っている人はいないかな。」と探していると、同じグループの徳本君がいたので、声をかけてみました。

ぼくが、この「いなばっ子スクール」に来て、一番楽しかった事は、キャンプファイヤーでした。みんなが火をかこんで輪になって、唄を歌い、ダンスをし、花火をして、楽しみました。

キャンプファイヤーが、出来てほんとうによかった。ぼくは、キャンプファイヤーは初めてで、キャンプファイヤーがどんな物か本やテレビでしか、見た事がないので、キャンプファイヤーをやれてとてもうれしかった。

いなばっ子スクール第2日目にあった座禅では、座禅を1時間半もやるかと思って心配していたし、座禅中にたたかれるんじゃないかと思い、こわかった。

第3日目の地引網では、ブリ・タイ・イカなどがとれたけど、量が少なかったのが残念です。

「いなばっ子スクール」は、学校と比べると、楽しくて、「いなばっ子スクール」が、学校だったらいいなと思った。けれど、家と比べると母の仕事を自分でしなければいけないので、親のありがたみ分かった。2学期からは、自分の仕事は責任を持ち、がんばりたいと思います。いろいろと、ありがとうございました。



野外で新聞づくり



わたし達が作った
花絵です



みんな
みんなで
まとめ
る

「いなばっ子スクールに参加して」

湖南小 6年 小林 みゆき

8月8日金曜日からいなばっ子スクールが行なわれた。第1回目なのでどんなものかわからず、ドキドキしていた。開会式が終わってからも、やはりまだきんちょうぎみだった。どこを見ても知らない人ばかり、友達になれるかなあと少々不安であった。だが、キャンプファイヤーが始まるとまるで、ずっと前から知っていたかのようにみんなと仲良くできたのだ。キャンプファイヤーでよかったのは、友達ができたということだけではない。歌を歌ったり、おどったり、花火をしたりしたのももちろん楽しかった。しかし、何ととってもよかったのは、友達ができたということだ。だから、1日目はキャンプファイヤーのおかげで楽しくすごしました。



思い出のキャンプファイヤー

2日目。印象に残ったのはせりだ。せりになると、私は自分がするわけではないのに、すごく楽しみになった。「200円、300円」あちらこちらから大きな声が聞こえてきた。私は、はじめは別にせりをやりたいわけではなかったのですが、やりたいとは思わなかったが、みんなのせりを見ていると、私もやりたいなあという気持ちが出てきた。やればよかったなとこうかいしたぐらいだ。G組はちょっぴり2,000円。2,000円びったし買えるとは思ってもいなかった。これにはさすがにおどろいた。やっぱりちゃんと計算して買ったんだなと感心したりした。

さあ今度はカード学習。難しいものと考えていたが、やってみると仲々おもしろかった。これは、決まった人が意見を言うのではなく、みんなが同じように意見を出していけるのだ。みんなの活発な意見を聞いていると、私も意見を出さなくてはいけないように感じた。何だか、言おうとしても他の人の勢いに負けてしまったというぐあいだったようだ。こういう学習を私は初めてやった。こういう学習だったら、いくらでもやりたい。



グループごとに成果発表

「お父さん、お母さん、ぼくたち貴重な体験をしました。」

学校でもこんな学習をやってみたいと思った。

さあよいよ3日目。あっというまに過ぎてしまった2日間。3日目も印象深いものだった。こんなに楽しかった3日間は初めて体験した。3日間一緒にくらしただ友だとも、もう別れるのだ。さびしい気がした。私は、このいなばっ子スクールでの友達の大切さや、2日間勉強したカード学習などを一生忘れたくない。そして3日間、お世話になったリーダー、サブリーダーそのほかのいろんな人達に感謝しなくてはならない。もし来年も来てもいいのだったら、また行きたいなあとは私思っている。

■「いなばっ子新聞」地元紙に全面掲載

日本経済新聞 昭和57年8月19日 水曜日 (6)

D チーム

先生がバカに力車といふ
いなばっ子新聞
美保球場での決戦
いなばっ子スクールの感想

みんなで作った 手作り新聞

いなばっ子スクール



手作り新聞を創り出すの喜び

A チーム

いなばっ子新聞
今

E チーム

いなばっ子新聞
今や電子ロケットのおもしろい
長あひのなま

取材—制作まで 一切やりとげる

いなばっ子スクール夢見者

いなばっ子スクールのメンバー

学年	名前
1年	山田 文和、山田 明子、山田 裕子、山田 美穂、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花
2年	山田 文和、山田 明子、山田 裕子、山田 美穂、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花
3年	山田 文和、山田 明子、山田 裕子、山田 美穂、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花
4年	山田 文和、山田 明子、山田 裕子、山田 美穂、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花
5年	山田 文和、山田 明子、山田 裕子、山田 美穂、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花
6年	山田 文和、山田 明子、山田 裕子、山田 美穂、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花、山田 穂花

B チーム

いなばっ子新聞
少女の姿 砂の歴史

ローカル鳥取

子供ら貴重な体験

JCの「いなばっ子スクール」

観光客アンケート
100人から聞きました

鳥取青年会議所が、今年「いなばっ子スクール」の写真を公開している。市内の二十七小中学校から参加した五、六年生男女四十九人の二百四日の写真が紹介されているが、今年「いなばっ子スクール」の活動を体験した子供たちが、観光客に「鳥取について」を直接アンケートし、貴重な体験を伝えている。

このスクールは、同会議所青年会議所委員 門田 誠が、八月七日から五日まで、

「いなばっ子スクール」の体験を通じて自分たちのふるさとを伝えようという思いで、活動の中心となった砂浜入口などの観光地を訪れた。

「いなばっ子スクール」の体験を通じて自分たちのふるさとを伝えようという思いで、活動の中心となった砂浜入口などの観光地を訪れた。

「いなばっ子スクール」の体験を通じて自分たちのふるさとを伝えようという思いで、活動の中心となった砂浜入口などの観光地を訪れた。

■参画団体

本年度で第5回を迎える本事業の実行については、我々鳥取青年会議所メンバーのみならず、鳥取参画クラブはまなす会（代表幹事・近藤延幸先生）、歴参会、市社会教育事業団、市教育委員会、鳥大児童研究会、その他多くの方々の献身のご協力により、よりすばらしい事業にさせていただきました。

■第4回までのあゆみ

	第1回	第2回	第3回	第4回
年 度	昭和55年	昭和56年	昭和57年	昭和58年
理 事 長	水 野 一 水	縫 谷 昌 生	尾 崎 義 人	安 田 晴 雄
実行委員長	松 岡 正 樹	熊 田 一 隆	福 本 登	門 田 成 男
参加児童数	49名	51名	57名	54名
予 算	647,000円 (内J C 40万)	703,000円 (内J C 40万)	828,000円 (内J C 45万)	710,000円 (内J C 45万)
開催場所	砂丘サイクリングターミナル	鳥取少年自然の家(桂見)	佐治村青少年旅行村	砂丘こどもの国

■褒賞受賞

1980年に始まった本事業が、着実に成果をあげていることに自信を得たわれわれ鳥取青年会議所は、1983年本事業を褒賞「規定部門賞」A、会頭重点テーマ推進賞、「地域を担う青少年の育成」賞の部門に申請することを決意、早速褒賞プロジェクトを設け、アルバム作成に取り組んだ。

その結果、中国地区協議会に於いて最優秀賞を受賞するとともに、何と、日本青年会議所に於いても優秀賞に輝いた。

我々メンバーはこの榮譽により、本事業の自信をさらに深めるとともに、これに驕ることなく、今後もわが郷土の明日を築くこどもたちの健全育成のために、力を注いでいくことを誓った。



目に涙を浮かべ優秀賞を掲げる
安田晴雄理事長と松岡褒賞プロジェクトリーダー
(昭和58年秋田全国大会にて)

■地域への波及効果

第1回より、市教育委員会の後援、協力を得て市社会教育事業団より10万円～15万円の補助金を頂いている。事業PRはNHK、地元新聞社2社を協力団体としている。

また、このスクールを契機としてJ Cメンバーの教育への関心が高まり、例会、委員会での教育講演、非行、家庭教育、社会教育の研修が頻繁に行われるようになった。こうした中から、専門的研究と事業的発展を望む声は年々高まっており、次代の鳥取を築いてゆくいなばっ子たちへ熱い視線がなげかけられている。

担当 熊田一隆・児島 均

memory
tottori
junior
chamber



●ワークマンキャンプ



●ワークマンキャンプ



●施設の訪問



●施設の訪問

memory
tottori
junior
chamber



9月30日日 (小雨決行 雨天延期)

●集合時間 9時30分 ●集合場所 市役所



●チャリティーウォーク



●チャリティーウォーク



●チャリティーウォーク



●施設合同ピクニック

memory
tottori
junior
chamber

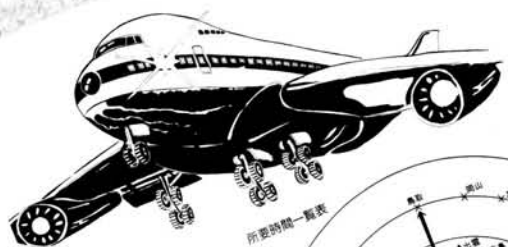
● 対外広報



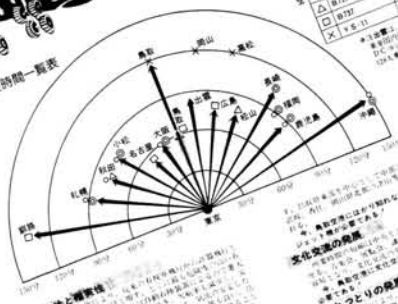
社団法人 **鳥取青年会議所**

ジェット化の早期実現をめざして

鳥取空港を考える



所要時間一覧表



● 東日本航空での全日本航空スケジュール（概略）

目的地	機材	所要時間
東京	JR7	2時間30分
大阪	JR7	3時間30分
名古屋	JR7	4時間00分
福岡	JR7	5時間00分
札幌	JR7	6時間00分
仙台	JR7	4時間00分
東京	JR7	2時間30分
大阪	JR7	3時間30分
名古屋	JR7	4時間00分
福岡	JR7	5時間00分
札幌	JR7	6時間00分
仙台	JR7	4時間00分

昭和53年度、全日本航空料による

路線	機材	所要時間
東京-大阪	JR7	2時間30分
大阪-名古屋	JR7	3時間30分
名古屋-福岡	JR7	4時間00分
福岡-札幌	JR7	5時間00分
札幌-仙台	JR7	4時間00分
仙台-東京	JR7	2時間30分
東京-大阪	JR7	2時間30分
大阪-名古屋	JR7	3時間30分
名古屋-福岡	JR7	4時間00分
福岡-札幌	JR7	5時間00分
札幌-仙台	JR7	4時間00分
仙台-東京	JR7	2時間30分

昔、鳥取（若狭）とつながり、深い山と歴史文化をたたき出した。山を越え、海を渡る。交通の便は、地域の発展を促す。現在、鳥取空港以上の期待が寄せられる。

大きなジェット化の勢

81 SUMMER
郷ひろみ
注目のステージ

国際障害青年・鳥取県政100年協賛
社団法人 鳥取青年会議所

HIROMI
郷ひろみチャリティーコンサート
GO



後援/鳥取県



● 郷ひろみ施設訪問(積善学園)

memory
tottori
junior
chamber



●講演会



●講演会



●講演会



●講演会

memory
tottori
junior
chamber



●夢現展(いなほ25万人のであい)



●夢現展(いなほ25万人のであい)



●行革 市議会傍聴



●手話勉強会



●しゃんしゃん祭

memory
tottori
junior
chamber



○しゃんしゃん祭



○しゃんしゃん祭



○しゃんしゃん祭

memory
tottori
junior
chamber

●海での家族会

●海での家族会



●山での家族会



●山での家族会

memory
tottori
junior
chamber



●野球部



●じゃがいもクラブ



●バレー部



●青雀会

memory
tottori
junior
chamber

●シニアクラブ設立総会

(株)鳥取青年会議所シニアクラブ設立総会



●新年祝賀会



●アフター例会(ビール早飲み)



memory
tottori
junior
chamber



●エール交換「JC諸君、チューモク！」



●卒業式



●クリスマス家族会



事業史

社団法人鳥取青

1959~

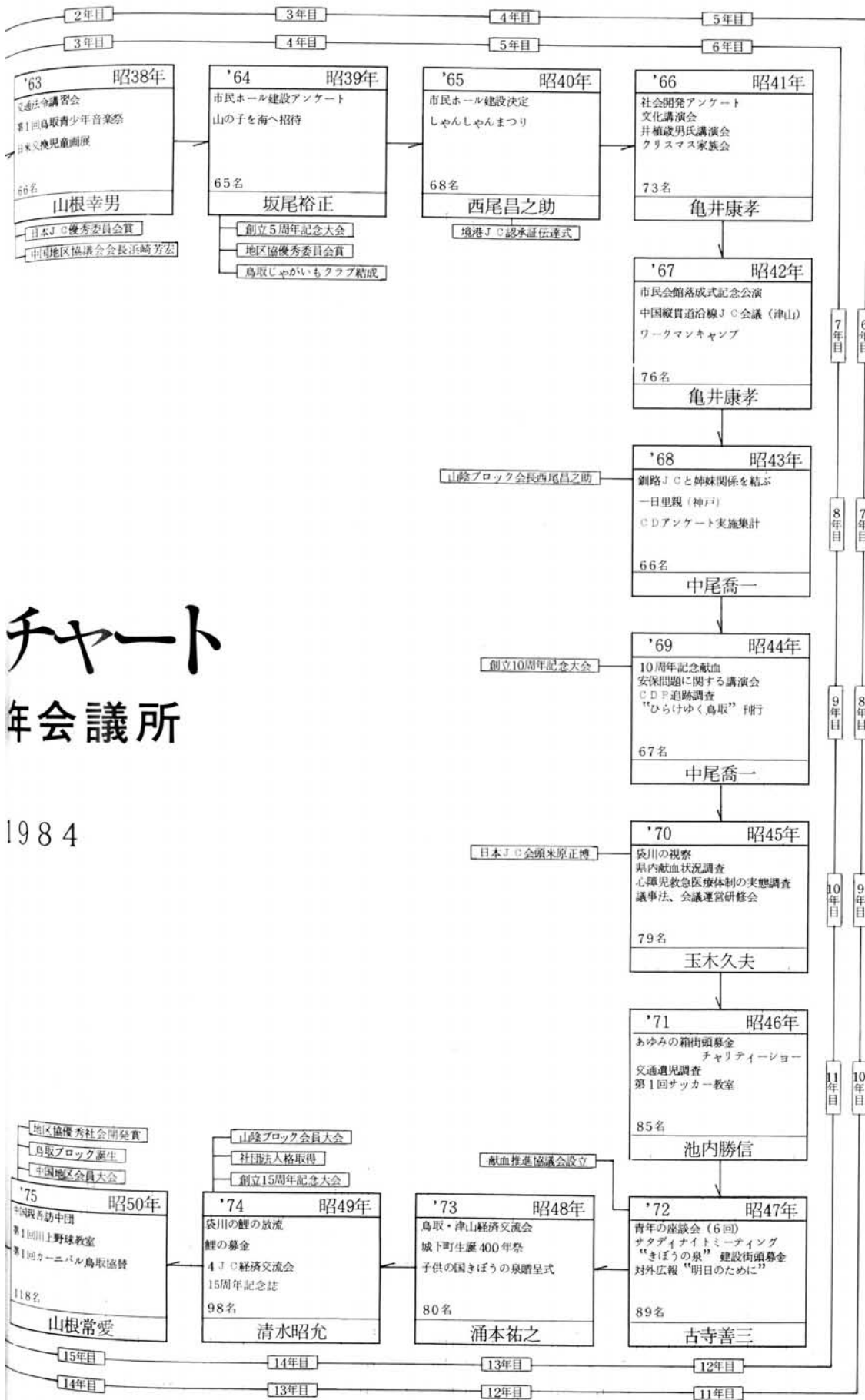


チャート 年会議所

1984

収支決算統計表

年度	会員数	収入決算	事業費 (例会活動費除く) 分科団体費	事業費 比率	年会費	入会金
1959	47	489,559	250,000	51%	6,000	2,500
60	55	671,033	134,231	20%	8,400	2,500
61	59	1,157,446	445,272	38%	12,000	3,500
62	60	1,178,412	442,822	38%	12,000	5,000
63	66	1,383,592	422,565	31%	14,400	5,000
64	65	1,883,380	680,000	36%	20,400	10,000
65	68	2,129,999	620,096	29%	20,400	10,000
66	73	2,158,093	626,135	29%	20,400	10,000
67	76	2,617,168	616,499	24%	20,400	10,000
68	66	2,863,479	645,431	23%	26,400	10,000
69	67	2,797,913	912,979	33%	26,400	10,000
70	79	3,951,866	1,264,825	32%	36,000	15,000
71	85	702,906	1,256,264	34%	36,000	15,000
72	89	5,314,250	2,104,956	40%	48,000	15,000
73	80	4,949,074	1,630,316	33%	48,000	15,000
74	98	7,726,389	1,813,570	24%	60,000	30,000
75	118	11,441,216	1,888,478	17%	60,000	30,000
76	104	11,295,152	2,909,985	26%	80,000	30,000
77	95	10,496,826	3,000,918	29%	80,000	30,000
78	98	9,451,106	2,736,061	29%	80,000	30,000
79	104	9,846,688	2,371,746	24%	80,000	30,000
80	103	9,762,884	3,077,507	32%	80,000	30,000
81	109	11,692,980	3,283,923	28%	100,000	30,000
82	109	12,720,440	3,773,001	30%	100,000	30,000
83	109	12,795,059	4,245,198	33%	100,000	30,000

Message

MESSAGE



金田 文夫

(37年卒)

鳥取県東部自動車学校
鳥取市松並町3-122
鳥取市上町 24

理事長
23-3111
22-2615

日本経済が、ようやく復興期を迎えた時期であったが、まだまだ後進的な地域でもあり若い経済人の友情の場、修練の場、地域社会に役立つ場を作って行こう、と言う気運が生まれた。その様な中で昭和34年、鳥取にもJCを誕生させる事が出来た。例会は昼例会とし全国的にも東京と鳥取のみであり独自のメリハリある会の運営を目ざしながら一方、創立時でもあり親睦にも努めた。池田隆政夫妻、裏千家の千宗室日本JC会頭等、争々たる人達を迎え楽しい、かつ厳粛なチャーターナイトであった。2年間理事長を務めたが、ロムに於いては社会奉仕の心を育む意味の若桜橋の親子時計、又事故標示板の設置、更に中国地区副会長として3年目には津山JCとの「海の子山の子交歓会」青少年と共に又、少年野球等の事業が想い出深い。その他日本JC定款作成委員としてつとめ様々な人々とのかかわり、出会等、今ではなつかしい。想い出は楽しく美しいものである。過去を省りみ、現在を楽しみ、将来を考えたい今日この頃である。

インタビュー 大呂 隆則



石黒 松雄

(38年卒)

鳥取造船工業㈱
鳥取市浜坂 1390-336
鳥取市賀露町 1042

代表取締役
28-7117
28-0012

私は、JC設立チャーターメンバーとして入会しました。当時会員47名にてのスタートでした。その頃は委員会数も少なくこじんまりとしておりましたがひとたび事業がはじまると、全員一致団結して活動したように思います。又、それぞれがお互いを尊重し、認め合い、大いに語り、飲み明かしたもので有りました。そういう意味では、あの当時は今よりJCとしての団結力は強力なもので有った様に思います。私自身のJC生活は短期間でしたが、多くの友人を得る事が出来、貴重な財産となりました。今でもその当時の仲間と会いJCの昔話に花を咲かす時が有ります。又、当時、私の担当していた委員会が、地域の経済問題に取り組み、その研究成果が認められ、日本JCより表彰されたことも忘れられぬ一つの想い出として残っております。とにかくあの頃の私の目には、全ての活動、見る物一つ一つが新鮮に映った事を今でも鮮明に覚えております。最後に私にとって、JCは「青春の素晴らしい一ページ」で有ったと断言出来ます。

インタビュー 福本 登



近藤 弘司

(38年卒)

㈱大成サービス
鳥取市富安1丁目 106
鳥取市永楽温泉町 505

取締役
24-8228
26-0418

いわゆるチャーターメンバーで4年間在籍させて戴きました。第3代濱崎理事長時代は副理事長、第4代濱崎理事長時代は総務委員長を経験させて戴いて卒業致しました。

現在の鳥取JCもそうだと思いますが、大変に感謝しておりますことは、非常に結束が固かったことでした。意見は百出しても、一旦決定しましたら全員がその目的に向かってチームワーク良く行動したことです。総務委員長時代に最も強く意識したことは委員会活動の活性化と親睦(和)の二本柱でした。あの頃で最も思い出深い事業は少年野球ですが、もう一つ挙げるとすればそれは濱崎3代理事長の時のクリスマス家族会です。創立3年目にして各委員会単位で模擬店を作って開催致しました。濱崎理事長・池内副理事長と私の3人は、バー「ボス」です。自分でシェーカーを振って色とりどりのカクテル・フィズを作りましたのが今でも楽しい思い出です。

インタビュー 植木 聡

MESSAGE



坂尾 裕 正

(39年卒)

八東林業合資会社 代表取締役
八頭郡八東町才代47 (085884)2016
同 上 同 上

J Cでの思い出は色々ありますが、近年になってうれしく思った事があります。それは20年前の理事長の時、「東部地域総合開発計画」を梨原経済委員長(当時)のもとで、計画立案した事です。8項目からなり、その中でも、◎東部山岳地帯の開発と道路整備について…島田氏担当。◎氷ノ山の総合開発計画…武田氏(現若桜町長)担当。が今となつては深く印象に残っております。そして、その年、氷ノ山・扇ノ山を中心とした東因幡林道が着工され、約20年を経過して完成しました。今後は、林道としてのみでなく、まわりの自然を利用した観光開発といった事も、現役の皆さんに考えていただければ幸いです。最後に、広留野を歌った詩を披露させていただきます。

八 楽 吟 (やがくぎん)

早暁日を賓えて翠樹を愛し 散策清息調身の習朱を研り書を読む経世の学
汗を揮って畠を耕す社稷の業
閑に遊ぶ仙境大鹿の滝 悠々吟詠師友と親しむ果酒軟玉時事を談じ 肅風済々
黒甜を楽しむ

インタビューー 太田 義人



小 田 信 夫

(39年卒)

小田小児科医院 院 長
鳥取市西町 3-117 23-3168
同 上 23-0183

20年も前の先輩(華奢な感じがする)が第一線でテキパキと活動されているのは嬉しい限りである。J C時代の思い出には、長尾さん(米子市在住)と組んでのアメリカ・オハイオ洲アクロンJ Cとの絵画交換、「鼓の女」の日ノ丸劇場での上演成功、行徳にあった体育館での小・中・高等学校生徒の合同吹奏会主催等があるが、それよりもその時代のメンバーにどこであっても、声をかけられる事が嬉しいといわれる。

大阪育ちの先輩が昭和36年、突然に知人も友人もない鳥取に住むようになり、入会をと声をかけて下さった池内さんには今も感謝しているし、又、医学部の医局生活からポッと社会に出て、J Cでは色々な意味でSelf-Trainingさせていただき、ところてん式になられたとはいえ、現在医師会の理事を務められるのも、その頃の経験の賜だと思ふといわれた。

ユーモアたっぷりの先輩のお話をうかがい楽しい一時をすごさせていただきました。
インタビューー 谷本 真一



梶 田 真 輔

(40年卒)

鳥取信用金庫 常務理事
鳥取市栄町 645 23-2411
鳥取市吉成 95-13 23-4635

◎創立当時のこと……昭和34年1月の創立総会に、米原章三翁・児嶋卯吉翁・入江鳥取市長といった大御所が親しく臨席されて、論語にソクラテス、福沢諭吉の『学問のすすめ』といった引用があり、格調も高いお話でJ Cの船出を祝ってくださいました。

◎J C活動では……毎年の夏、小さい体に大きなファイトを燃やす少年野球は、J Cが草分けです。36年だったでしょうか、役所と掛けあいやっと開催に漕ぎつけましたが、全くの手造りの大会で、みんなで炎天下若い汗を流しました。

◎後輩にひとこと……20代から30代、社会的な土台が目に見えて築かれていく年代です。この時期にJ Cに参加して、心も体も燃やすことは、生涯にかけがえのない価値あることです。

インタビューー 石井 秀樹

MESSAGE



松下 弘

(41年卒)

中央印刷株式会社 代表取締役社長
鳥取市南栄町 34 53-2221
鳥取市東今在家 72-4 23-8732

正式には初めてお会いさせて頂く方ですが、松下総務委員長の御父上ということで気楽にインタビューをさせて頂きました。以下松下弘OBのJC論を語ってもらいます。

(思い出) 在籍年数が短いため事業活動が少ないなかで印象深いのは認証式の準備、少年野球への情熱である。また会員開発委員長のときに仮装して行ったクリスマスがなつかしい。よく酒を飲んだ時期があり、酒の上での失敗談もあるように記憶している。また形式やら体裁を嫌う私が戴いた称号は「楽な姿勢家元」であった。

(JCメンバーへ一言)

「若い我等」の歌の中で「JCの仲間は皆信じあう」の一節があるが、お互い所属している社の都合もあるが、せめてメンバー内の交際については利益導入のない、欲のないつきあいが好ましい。信じあえる友を多くつくりなさい。

インタビュー 山崎 安造



橋本 博夫

(41年卒)

橋本呉服店 代表取締役
鳥取市職人町 36 22-4286
鳥取市桶屋町 18 24-1054

○月○日、若桜街道にある橋本OBのお店をお訪ねしました。かっぶくのいい、温厚なお人柄のOBで、インタビューの間、終始笑顔でお話して下さい、つい先輩である事を忘れる時さえありました。さて、橋本OBのJC入会のきっかけは、その当時まだめずらしい自動車事故だったそうで、事故の際いろいろとお世話されたのがJCのメンバーで、その時以来いつの間にか入会されていたとか。良きにつけ、悪きにつけこれがJCとの出会いだったそうです。

少年野球、CD活動と沢山思い出はあるそうですが、中でも車をつらねてよく米子までさかなつりに行かれ、さかなをつまみに又、酒をつまみにJCの事業の事を話し合われたそうです。

最後にOBより一言。「時風に合った今風の活動を今後期待します」

インタビュー 瀧本 紀晴



中川 清路

(41年卒)

中川酒造合名会社 常務
鳥取市立川町2丁目305 22-4168
鳥取市吉成 1055 22-0891

中川清路OB、中川酒造常務として、また、ジャズダンス、スペイン舞踊、社交ダンス(鳥取でもトップクラス)、ピアノ(6/16 文化ホールにてショパンを演奏予定)と仕事に趣味に御多忙な毎日を送られている。中川OBにJC生活の思い出を語っていただいた。

『私は倉吉JC設立が一番の思い出で、当時私は、倉吉JC設立委員として日夜努力した。一生の友、谷口充君(倉吉JC・元理事長)を知る事も出来た。私はJC生活をふり返って見て、もっともっと他のロムを知りたかったし、例会も見なかった。JCはほんとうに良かった、楽しかった、入会してよかった。私は今でもJCの炎が、燃えています』

中川OBありがとうございます。中川OBの情熱が私にも伝わってまいりました。仕事に趣味に御活躍ください。

インタビュー 中河 秀樹

MESSAGE



嶋田 穰

(41年卒)

山野商事㈱ 代表取締役
鳥取市商栄町160-4 23-5555
鳥取市西町3丁目507-1 22-2587

「鳥取」J.C生活での思い出について」 夏の暑い日の少年野球大会の開催です。1日中太陽の下での活動、これは本当に大変でした。

朝6時から夕方7時頃まででしたが、大会が終る頃にはもうくたくたでした。でも終わってからみんなで飲んだビールがとてもうまかったです。もう一つは子供絵画展です。これは海外交流がありましたので絵を集めるにも大変苦勞しました。それから岡山大会の時でしたか、思いがけない人たちと出合っぴびっくりしました。「あなたもJ.Cに入っていたのですかあ。」なんて言って話はずみ朝まで語り合いました。こんな事があるものだから本当にJ.Cに入っていてよかったなあと思います。今でもこうしてたずねて来てくれるので、人間関係がどんどんと拡がっていくのがうれしくてたまりません。

最後に、「人間性への信頼こそすべての国を結ぶきずなである」ことを忘れずにより以上の活躍を願ってやみません。

インタビューー 刈込 晴彦



山本 兼由

(41年卒)

鳥取タイヤ 代表
鳥取市南吉方2-3 26-2131
鳥取市今町1-113 24-0751

私はチャーターメンバーの1人で、当時は50人位のメンバーでした。世界中の景気が良い時で、2世の集まりだとか、ボンボンの集まりだとか言われましたが、熱血漢がたくさんおられまして、事業活動は大変真面目に取り組んだことを記憶しています。例会是昼間行なわれていて、私の様な仕事をしている者には出るのに困難を究めました。よくメーカーに行っったものです。メンバーは少なかったのですが、よくまとまっていたものです。話を聞けば、現在会員は100余名と聞きます。数が多いと何かと弊害が出るものです。ここらへんで、鳥取にもう一つJ.Cを作ってみてはどんなものでしょうか。ぜひ実現させて下さい。

在籍は5年程でしたが、そのころの人間関係が現在も持続しています。人間生きて行く上で男同志の友情ほど深いものが他にありましようか。今後共よろしくお願い致します。

インタビューー 平田奏一郎



山根 幸男

(42年卒)

鳥取マツダ自動車㈱ 代表取締役専務
鳥取市今町2-382 22-7211
鳥取市西今在家67-2 53-1004

創立間もなく仲良しクラブの雰囲気があり仲間意識が大変強い、古き良き時代であった様に思う。この年は浜崎君が、中国地区協議会々長をやった年でもあり、あっちこっちとよく飛び歩きました。又この創立間もない小さな鳥取から会長を出した事により我々自身に自信の様なものが出来た年でもあった。当時はまだ人数も少なく内部の充実と、お互いのつながりを強固にすると言う面が強かった様に思うし、自分自身のトレーニング、修練が柱となっていました。

しかしながらJ.C運動の限界も目につき始め、「J.Cと政治」「政治力」の必要性、関わりが生じたのもこの頃からであり、青年会議所から押す議員の誕生に至った。又それは外へ向っての運動の必要性を感じさせる胎動でもあった。楽しく愉快なJ.Cでもあったが、中でも友達の熱いつながりによる思い出は深いものがあり、卒業してかなりになる今でも、楽しく大きな財産である。

インタビューー 大呂 隆則

MESSAGE



小 谷 種 夫

(42年卒)

㈱ 小 銭 屋 常務取締役
鳥取市永楽温泉町 651 23-3311
同 上 同 上

インタビューー 墨土 功一

J Cを卒業したのは昭和42年で、もう17年も経ちました。私が在籍した当時のJ Cは、メンバーが現在の半分程度であり、確か鳥取大丸の3階で例会をしていました。会は親睦会だけでなく、リーダーシップトレーニングにつながり、楽しく見聞が広まりました。他に家族会、クリスマス会等が有り、白兎会館でバーベキューパーティーなどが行なわれていました。松江で大会が催された帰りに大雨で崖が崩れて立ち往生した経験があります。

現在思えることは、20代迄は地域の友人が主体であります。J Cは30代であり、ザックバランに付き合える友人であり、商売上ではこうは行かないと思います。この世代は柔軟性があり、遊ぶことにしろ、聞くにしろ、全てが目新らしく、大人の社交的な場でもあり、勉強の場でもありました。職種の異なる人々と触れ会えて良い経験になったと思います。



亀 井 康 孝

(42年卒)

㈱ 亀 井 堂 専務取締役
鳥取市徳尾 122-1 22-7293
鳥取市西町1丁目 202 24-4013

インタビューー 山本 洋

チャーターからのメンバーの1人として、6年間J Cを過ごした。今では見られなくなった様だが、初めから飲みながらの委員会も、めずらしくはなかった。しかしメンバーのまとまりは「バツグン」で、当時は、青少年系、社福系が、入りこんでの事業が多く、コップを片手に論議した事が思いだされてくる。創設期であるから、色々な考えも飛びだし、事業も少数メンバーの割には多彩であった。特に青少年系の事業が多く、私の心にも強く残っている。

J Cにいて、一番私に残ったものは、多くの友人に恵まれた事で、今も私の財産となっている。色々な団体のある中で、J Cに居た事を誇りに思い、OBとなった今でも、まじめに取り組むなら青年会議所が一番だとも思っています。25年の歴史を作り上げたJ Cをうれしく思い現役メンバーの30年に向けての一層の活躍を願っています。



武 田 吉 造

(43年卒)

若 桜 町 役 場 若 桜 町 町 長
八 頭 郡 若 桜 町 若 桜 801-5 2-1111
若 桜 町 湯 原 190(08588)2-0220

インタビューー 太田 義人

J C当時の思い出としては、月々の例会が楽しかった。特に例会後、数人でコーヒーを飲みながらの会話が楽しく、例会に出席するのが心待ちであった。

事業としては、やはり少年野球が印象に残っており、良い経験をさせていただいた。現在は、政治に携わっているわけですが、当時の高田鳥取市長(故人)とJ Cメンバーとが、市長室でかなり長い時間懇談した事が思い出されます。さまざまな分野の話題が出ましたが、今でもよく記憶している話は、青少年の健全育成について「自分の子供を人間的に育てろ、点数のことをガミガミ言う前に、自分自身の学生時代の事を考えろ。」と言われた事です。20年以上も前に言われた事が、今の事のように思われます。

その他にも思い出話はありますが、次回という事にさせていただきます。

MESSAGE



山村 明

(43年卒)

㈱サンメイト 代表取締役社長
鳥取市興南町 33 22-1400
鳥取市南吉方1丁目84 23-9594

1961年入会され(浜崎芳宏理事長当時)、推薦者は金田文夫氏である。入会の動機は明確ではないが、いつの間にか入会させられていたと聞く。車購入の際、推薦者との関係からか? 出身地は大阪市阿倍野区。大学卒業後、鳥取にまるで異国に来た様であり、仕事以外での友人をJ Cで得れたと述べられている。県外人=よそ者としての悲哀もあった様であるが、それも楽しい思い出として残っている。真の鳥取人にはなかなかないが、鳥取人になる為の教育を受けられたと語られる。氏は心のふれあいを座右銘とされておられ、酒もその銘のごとくJ C時代に少々たしなむ程度であったと聞かすが、肝臓を痛める程にたしまれたとはどの程度であろうか。J C時代は矢張り少年野球が幅をきかせていた様であり、ウグイス男として活躍されたと述べられる。又、大変鳥取経済界を思われ愛国の士の面影をみたり、若者は若者らしく遠慮せず堂々と夢を述べ、崇高な理想をかかげて、古い殻を打ち破れと激励を受けインタビューを終わる。

インタビュー- 安田 晴雄



山根 秀治

(43年卒)

㈱鳥取銀行 本店公務部長
鳥取市弥生町 323 22-8181
鳥取市吉方温泉町3-815 22-5231

私は、昭和37年に事業所継続ということで当時の前任者北村淳君の替りとして入会させていただきました。入会以前はJ Cを金持ちのジュニア会的な団体にしか思っておりませんでした。いざ入会してみますと皆が事業に本当に真剣に取り組んで活動していらっしゃる。外と内から見るとは大違いだなと思いましたが、自分自身の交流関係も大いに広がり非常に良い勉強をさせていただきました。施設合同運動会、施設の訪問等、子供達と楽しく遊んだ事がある。たいへん印象に残っています。又、昭和39年頃でしたか中海までJ Cでハゼ釣りに行ったことがありますが、雨も降っているし参加者が少いとかで、強行派に無理矢理連れ出され、魚も全然釣れなくて船で酒ばかり飲んでいましたが大根島から東松江附近まで移動したあげくやっと釣れ出し、皆気分をとりなおして帰りには境港の生田亭でおいしい酒を飲んで帰ったという、そんな楽しい思い出もありました。

インタビュー- 山田富士雄



由谷 圭介

(43年卒)

由谷商店 店主
鳥取市川端 4-129 22-2916
同上 同上

今年、鳥取青年会議所が25周年を迎えます事は、本当におめでたい事だと思います。日本では「10」とか「5」の倍数の年を祝いますが、国際的に見ますと、「クォーター」と言って「25」の倍数の年を祝う習慣があります。鳥取青年会議所も、国際青年会議所の一員として、一つの節を迎えたと言えましょう。私が会員の頃、神戸にあるカトリック系の少年施設で「少年の町」の子供達を鳥取へ招待した事があります。私の家でも1人お世話をいたしました。当時は社会福祉に対して今程関心は高まっておらず、印象に残る事業でした。鳥取J Cも出来た頃は、委員会も「総務」「社福」「修練」「会員」の4つだったと思います。J Cをだしにして、外出した事もあった様ですが、創立時代の情熱を、今後とも持続され、今後の発展を祈念いたします。

インタビュー- 西本 昇一

MESSAGE



梨原 巖

(43年卒)

㈱鳥取読売 代表取締役社長
鳥取市行徳ろ313 23-1831
鳥取市湯所町1-536-1 23-3490

非常に多忙にしておられる先輩です。電話しても不在のことが多く、一週間目にインタビューすることが出来ました。親子ほど歳の違う先輩ですが、我々以上に朝から夜中までエネルギーに活動されているのを知り、頼もしく、私も頑張らねばと思いました。青年会議所在籍8年の中で一番心に残っている事は、1963.64年の山根理事長、坂尾理事長時代に経済委員長として、市民会館建設の為、青年会議所内に特別委員会を設立し、岡山、玉野の市民会館を視察し、鳥取市の市民会館を2,000名収容にして欲しいと提唱したが、今の規模になったことが残念でならないとの事でした。先輩の仕事(マスコミ)柄、1年365日が仕事で、最近いつ休日をとったか忘れてしまったと言われました。

会議所時代から人間関係を大切にし、自分から進んで友人作りをしてきたがそれに伴って趣味も増えてきて、中でも書道が一番とのことでした。今、息子さんが会議所で活躍中です。若者は行動的で、とにかく、体を動かさなければいけないとお話でした。

インタビューー 谷本 真一



山本 富二

(44年卒)

㈱マツヤ・サンヨー 社長
鳥取市立川町5丁目45-1 24-0886
同上 27-6359

私は8期の卒業で、チャーターメンバーではなかったが、割と早くから入会させてもらった。動機の一つは自分の商売を伸ばしていく上で不可欠な鳥取の人脈を探ろうとしたことであつたように思う。当時のメンバーは非常に真摯で、自己の修練を土台とした社会開発運動、わけても敗戦の痛手と混乱を経て生まれてきた子供達をどうするんだといった青少年に対する活動にそれは真剣に取り組んだものです。

少年野球で、各企業に帰れば多くの人間を使っている人が自らグラウンドのタバコの吸殻を拾っている姿を見て私は教えられました。青少年委員長当時、OAA(青少年の野外活動運動)の視察で涌本、足立君達と神戸へ行ったことや、サンヨーの井植歳男氏を招いての講演会開催のため走りまわったり、思い出は尽きません。特に10周年の実行委員長をさせて戴いたことはよう忘れません。いろいろな方に大変お世話になりました。

インタビューー 熊田 一隆



石本 博美

(44年卒)

中央印刷株式会社 代表取締役専務
鳥取市南栄町34 53-2221
鳥取市元魚町1丁目203 22-7568

JCの思い出で最高のものは友情である。そんな気持ちが、言葉の端々にまで感じられました。昭和42年の秋、青少年委員長として、ワークマンキャンプを行った時の事も楽しそうに話して頂く。

荷物運びの為にはジープが予定してあつたものが、大木が道を塞いで通れず、氷ノ山の山道を、委員みんなで運ばれたそうです。参加者百名と運営のJCメンバー分の食料と燃料、それにテント等ですから重かつた事だと思います。時の理事長の中尾OBは、テント三張りに食料品2包みを持って登られたそうです。言われませんでした。石本OBも委員長としてかなり重荷だったと思います。大変苦しかったと言われました。その時に、委員会メンバーはじめ、委員会でない方々にも大変世話になったと、そういう友情と協力があつて何とか無事に事業が終わつたと。今後ともJC時代の人間関係を大切にしたいという一言でまとめられました。

インタビューー 松下栄一郎

MESSAGE



鎌田 悟一郎
(44年卒)

鳥取市大覚寺 183

22-3697

J C 3年目にして「第1回少年野球」を、青少年委員長として運営された事、「海の子、山の子交歓会」として、鳥取の積善学園と津山の施設とで相互に開催。鳥取は海上保安庁の船上、津山は鶴山公園で開かれた事。

積善のひなまつりに第1回目の訪問。さすがにチャーターメンバー。思い出の多くは仲間と一緒に事業を創り出していく過程そのものです。

大学を卒業後鳥取へ帰り、商業関係者6人、工業関係者6人でJ Cの設立に向かい、47名で出発。異業種同士の仲間が、30代という人間形成期に知り合い、和を拡めて高め合っていく。そして成熟期を迎える前に卒業していく。

J Cで中途半端でない友情を得て、本当に良かった。豪快な声で続けられます。

石油ショック後の経済は厳しいから、経営者であるJ Cメンバーは勉強を続けていく事も大切だ。暖かみと厳しさの混じった激励を最後に頂きました。

インタビューー 松下栄一郎



濱崎 芳宏
(44年卒)

濱崎芳雄商店 代表取締役社長
鳥取市川端4丁目202 23-2011
同上 23-2659

県議会開催中のお忙しい中、御時間を頂きお話を伺いました。J C生活の思い出をお聞きしますと、国際会議に数多く出席したことが楽しくもあり、又、人間形成の上で大変勉強になったとおっしゃっています。お聞きすればJ Cの国際会議に10回程出席していらっしゃるのか。そして、さすがと感心致したのは、その半分位は奥様と御一緒だったとか。特に世界会議などは独身よりも夫妻で行く方が非常に待遇が良いということも教えて頂きました。さらに、たくさんのお話を伺いながら正に鳥取J Cの基礎を固められた方だと思いました。今でも継続している施設合同運動会、そして、今は実質的には鳥取J Cの手は離れていますが、少年野球大会などでの役所との折衝など大変苦勞されたようです。鳥取J Cの得意とする分野、つまり青少年と福祉は、この伝承であると言っても過言ではないでしょう。先輩の情熱を感じながら楽しくお話を聞かせて頂きました。お忙しい中、ありがとうございました。

インタビューー 竹内 敬雄



三谷 守
(44年卒)

鳥取グランドホテル 代表取締役
鳥取市吉岡温泉町657 57-0311
鳥取市吉岡温泉町329 54-0312

私は、岡山から鳥取に住む事になり、囲りには友達がいなかった。そこでJ Cへ入会し、積極的に事業なり、夜の行事にも参加し、自分から進んで友達をつくった。そのおかげで、昭和4年組で、タイガースというOB会を作り、現在でもお付き合いをしています。

J C事業については、市民会館建設の為、「くるみ座」という劇団を呼びチャリティーを行なった事、又、山陰ブロックの西尾会長のもとで幹事をし、中国管内を自分の愛車で飛びまわり365日中、200日は家を留守にした事等々です。

諸君、J Cマンの活動は義務で出席するのではなく、自分で進んで参加しなければいけない。又、カッコウだけではだめである。J Cマンは、リーダーシップをとるのはあたりまえだけど、将校でも兵隊でもない。軍曹であるべきではないか。

インタビューー 太田 泰裕

MESSAGE



西尾昌之助

(44年卒)

㈱洋服センターニシオ 代表取締役社長
鳥取市戎町 410 22-3136
同上 同上

J Cの思い出で特に印象に残るのは、少年野球大会である。あの炎天下の中、5日間ぶっ通しの開催であった。大会運営をはじめ、審判等すべてJ Cでとり行なった。もっとも野球ルールを熟知していないものが審判をするものだから珍プレーならぬ珍審判であったように記憶する。理事長当時としての事業としては、市民会館の建設に関する促進運動の展開。しゃんしゃん祭りへの初参加等があげられる。山陰ブロック協議会々長の任務を果たしたことも大変思い出に残る。当時は日本J C会頭の公式訪問は無く、プロ長が会頭代理として公式訪問を行っていた。鳥取から益田J Cまで何度もなく車を走らせた。今となっては楽しい思い出だが、鳥根県は遠い所だとも思った。平田J Cが誕生したのはプロ長時代である。J C仲間では、三谷氏に大変お世話になった。京都からの帰り、雪の為タクシーが立ち往生して困り、トラックに便乗して2人で帰ったことも楽しい思い出である。

インタビューー 伊藤 学



但井源一

(44年卒)

㈱扶桑相互銀行 取締役審査部長
鳥取市栄町 403 22-2131
岩美郡岩美町田後 416 72-0171

創立25周年という四半世紀の節目をお迎えになりますこと、誠におめでとうございます。本当に早いもので、私が卒業させて戴きましてから、既に15年の月日が経過致しております。

当時のことを振り返って思いますことは、「若さ」ということです。少年野球等々の様々な事業を成し得たのも、英知と勇気と情熱を支える「若さ」がそこにあったからに他ならぬと確信致しております。齢を重ねてしまってからでは出来得ない事、20歳から40歳迄の青年でなければ行動に移せないことは、実に多々あると思います。「若さ」故の活力溢れる行動力をこれからも持ち続けて戴きたいと願っております。ライオンズやロータリー、商工会議所等々の他団体とも全く違う、独立した青年経済人の団体として、遠慮することなくどんどん発言して戴いて、地域開発の起爆剤として今後益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。

インタビューー 平木 正治



山本良二

(44年卒)

㈱明石家 代表取締役社長
岩美郡岩美町岩井 536 72-1515
同上 73-1003

J C在歴6年。宿屋という職業柄、恰好の息抜き場所と心得て横着しながら過ごして来ました。又、J C活動に名を借り、日毎夜毎よくぞ遊んだものです。若気の至りの数々もありました。しかし、どんなに居心地がよくても、留年しても、間違いなく卒業させられてしまうのは残念でした。

確か卒業間近、山陰ブロック浜田会場での事と思うが、江藤淳先生を迎えての講演で、勝海舟論を展開され、幕末激動期の日本を導いた過程を情熱をもって論ぜられたことに深い感銘を受けた思い出があります。一経済人として今日の経済社会情勢、技術革新のめまぐるしい変動に奔弄される事なく適確に対処する指針として今でも大いに感謝しているが、これもJ C活動の賜であると思っています。鳥取地区100年後の将来像を作り行政に反映させるためブレーンストーミング手法で若いメンバーの英知を集め、地域発展に大いに寄与されることを祈ります。

インタビューー 岩見 経行

MESSAGE



米 沢 安 民

(44年卒)

米沢商店 代表取締役社長
鳥取市茶町410 22-4338
同上 同上

着々と実績を積み上げてこられた上での25周年、誠にお目出とうございます。チャーターメンバーとして在籍12年間でありましたが、私にとっての鳥取JCとは、それは正に「少年野球」でありました。

少年野球が話題になると、いつでも言われることですが、学校対抗の試合形式がとれなかった時代でしたので、地域町内会での子供会単位で漸く開催に漕ぎ着けた次第でした。当時の運営は児童会館を中心に行なっておりました。軟式連盟とか審判連盟等のなかった時代でしたので、先ず審判の養成とか、ルール作りから始めました。会場は、現在県立博物館が建っている地 - 市設グラウンド - で行ないました。私自身も長く審判を務めましたし、兎に角、涌本君と2人で運営面に非常に苦勞したことが、いまだに強く印象に残っております。汗と涙の少年野球、これが私の鳥取青年会議所でした。

インタビューー 植木 聡



佐 野 幸 男

(45年卒)

古寺商店 常務取締役
鳥取市青葉町1丁目215 22-4111
鳥取市浜坂1494-4 23-0694

昭和28年にホンダオートバイの関連の仕事で岡山より鳥取にまいりましたが、昭和42年に会社を閉鎖、残務整理をしながらフジカラー鳥取現像所所長へと転職しました。この私の人生のヤマ場に、青年会議所に在籍していましたので、思うように活動することができず、残念に思っています。

しかし、10周年記念誌の写真を担当させていただいた折には、先輩の方々から写真をいただいたり、自分で写真を撮ったりしたことは楽しい思い出として残っています。最後に卒業後、妻が病氣療養の折には、当時の現役青年会議所の会員の方々に献血で協力をいただき、改めて御礼申し上げます。現役の方々のますますの御活躍を期待しています。

この他に、オートバイの乗り方（特にツーリング中に、いかに〇〇〇〇をするか）などや、レース出場のお話など楽しく聞かせていただきました。

インタビューー 伊吹 直仁



中 尾 喬 一

(45年卒)

鳥取大学教育学部 助教授
鳥取市湖山町南4丁目101 28-0321
八頭郡若桜町若桜284 2-0008

JCの思い出は色々ありますが、一番印象に残っているのは、理事長を経験した時ではないでしょうか。私が理事長をした1968年と1969年の2年間、1969年 JC 10周年に発刊した「ひらけゆく鳥取」のアンケートを、1年前の1968年より追跡調査した事。それと、1968年に札幌の全国大会にて釧路JCと姉妹関係を結んだ事等、色々ありました。

私達の頃は、親睦を中心にしてJC活動をやって来ました。夢を大きくもってゆとりあるJC生活でした。政治問題がJCの中に入りかけたのは、この頃からだったと思いますが、政治の事には余り深く介入せず、一線を引く必要があるのではないかと思います。

最後に、今のJCは色々な事業活動に手を広げ過ぎではないでしょうか。もう少し検討する必要があるのではないかと思います。原点に戻って自己修練という事を考える必要があるのではないかと思います。

インタビューー 吉村 隆彦

MESSAGE



河田 博 志
(45年卒)

八頭郡河原町河原16

(08588)
5-0653

「主人は昭和57年9月に亡くなりましたが、一緒になりました時はすでに入会していましたので、J.C.とのつきあいは私とよりも古いということになりますし、たしかチャーターメンバーの1人とか聞いております。子供に手がかかるようになるまではよくクリスマス家族会などにも連れて行ってきていました。9期(45年)の卒業で、やはりお友達もその前後の会員の方が多かったらしく、外のことはあまり言わない主人でしたが、中尾さん、三宅さん、玉木さん、池内さんなどのお名前はよくうかがっていましたし、大変いいお友達だったようです。卒業させていただいてからずいぶんになりますので、私もはっきりとは思い出せないところも出て来ましたが、それにしても主人にとって若い頃の思い出をたくさんつくらせていただいたJ.C.であったことはまちがいないようです。」

河田未亡人談話より

インタビューー 熊田 一隆



三宅 金 延
(45年卒)

関みつかね
鳥取市永楽温泉町111
同 上

代表取締役
22-2947
22-2047

「先輩、J.C.での一番の思い出は!」、「思い出というほどの思い出はないなあ、ただよく酒をみんなで飲んだもんだ、それに本当の友人が出たこと、それが思い出かなあ」今のJ.C.みたいに色々な事業を行なったと云うより、酒を飲んで、夢を語って、それに本気でむかっていったネ。我々の時代は個性の強い行動的な人間が多く……みんな一致団結してた。人数も30人位で少なかったけど! 夜は仕事が終わってからJ.C.メンバーで酒を飲む。これは今も大事な事だと思うネ。というのは、構えた会議より、この場の方がいいアイデアが出ると思う。気の通じあった者同志、すきな事を話し、無理みたいな事でもよし、やってやろうと活気を生み出す。我々はそういう夢みたいな事から出発して、一生懸命、鳥取の為に動いていたと思う。

最後に、今のJ.C.マンは、方法論を知らないのも、もっと先輩を使ってほしいと思います。

インタビューー 松本智賀男



田 中 正 昭
(45年卒)

鳥取県森林組合連合会
鳥取市湖山町東5丁目512
鳥取市西町1丁目211

総務部長
28-0121
26-9554

J.C.在籍中の思い出は……「有意義な団体があるとのことで、西尾、鎌田両氏に推薦されまして入会したわけですが、何分サラリーマンですので、当時は年間の3分の1は出張しておりまして、J.C.活動に充分に顔を出すことが出来なかったことを残念に思っております。

遊びの方では麻雀をよくやりまして、青雀会で番付表を作ったことがあるのですが、西の横綱になったことがあります。そのときの東の横綱は確か古寺さんでした。また、積善学園でひな祭りがあったとき、何かしなければならぬと云うことで、一夜づけで手品を勉強しまして、2、3披露した思い出があります。」

現在のJ.C.メンバーについては……「よくやっていますネ、メンバーも多くなり、事業の範囲も広がっており、意欲的に取り組んでいる様で、いいじゃないですか。」以上、黒縁のメガネがお似合いの、なかなかの紳士、田中正昭OBでした。

インタビューー 児島 均

MESSAGE



森 下 耀 雄

(46年卒)

森下久平商店 専務取締役
鳥取市戎町 119-2 26-2011
同上 26-2014

鳥取青年会議所設立時の主旨に賛同して昭和34年に入会しましたが、若い為にいつも雑用係でした。思い出深いJC事業は鯉の放流、少年野球です。鯉の放流では、袋川の現状を市民に訴え、どの様にしたら昔の様な魚の住める清らかな川に戻るかを検討し鯉を放流したらと云う事になりました。今でも橋の上から大きくなった鯉を見ると、当時の事を思い出します。少年野球ではグラウンドに出て来いと言われ、何もわからないまま強い日差しの中で真っ黒になった事を思い出します。会員委員長の時にはJCメンバーの誕生日に祝電を出しました。

入会して良かった事は、飲み(?)友達が出来た事、時間厳守の観念、人前で話が出来た様になった事です。委員会を行うと云っては毎日の様に飲み歩き、ある夜締め出されて、アーケードから家に入った事もあります。その為か5周年の記念誌に家内からぼろかすに書かれてしまいました。

インタビューー 藤原 正



平 野 之 致

(46年卒)

ケンハン 常務取締役
鳥取市古海 699 23-1081
鳥取市新品許町 123 23-2580

思い出は尽きない。殊に、現在に至る鳥取JCの隆盛をみるにつけ感無量です。しかし、特に印象に残ることと言えば、やはりチャーターメンバーとしてこの鳥取JCを設立した頃の話ということになります。今の商工会館ではなく旧館の頃、設立準備委員会に加わりキーメンバーの方々と話し合ったこと、また結成会が開かれた際、故米原章三翁がああW.S.Clark「少年よ大志をいだけ」の話をされたのもなつかしく思い出されます。卒業の1年位前でしたか長崎で全国大会があり、その往復の車中でぶっ続けに麻雀をしたことも、今ほとんどやらないだけに楽しい思い出です。その時一緒だった縫谷君が、確か長男が誕生したとかで、嬉しそうな顔をしていたのもよく憶えています。

私の12年間のJC歴の中で一つだけ誇れるものがあります。それは、入会らい卒業まで例会出席100%を達成したことです。メーキャップなど私自身もそれなりの努力をしましたが、是非現役諸君もそうであってほしいと願いつつ、私の思い出話と致します。

インタビューー 西山 林一



玉 木 久 夫

(46年卒)

学校法人東部自動車学校 副理事長
鳥取市松並町 3-122 22-7207
八頭郡智頭町智頭 (08587)5-0233

創立25周年を迎えられ誠にありがとうございます。私のJCでの思い出はやはり理事長を務めさせて戴いた頃が中心となります。その年昭和45年は鳥取JCも80名を越える大世帯となり会員相互のコミュニケーションを十分に計る必要性と、JC運動そのものに新しい意義と方向づけをしなければならない時期であったと云えます。それには「社会開発計画」の展開こそJC運動の中心を成す事業であると確信し真剣に取り組みました。具体的には前年の10周年記念の市民意識調査の集計「ひらけゆく鳥取」より先ず「袋川の美化推進」を取り上げ、袋川の現地調査、袋川の素顔写真展等を行いました。その後この事業は継続され、15周年記念事業として第1回鯉の放流へ、そして度重なる放流の後、現在の鯉の棲む市民に愛される袋川へと生れ変わりつゝある姿を見るにつけ、ささやかながら市民運動の起爆剤となった事を嬉しく思っております。今後もJC運動の根本精神が受け継がれ鳥取JCが力強く発展する事を祈っております。

インタビューー 縫谷 昌生

MESSAGE



福田 義 信

(47年卒)

福田義信司法書士事務所 代表者
鳥取市東町2丁目222 23-3465
鳥取市丸山町 142-1 23-5026

1967年入会され（亀井理事長当時）、推薦者は浜崎泰三氏である。当時氏の属する司法書士会では、JC入会はタブー視されていた様である。なぜならば、有資格者が事務所に居なければならないとされていたからであるが、氏はその殻を破り果敢にも友を得る為に入会された。仕事柄、社団法人化への組織確立を望まれ、姫路JCに通い尽力され、2年後見事に開花したのである。現在の氏の横顔からは、往年の活躍（酒等）は想像もできないが、現メンバーの足元にも及ばない活躍をされたそう。雰囲気重んじ、絶えず人の事を考えておられた様である。趣味も多才であり、一級小型船舶操縦士、無線電話甲、又、スポーツは学生時代は相撲部に籍を置かれ、その流れかで琴桜、琴風のファンである。野球も巨人以外ならどこでも良いとは又愉快であり、氏の反骨精神の旺盛さ、又、野武士の頭領の風格をみたのは、私だけではないと思う。

インタビューー 安田 晴雄



安部 誠 吉

(47年卒)

鳥取ササ電機㈱ 代表取締役社長
鳥取市上町 171 22-4911
鳥取市浜坂 21-17 23-7847

チャーターメンバーとして入会しました。当時は最年少の為、年上の方から声のかかる回数も多く、他JCへ出かけた際、懇親会後の酒の運搬係は私の役目でした。ですから、年上の方とのお付き合いがどうしても深くなりました。

青少年の委員長の頃だったと思いますが、少年野球の件で市役所に何回も足を運んだ事がなつかしく思われます。そして、身体を使うような事業には、積極的に参加しました。

仕事柄、地元の方との商売上の付き合いが少ないので、JCの集まりには喜びを感じました。又、団体で行動する事のすばらしさも味わいました。年上の方々と一緒に活動する中で、「親しき仲にも礼儀あり」といった事を勉強させていただいたと思います。

最後に、ナイトライフの方ですが、青年会議所に入会したおかげで、市内の飲み屋さんを良く知る事が出来ました。

インタビューー 太田 義人



小島 英 二

(47年卒)

㈱ こじま 代表取締役
鳥取市戎町 414 26-2624
鳥取市良田 59 57-0655

鳥取JC25周年 おめでとうございます。私が入会したのは30代半ばで、何をするにも油が乗り切った年令でした。委員会活動の思い出も数多く有りますが、社会福祉関係が中心だったと思います。何しろ、当時は高度成長期でしたので、会員の顔色もよく、誘われれば誰とでも酒を酌み交わした、今考えても楽しい時代であったと思います。私自身、酒が入れば裸踊りをしたりして、自分で言うのも何なのですが、遊んだ人間だったのでしょね。JC事業について考えると、先輩の残された事業を引き継いで行かなければならないという誰かが言った「遺産過多症」になっているので、もう一度原点に戻って考え直して見る事も必要だと思った事を、思い出しました。JCを卒業して10年余り経った今、入会して一番よかったと思う事は何ととっても、職場を離れ沢山の先輩後輩と知り合い、メンバーの輪がどんどん広がり、その内において自分自身を高めることができた事です。今後益々のご健闘期待致します。

インタビューー 西尾 正博

MESSAGE



山家 哲彦

(47年卒)

㈱ ヤマガ 代表取締役
鳥取市二階町1丁目222 23-4661
同上 同上

「私の居た頃のJCは皆が情熱をもって活動していた、喧嘩（討論）もよくしたが、やる時は全員一丸となってやったものだ。」卒業されて12年目、年がたつにつれてJCと縁遠くなると言われる。しかし在籍7年間の思い出は次から次へとよどみがない。「一番の思い出は、会員委員長に私が設置した半年の研修期間制度、これは今でも引き継がれているだろう？ 又、印象深いのは、子供の国に噴水を寄贈するために、街頭や砂丘で行なった1円募金……。」一頻り思い出話の後、現在の我々メンバーに対して、「今は奉仕活動団体が多いが、JCは若さで認められる、多少の失敗は恐れず、時代にマッチした且つユニークで効果的な奉仕活動を、とにかく起こすべきである。」との事。総務委員長の頃、涌本OBに付けられたという『鬼のヤマガ』の真随健在なり。副理事長も経験されたOBの最後に言われた言葉が痛烈でした。「JCは研修の場だ、なまけてちゃ全々意味が無い。」と言われた笑顔は素敵でした。

インタビューー 石本 隆



米原 正博

(47年卒)

㈱日ノ丸総本社 代表取締役社長
鳥取市本町3丁目102 26-6651
鳥取市東町2-341-1 23-0535

25周年を迎えられておめでとうございます。私の卒業は12年前ですから、25周年でご卒業の方とは一回り違いということになります。JC運動に没頭した30才前後の10数年間を振り返って見ますと、「自分は若かった。」ということを感じ致します。若いからこそ出来たということですが、その「若いからこそ」という大いなるバイタリティ、その特質をとことん生かすべきだということを感じました。若いからこそ出来るということは人生にとって何物にも替え難い、とても尊いものと信じます。仕事も街づくりも、若い者が動き、動かしてゆかねばならない、そのことがその人自身にとっても、街にとってもとても貴重なことだと感じております。JC運動とはボランティア、即ち汗を流す運動が基本だと信じます。そこには自身（企業）の利害を決して考えないで真摯な態度で事業を成功させて行こうとする姿の素晴らしさをメンバー全員に知って欲しいと念願致します。

インタビューー 植木 聡



谷口 亮

(47年卒)

㈱栄建築設計事務所 代表取締役
鳥取市東町2-222 24-6260
鳥取市江崎町85 22-5806

昭和47年卒業の谷口です。入会当初JCも、しゃんしゃん祭に初参加した私達、夜練習をし当日はJCのゆかたを初めて着て、先頭を切って夜通し踊った楽しい思い出がある。次に、袋川の汚染についてJC仲間間で議論した事がある。魚の生息条件を知る為に水槽で錦鯉や金魚を飼って調査を行った。これがヤマツキになって今でも金魚の飼育をしているが、袋川汚染の問題が、後に袋川の鯉の放流へと発展していった。又、JC創立10周年で記念誌（ひらけゆく鳥取）の編集に加わった。計算器と電卓で統計の計算をした。本当に連日連夜エネルギーな活動であった。

昭和46年頃から子供の国の建設、それと共にJCでも希望の泉の建設が始まった。設計に仙田君、施工に田中薫君、資材に芝岡、清水両君、監督は私が担当し、技術屋としての才能を充分に発揮することが出来た。卒業後も完成までお世話をした。少年野球大会には毎年参加し、楽しい思い出が残っている。

インタビューー 山田富士雄

MESSAGE



池内 勝 信

(48年卒)

池内綿糸店 代表取締役社長
鳥取市元大工町1 26-2311
同上 同上

鳥取青年会議所25周年おめでとう。在籍中は皆さんに大変お世話になりありがとうございました。振り返ってみますと、青年会議所は8年位の周期で時代と共に変わってきたように思います。大正生まれの方を中心に47士でスタートした頃を第1期として、色々あった第2期、そんな事を全く知らない会員が大半をしめるようになった第3期、そして今日は初期の方々の息子さんが入会されるようになった第4期に入ったと思います。個人的な思い出としては、理事長時のあゆみの箱の街頭募金、チャリティーショウ、第1回サッカー教室、交通遺児の調査等ありますが、それよりも記憶に鮮明なのは、いきなり鳥取J.Cのチャーターナイトの実行委員長を命ぜられ、皆さんのご協力により商工会館別館ホールで盛大にやらせてもらったことです。

現役の皆さんもチームワークや歴史を大切にしながら頑張ってくださいと思います。鳥取J.Cの益々のご発展をお祈り致します。

インタビューー 田淵 克夫



福 島 規 行

(48年卒)

よし の 屋 代表取締役
鳥取市末広温泉町129 22-4095
同上 同上

先輩の店は鳥取一の商業地である本通りの駅寄りにあり、女性の服をまわりにしてのインタビューでした。卒業されて10年、J.C歴4年の先輩ですが、青年会議所時代の思い出は多く、中でも袋川を舟で下り、市長に環境に関する意識をおこさせざるようになった袋川の美化運動、砂丘子供の国「きぼうの泉」建設のための募金、少年野球、しゃんしゃん祭りへの参加、15周年行事での武者行列（雨が降っており、衣類のことを心配した）など色々な話をきくことができ、有意義でした。先輩はJ.Cで一番良かった事は、色々なジャンルの人と話が出来、自分の知らない世界の話題が得られたこと、行政側との話が一般人より早く出来、鳥取の未来の夢をえがくことが出来たこと。これからのJ.C活動については、「家庭と企業の理解が必要でないか。」という話には、全く同感しました。この他に経済の話をしたましたが、その話を聞きたいメンバーは、直接先輩と話をして下さい。

インタビューー 谷本 真一



濱 崎 泰 三

(48年卒)

鳥取生コン 取締役総務部長
鳥取市古海 536-1 22-8474
鳥取市中町 62 22-4655

設立3年目に入会し、48年に卒業するまで11年間在籍し、在籍中4回副理事長を務める。在籍中の一番の思い出は、10周年に鳥取で中国大会をと働きかけ、わずかの差で山口県の防府にゆづった事。働きかけの並々ならぬ苦勞の様子に頭が下がる思いです。

10周年の記念事業の後、日の丸総本社の所にあった64m×31mのプールを会場に宴会をしたこと、意表を突く発想に驚く。酒の思い出は、委員長を務めていた時、浜村の置家に委員会全員で飲みに行った事。「こんな事は、自分が始めてではないか」と、少々自慢がのぞく。J.Cに酒はつきもの。本当によく飲みました。となつかしい様子で語る。

最後に浜崎先輩から一言。在籍中のJ.C時代と、今のJ.Cは、人が多だけに意志の疎通に欠けている様に思う。論議の上で行動するのもいいが、論議の前にパワーをつけるのが、研修の場だと思う。是非頑張ってほしい。と激励される。

インタビューー 行本 義和

MESSAGE



菅 勤

(48年卒)

㈱ スズヤ 代表取締役
鳥取市川端1丁目107 22-3291
同 上 同 上

梶OBと私は同じ川端1丁目町内に住んでいますので、商売、町内会行事などで、いつものように顔を合わせています。しかし、梶さんがJCのOBであるという事を知ったのは最近でした。でもなるほどと、うなずけました。それは、梶さんが商店街の活動にしても、町内会のお世話にしても、いつも先頭に立って活動されている姿を見て、どちらでこのようなリーダーシップを勉強なさったのだらうと思っていたからです。

あらためてインタビューにうかがいますと、「JCは本当に遠くなってしまった、在籍も2年半で、活動も社福関係の委員会ばかりだったようだ、いろいろ人間関係で勉強させてもらった。」といった感想でした。もっぱら私との話は、商売の事で時間をすごしてしまった次第です。「JCに入会した頃はまだまだ商店街も活気があったなあ。」と、おっしゃった言葉は印象に残りました。

インタビューー 山県勇太郎



小谷 信行

(48年卒)

㈱ 浜村ビューティーホテルコダニ 代表取締役
気高郡気高町勝見696-1 82-0531
同 上 82-0531

「大きな経済圏が見たかったのだ。浜村の小さい世間では井の中の蛙になってしまう。その為には関西経済圏と直結している鳥取の若手経営者と接したい。自ら進んで鳥取グランドホテルの三谷さんと一緒に小銭屋さんをお願いして入れてもらったのだ。さそわれて入ったのではない。」と小谷OBは開口一番。その三谷さんとは以後イロイロと弥次喜多珍道中を多くされた由。

「在籍は昭和39年から48年。この10年間の内、特に思い出深いものは、1966年京都世界会議に3日間1人で頑張った事。1970年米原会頭の名古屋全国大会に鳥取コーナーで特製の短い豆腐竹輪を作ってもらい大受けをした事。その他、多々あるが愉快的なJC生活であった。その間多くの人間関係を、恥を忍んで新しいものに挑戦してきた。今思うと大変なつかしく、又、JC生活を誇りに思っている。」この間、小谷OBの顔は若く見えた。

インタビューー 山内 一博



辻 敏治

(48年卒)

㈱ 辻商店 代表取締役社長
鳥取市新町105-2 23-5141
同 上 同 上

鳥取にJCが誕生してから1/4世紀経過したと云う。JC創立で参加したのが25才のときだった。あの頃は若かったなあ……。よう遊んだなあ……。商売が今ほどきびしくなかったのか、松江や米子でなにかあると、日帰りが出来ても1泊して面白く遊んだことを思い出します。

卒業してからはや10年、50才と云う年令に達し、自分の気力、体力の衰えを感じはじめました。若さと行動力、と云いますが、やはり40才前後がいちばんです。

今後の皆さんの各方面にわたっての活躍を期待しております。

インタビューー 真先 信男

MESSAGE



中井 積

(49年卒)

㈱ナカイセキ 代表取締役
鳥取市末広温泉町 163 26-1221
鳥取市上町 75 22-6691

昭和34年入会と同時に認承証伝達式に出会い、それまで家業一筋の生活であった自分ですが、沢山の友人や先輩のいるグループの中に入って緊張した感激が強烈な思い出となっています。

私は最年少(25才)の入会でしたから委員会のたびに酒の修業となって下戸も少しずつ付き合いができるほどになったようです。

旅の思い出は、北海道の会員大会に家族と共に参加した時に同行の会員に気を使って頂き申し訳なく思っていることです。

又、第1回のしゃんしゃんおどりにJC連として参加、元気一杯にハッスル翌日体の筋が痛くなるほど踊ったことなども思い出されます。

インタビューー 田淵 吉男



秋山 禎雄

(49年卒)

扶桑相互銀行 経理部副部長
鳥取市栄町 403 22-2131
岩美郡国府町奥谷 210-1 26-3470

扶桑相互銀行、経理部副部長という堅い肩書の秋山さんは、とても温厚な紳士という感じの方でした。JC歴は5年ですが、銀行という職業柄、仕事とJCでかなり悩まれたそうです。しかし、できる限り事業には参加され、古寺理事長の時には名古屋の全国大会にも出席されました。どちらかという、夜の付き合いの方に、かなり積極的に出られたようです。青雀会の会長を1年間され、皆勤で優勝も1、2度されたとの事。やはり昼間は堅い仕事なので、夜は商売抜きで楽しくやっていたということです。

いろいろな人に巡り合い、酒の飲み方も覚えられたJCは、秋山さんにとって良い思い出の場所という感じでした。今では焼酎の晩酌を毎日欠かさずされています。「最近のJCの評判は悪いのでは？」との質問には「全然そういうことは聞いていません。」との事。JCの皆さんこの言葉に安心してはいけませんよ！

インタビューー 林 憲二



小林 英明

(49年卒)

鳥取電業㈱ 取締役営業所長
鳥取市商栄町 251-10 22-4131
鳥取市浜坂 1513-13 23-8687

昭和42年に帰省し、その後の入会のため、JC在籍は5年という非常に短い年月のためか、あまり多くの思い出はないが、鳥取砂丘こどもの国に噴水を造ったこと、砂丘での施設の合同運動会、鯉のぼり行進、KJ法の研修会などがある。

人と人のふれあいとしては20才から40才までの幅広い層と、その思考、行動など数多くの勉強と教訓を得たが、特に他JCとの交流はスポーツ大会、研究会、大会等を通じて人間関係を深めることが出来、現在でも数多くないが友好を続ける友が出来たことは大きな喜びとなっている。

遊びとしては、昭和9年生まれによる麻雀会、酒宴での放談会も今では忘れられない思い出だ。また、マイクロバスにて県内某所での映画鑑賞会？今の若人には刺激にもならないが、当時は次回が非常に楽しみな会であった。

インタビューー 金沢 泰治

MESSAGE



前川 清 治

(49年卒)

鳥取エフワン㈱ 専務取締役
鳥取市吉成 235 24-1811
鳥取市吉成 813-21 53-2561

U・F・Oと言えば、未確認飛行物体ではなくて、鳥取エフワンのキャッチフレーズ、一前川先輩は現在、鳥取エフワンの専務取締役として御活躍中です。

前川先輩は昭和37年に入会され、昭和49年に卒業される迄13年間在籍されました。その間、おもに経営開発、指導力開発委員会で活動され、各地で開かれる大会とか、講習会に参加されていたとのこと。昭和45年玉木理事長当時に都市開発委員長をされ、袋川美化運動のスタートを切られ、当時金田市長等と舟を袋川に浮かべ水質調査をした事は今でも良い思い出として時々思い出されるそうです。「私は必ず一言は言わなければ気がすまないです。」と言われる程議論好きとの事でしたが、最後に私達現役に対して、「勉強・論争が出来るのは30才。人をしかれる人間・素直に人にしかられる人間になるよう努力する事が大切です。」と、アドバイスをいただきました。厳しさの中にもあたたかい人柄を感じさせて頂くインタビューでした。

インタビューー 植田 哲朗



田 中 薫

(49年卒)

鳥取市岩倉 238 22-7958

田中薫先輩は、残念ながら4年前の昭和55年にご逝去されておられますので、お忙しい時間の中、奥様にご主人、そしてJ.Cの思い出を話して頂きました。

○J.Cでの思い出は…主人は、安部誠吉さんのご紹介でJ.Cに入れて頂きましたが、3年間程しか在籍しておりませんし、割とロベタな方でしたから、あまり話してくれませんでしたので……。○夜なんか飲みには…お酒は全然飲みませんでしたから、夜は出て行かなかったようです。家でも全く。お酒でも飲めたらもっと元気でいたかも……。と、少し寂しそうなご様子。

○委員会での思い出は…確か、古寺善三さんが理事長で、平野之致さんが委員長のとときに芦津の『みたき園』に行った思い出があります。委員会の家族会でした。その他、農協会館でのクリスマス家族会のことも、ご主人さんとの楽しい「とき」を思い出されたような感じで、お話をして頂きました。

奥様、頑張って下さい。

インタビューー 森原 強



古 寺 善 三

(49年卒)

㈱古寺商店 代表取締役
鳥取市青葉町1 22-4111
鳥取市元大工町13 22-6283

私は、12代理事長を務めさせていただきました。私の年度は、(1)「和」を基調とした全員参加のJ.C創り。(2)若者と共に語り創造しよう。の二大テーマでした。今、その当時の事を思い起してみますと、一番思い出深い事は、「みんなで作ろう子供の泉」のキャッチフレーズのもと、実施した「鳥取砂丘子供の国に泉を作ろう」と言う事業です。この運動には、市民各位から善意の匿名寄付金（1円玉を丹念に集め箱一杯も届けていただいた人も）等、寄せられ全て募金で完成を見る事が出来ました。又、この事業を通じて沢山の市民団体の人々と語り合い、協力願う事も出来、J.Cの一つの財産になった事と今でも思っております。又、サタディナイト・ミーティングの開催により若者と大いに語り合い。そして、J.C初めての試みとして対外広報「明日のために」の発刊等、実施しました。この様に色々な活動を展開しましたが、全ては優秀な人材が沢山おられたから出来たことです。今でも当時の会員各位に心より感謝しております。

インタビューー 福本 登

MESSAGE



岩田 純 一

(50年卒)

鳥取信用金庫 業務部長
鳥取市栄町 645 23-2411
鳥取市寺町 71 23-1175

私は、4年間JC活動をやった。その間、『急がず・あせらず・止まらず』をモットーに地道にやってきた。既に、積極的に発言はしなかったが、理論武装されたメンバーの人間関係をじっくり見せてもらい、自分も少なからず、人生の参考になったと思っている。20代 - それは脇見もせず一生懸命働く事だと思う。30代 - それは友達をつくることだと思う。40代 - それは顔で商売できる年代だと思う。『人の道』は『人の道』であって、決して『獣の道』ではないと思う。『人の道』を忘れて、弱肉強食の時代に身を置いていると、その『ツケ』は必ずやってくると思う。従って、大切な20代、30代を過ぎるJCメンバーは、『人の道』に生きる勉強をしてほしいと、JCの将来を期待しながら、心より思っています。

インタビューー 大月 徹



川島 久

(50年卒)

鳥取読売 西支店次長
鳥取市行徳ろ 313 23-1831
鳥取市浜坂 895-1 27-0926

私は36年頃JCに入会、15年ほど在籍していました。今の会員の中では、縫谷君とは古い付き合いです。私が入会した頃は、会員が50人前後と少なかったせいか、まとまりがよかったようです。また、その頃は、戦前の生活を知っているメンバーが多いので、先輩、後輩と言うか、年令的な上下を非常に重んずる事を教えられました。先輩には、少年兵のようにこき使われましたが、反面、大変可愛いがられました。その頃のJCのメンバーは、地元鳥取の人が主で、私は広島出身で、JCでは、よそから来た入会はめずらしく、私が初めてだったように思います。

JC活動の中で強烈な思い出は、私が副理事長をしていた48年だったと思いますが、二つのグループができ、派閥競いがあり青春をかけた事です。その事を解決する為、JCメンバー全員で今の日本海リッチランドで、朝の4時頃まで話し合った事ですが、今となってはこれもいい思い出です。

インタビューー 矢谷 英次



森 亮 輔

(50年卒)

森 歯科 医院 院 長
鳥取市今町 2-251 29-1571
同 上 26-1680

いよいよ春というのに、陽気のほうは、いま少しパッとしないある日の午後、今町にある森亮輔OBの自宅を訪れました。自宅は、国道に面した市内の1等地にあり、明るいクリーム色の4階建の医院兼用の建物でした。応接間に通されると、そのうちに、立派なもみあげの『いかにもスポーツマン』といった先生が出て来られました。以下インタビューのあらましを書くと、

問 歯医者さんの会員はめずらしいですが…時間が不規則なので、かなり努力しないと在籍出来ない。

問 昼休みもなしで大変お忙しそうですが…毎日こういった調子だ。

問 なにかスポーツをやってこられましたか…硬式野球、バスケット、アイスホッケー、ハンドボール、ゴルフ等。特にバスケットは国体に出場した。八百屋だ。

問 JCの思い出は…沢山あるが、少年野球の審判などしたこと。

インタビューー 田中 謙

MESSAGE



山名利和

(50年卒)

㈱山名商店 専務取締役
鳥取市行徳は414 22-3213
同上 同上

Q：J C事業で、一番思い出に残っていることがありましたら？ A：私は入会した最初の委員会が、青少年委員会でした、少年野球をやりました。その時の準備で、先輩方を余りこき使い過ぎて、終わってからの懇親会でつるし上げを喰らったことが一番印象に残っています。

Q：J C関係の旅行で一番思い出に残っていることがありましたら、お聞かせ下さい。 A：やはり、入会した年の委員会での旅行が印象に残っています。(笑) 当時一緒だった方々に聞いて下さい。

Q：委員会での思い出は？ A：会員の委員長をやった時、クリスマス会で、もちつきを初めてやりました。

Q：後輩に助言がありましたら。 A：J Cは、とにかく現役の人達の活躍が大切です。頑張ってください。

インタビュー 乾 康彦



山根常愛

(51年卒)

㈱山根酒造場 代表取締役
気高郡青谷町大坪249 85-0730
同上 85-0736

昭和50年に鳥取青年会議所が「中国地区会員大会」を主管いたしました。それに先だつ昭和40年代には、いわゆる派閥組織と言われるものがあり、理事会や総会などで度々けんかをしたものです。今から思うと、派閥抗争こそが、J Cの中で最も有意義な行事であり、J Cの存在感そのものであった様な気がします。当時の森本地区協会長は、鳥取J Cの内部抗争を修復する為にも、是非鳥取で地区大会を開こうと決断してくれました。その友情に改めて感謝の念を抱くものです。又、記念事業として鳥取城の城門改築復元工事を行ないましたが、文化庁の厚い壁にもかかわらず、実現に努力をしていただいた当事の金田市長に熱い敬意を表します。

J Cにロマンと遊びの世界を求め、「東品治村の名誉村長」の称号をいただいた頃を懐かしみ、鳥取青年会議所のますますの発展を祈念しております。

インタビュー 西本 昇一



潮 巽 市

(51年卒)

㈱ウシオ 代表取締役社長
鳥取市行徳は155 22-2222
鳥取市二階町1-218 24-2235

51年卒業の潮巽市先輩を、会社にお訪ねしました。潮先輩は現在、㈱ウシオ代表取締役として御活躍されるとともに、鳥取ロータリークラブのメンバーとしても御活躍されております。お会いした感じは、とても物腰の柔らかい方でした。「先輩にとってJ C活動の思い出とは」とお聞きしましたところ、「月日がたつと、今はこれとって残っていない。」との事。卒業の頃は、色々思いうかぶ事があったそうですが……。たゞ一つだけ、地区大会実行委員長を務められたそうで、多くは語られませんでした。かなり苦勞をされた事と思います。お忙しい中、お邪魔し、約1時間という貴重な時間をいただき色々とお話をうかがった中で、潮先輩曰く、「J Cは修練の場所であった。そして今もそうであると思う。」このおことば、インタビュー後も頭に残っております。紙面の都合上、潮先輩のお話しを十分に表現出来なかった事お詫びいたします。お忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今後とも御活躍される事念じております。

インタビュー 小林 充典

MESSAGE



中 田 吉 人

(51年卒)

中田製材所 事業主
気高郡気高町勝見843-99 82-2074
気高郡気高町勝見676 82-0958

春とは云っても、肌にあたる風の冷たさに冬の名残りが感じられる日の昼下り、中田吉人先輩を浜村駅の近くにある会社に訪ねて行きました。折悪く、商用の為急に外出されようとする時で、初対面の挨拶もそこそこに早速お話を伺ってみました。「J Cを去る事8年。48才ともなれば、ナイスミドルを気取ってもみたが、子供の事、地域社会の事、商売の事といろいろ負担の多い年代でもあり、J Cとの関わりも少なくなって、送られて来るマンスリーに接する度になつかしく思い出す事は多い」とのこと。また「現役時代は高度成長期でもあり、勢いのある男らしい人が多かった様に思う。いろいろと思い出は多いが、適度に上品で、ほど良く乱れる酒の飲み方はJ Cで身につけた事の様思う。私は郡部出身であり、市内中心に展開される活動の輪を郡部にもっと広げて、広く理解をいただき、メンバーも増える事を願っています。」そして最後に「J Cの発展を心から祈っております。」との事でした。

インタビューー 三谷 鐵夫



足 立 利 喜 雄

(51年卒)

柳足立ふとん店 代表取締役社長
鳥取市吉方温泉1丁目132 24-8545
同 上 同 上

鳥取市議会議員(前議長)4期13年の現職。足立OBの手帳にはタイムスケジュールがびっしり書き込まれている。真に多忙な人である。貴重な時間を頂きインタビューのお願いに上がると、J C生活の思い出を楽しく、なつかしくお話頂けた。実行委員長として毎日5時半頃より400日余りを費やしたCDP追跡調査「ひらけゆく鳥取」刊行の時のJ Cメンバーとして充実感に満ちた仕事への思い出。市の中心を流れる袋川を昔のきれいな川にと舟で川下り視察を行い、1万匹の鯉を放流し、市民の協力を得て水質の向上に務めた。現在も続くJ C事業の思い出。その他、釧路J Cと姉妹J Cとなった思い出、ボーリング全盛期にはチームを作って大阪方面へ遠征した思い出等々。

最後に、市政93年の最年少議長を務め得たのもJ C時代に培った経験が役に立ったとおっしゃった。後輩に一言、青年は理屈より先づ体で覚える事！10年間例会無欠席のOBの言葉は重たい。

インタビューー 水田 憲夫



涌 本 祐 之

(51年卒)

因伯通運 代表取締役社長
鳥取市行徳は205 22-3101
鳥取市吉方温泉町252 22-4426

涌本祐之OBは昭和39年入会以来、51年卒業まで13年間J Cにて活躍。この間、理事長をはじめ数々の要職を歴任されましたが、J C生活を振り返り「J Cは非常に面白かったし、自分の人生にとって重要な13年間だった」「J Cで学んだことは数多く、そうした体験・勉強が今の私に大いに役立っている」とのこと。このような感想を持たれるのは「30代は勉強する時代」との意識と、「何でも体験し、実行しよう」といった行動力の結果であろうと思われます。この間、炎天下での少年野球大会の1日5試合の審判・トリニダードトバゴにおける世界会議への出席等々、「楽しい思い出すべてが自分の財産になっている。こうしたJ Cの財産を社会に還元していくことがJ Cマンの役目」と強調されます。

最後に、我々に一言「思っていることは酒を酌み交しながらでも議論し合うと同時に、行動と実行を。」

インタビューー 中谷 浩輔

MESSAGE



熊田省吾

(51年卒)

関サンショー

鳥取市商栄町 251-8

鳥取市元魚町 3-221

専務取締役

23-3381

22-4222

卒業まで理事はしないと言っておられた先輩が、何故か卒業の年に青少年の委員長をされた。その時には先輩の委員会に入りたいメンバーが沢山いたのを記憶している。委員会活動にプロジェクト制を導入されたのも熊田先輩である。先輩はこのプロジェクト制を企業に取り入れられ大成功を取められている。

袋川の鯉の放流にも多くの思い出を持っておられる。『あの汚れた袋川に鯉を放流して全部死ぬのを市民が見れば、川を綺麗にしようという運動が徐々にでも持ち上がって来るだろうと思った。』と言っておられた。そして県外の出張先で飲んでも「ふるさと」の歌を歌って30円の鯉募金をされた。『皆さん、鳥取へ是非来て下さい。市の真中に鯉の泳いでいる川があります。皆さんの鯉です。』と。いつお会いしてもファイト満々、凄味のあるあの風貌、優しい目、多少薄くなった頭、JCを卒業されて8年になるというのに、いつまでも怖い、そして優しい大熊先輩でした。

インタビューー 尾崎 義人



小林哲夫

(51年卒)

松江相互銀行(八橋出張所) 所長代理

東伯郡東伯町八橋1391-7 52-2161

鳥取市桜谷 127-1 26-0599

問：JCで一番印象に残ることは…事業所の代表という事で3年在籍させて頂きました。入会して間もなく会員大会がありこき使われたのを覚えています。又、卒業式で傘踊りをするというので一生懸命練習したのが印象に残ります。

問：酒席、友人関係の思い出は如何ですか…酒席の事は余り……。ただ同期に山根氏、潮氏、足立氏、涌本氏など大物の方が多かったのも、何かにつけ有難かったですね。そうそう広島で行なわれた中国地区会員大会へ行った時、「家が火事だ」と知らせが入り、帰るに帰れず、連絡をとってみると類焼だという事なので、帰りに皆生に寄って1泊し遊んで帰った事がありました。

問：今後のJCへ望まれる事がありましたら…毎月月報を送って頂きますし、東伯にもJCが発足しましたので親近感をもっております。鳥取JCも世代交代しつつありますので、若い人へのアピールの仕方を考えてみては。

インタビューー 池上 博行



龍田彰則

(52年卒)

山陰放送

広島支社長

広島市中区堀川町 (082)241-9321

広島市東区牛田本町4丁目 227-7954

◎JCについて…何と言っても若さと、色々な友人との出会いが素晴らしく、大きな財産だったと思っています。 ◎JC事業の思い出…袋川に鯉を放流したこと、今は犬きくなっていることでしょうか。特に我が社のそばを流れる川に放流したので、やたら思い出が大きいのでしょうか。

◎酒の思い出…毎夜飲んだなあ、角脇、中井、山本、武坂、寺谷、涌本の各氏と……。今頃あんなことしたら病気になるかも。ふる里を遠くはなれて思い出すことしきりです。ああ面白かった。 ◎悪友、良友について…すべて良友でした。相手は悪友だと私のことを思っているかも。 ◎旅の思い出…やはり海外旅行か、まことに面白く、話のタネばかり、しかし、これを妻が読む可能性もあり、又同行した各氏の人格の問題と我が国の名誉にかかわる問題も含むと考えますので、氏名及び行状についての公表はご遠慮申し上げます。

インタビューー 永東 明

MESSAGE



平 吾 武 士

(52年卒)

小 鹿 ㈱ 代表取締役社長
鳥取市末広温泉町 115 23-4611
鳥取市吉成 215-48 23-4612

当時を振り返って見れば、残念なことしか思い当たらない。政治がらみの派閥問題などがあって、嫌気がさし、退会したいとも思ったが、その影響もあって、J C内では非常に消極的であった。仕事は今、現在も含めて、いつ死んでも良いくらい頑張っているが、J C活動には、あの時、もっと精一杯頑張って積極的に、参加しておけば良かったと思っている。人前で話をするのが非常に苦手で、役の付くことはすべて避けてきた。

委員会の思い出として、経済委員会に所属した時、自分の仕事柄、いろいろ勉強になったし、当時の平野委員長も熱心に活動されておられたので、非常に良い委員会に配属させてもらったと感謝していた。

在籍年数も短かったので、思い出としてはあまりないが、今後も、青年会議所活動が有意義で、かつ、発展することを願う所であります。

インタビューー 梨原 剛



白 木 弘 美

(52年卒)

白木屋種苗㈱ 専務取締役
鳥取市瓦町 516 26-1211
鳥取市西町 3丁目 204 23-7388

52年卒の白木弘美と申します。私は、こういってはどうかと思いますが、わりと冷静に、ま、安泰にJ Cライフを送れましたね。それでも例の鯉の放流の時は熱が入りましたよ。なにしろ初めての試みでしたから、はたして成功するかどうか気をもみました。もし失敗でもしたら、J Cを批判する団体とか、行政もあるでしょうからね。で、事前にイケスをつくって1ヶ月程、袋川で鯉が生きていけるかどうか調べようという事になりまして、毎日見にゆきましたよ。私は、その事業を担当した当時は都市問題委員会といったかな。そこに在席していて、オープニングの幼稚園児による本通りのパレードをうけもったのを憶えています。

なんとか実験も準備も済んで、その当日がきたわけですが、雨に降られましたね。結局パレードは中止。子供達が気の毒でしたね。今はいい思い出です。

インタビューー 田中 敏明



谷 口 晃 一

(52年卒)

㈱鳥取銀行駅南支店 支店長
鳥取市南吉方1丁目64 23-2721
鳥取市吉成 144-20 23-8681

J Cの在籍年数が短いから思い出は……と言われつつも、すぐに頭に浮かぶのは、とにかく『ひどい目にあった』ことしか印象にない。『こどもまつり』でのこと。休みもなしに朝早くから体力を使い、雨にもたたられるし、更には1人の子が病院で何針か縫う程の大ケガをし、その子に付き添い家まで送って行き、文句を言われると思った母親には逆に感謝されたそうです。色々とお話をうかがっている中、話の3分の2は現在の子供の教育、又、ご自分のお子様の教育方針等、こと『子供』に関してお話をされる時のお顔は真剣そのものでした。多分ケガをした子供の母親も、まつりそっちのけで親身になって付き添われた先輩の誠意を感じられたのだと思います。そして、現役メンバーへ、①次代を担う子供達に対して、創造力豊かな人間を育てる事業。②社会に影響を与えるような(行政を動かして)活動を若さを活かしてやって欲しいとの事でした。"若いうちにパワーを活かせ!!"

インタビューー 亀井 邦夫

MESSAGE



盛田 栄一

(52年卒)

モリタ日本通商㈱ 専務取締役
鳥取市商栄町 203-6 23-3641
鳥取市馬場町 27-3 22-6303

一番強烈に印象に残っているのは、1974～75年と2年連続で日本J CのJ C統一デー特別委員会に出向された時の事だそうです。当時姫路J Cの大西委員長との出会いにより、とにかく面白くなり、最初の1年間は毎月東京へ行かれ、そのうちにL O Mの事が次第にわかるようになり、『J Cの良さ』がこの時わかったそうです。更に2年目に倉敷での地区会員大会では、議長を勤められ、それまでのプロセスも合わせ、非常に良い経験になったそうです。日本J Cへは「若いうちに全会員が出向すべきだ。」とのこと。又、会員諸兄もご存知の通り、先輩のゴルフの腕前はプロ級。ハンディは現在4だそうです。昭和41年36才で始められ、昭和49年にはシングルの9、更に8～9年後に4になりました。簡単そうにおっしゃられましたが、その間の努力たるや並々ならぬものがあつたと拝察致しました。前述の毎月日本J Cに出向されたことといい、ゴルフのことといい、ひたむきに努力される真面目なお人柄がうかがえました。

インタビューー 亀井 邦夫



栗嶋 道和

(52年卒)

栗嶋洋服店 代表者
鳥取市栄町 232 22-3882
同上 同上

入会は昭和45年、8年間の在籍中に副委員長、委員長、副理事長、監事を経験。その中でも思い出深いのは、桜土手の完成 中国ブロック会員大会での宣言文の朗読をした時のことだそうです。11年会を結成し、熊田、山根先輩等々と現在も交流をもたれている様子。浜崎、玉木両先輩のその当時からの活躍は現在でも印象に強く残っている事等、当時を思い出していただきながら、本当になつかしそうに話していただきました。その中でも一番印象深く聞かせていただいた事の中に、「J Cに入会するからには目的をもたなくてはいけない、そして在籍中にどんどん積極的に事業に参加し思い出を多くつくり、無事卒業すべきである。」という事。又、J Cは全員で良いアイデアを出しあっている事業を行って欲しい。最後に自分はJ Cに入会し、人間的に大きくしてもらった。本当にJ Cを愛しておられるという感想を持ち、現役メンバーとして考えさせられる事の多かったインタビューでした。

インタビューー 岡村 稔



清水 昭允

(52年卒)

清水商店 代表取締役
鳥取市古海千代金屋センター内 23-1631
鳥取市今町1丁目173 23-0394

弁当持参で、1年間毎日昼休みを事務局に詰め続けられた理事長。今から10年前、当時35才の清水先輩がその人である。トップリーダーのこうした姿勢の下に営まれた1974年のJ C活動は、まちづくりの心の原点とも言える袋川の鯉の放流と美化推進運動の展開・これをひろく市民に問いかけた対外広報『とっとりJ Cニュース』の発行・15周年記念大会の実施・中国地区会員大会を鳥取に招聘するための精力的な努力・そして社団法人格の取得等々、誠に多彩で充実している。「弁当は対話の心」・「すべては挑戦と行動」・「酒は大いに飲め、酒に飲まれるな」・「J Cでオセにしてもらった。」当時の資料を準備してまでインタビューに応じて頂いた先輩の口からは素晴らしい言葉と教訓がほとばしる。私1人よりも、もっと多くの仲間と聞いたかった。

手弁当の1974年そして清水先輩の事、私達はもっと学び直してみる必要があるように思う。

インタビューー 森田 善美

MESSAGE



竹田達夫
(52年卒)

竹田内科医院 院長
鳥取市本町2丁目109 22-4320
同上 同上

お会いした時の第一声は「いつに決まった。」であった。一瞬25周年の日程かと思ったら、実は子供まつりの日程の事、OBどころか、J Cの在籍期間は4年という事で、本人曰く「スリーピングのメンバーで」という事でしたが、なかなかどうして、毎年、子供祭りを行なうたびに、お医者様という職業を生かしていただき、深く感謝しております。在籍の時は丁度J Cゴタゴタの最中だったそうで、いろいろあった様ではある、「途中何度もやめようと思うこともあったが、今となって見ればとにかく最後まで在籍、無事卒業した事をよかったと思う。」という感想でした。そして御自分の御職業を通じての献血、子供まつり等への参加、推進には特に思い出があり忘れられないもの様でした。帰りぎわに、「今度の子供まつりの日程が決まったら知らせてくれ。」と言われた言葉が、卒業された後も続いているJ Cと先生とのつながりを象徴している様で強い印象でした。

インタビュー 藤原 義博



中山隆義
(52年卒)

(株)京屋菓舗 代表取締役
鳥取市南栄町17 53-3143
鳥取市吉方温泉2丁目511 22-2355

29才で入会、11年間すばらしいJ C活動を邁進された。海、山が大変好きな方で、趣味は、魚釣り、山菜採りなど。好きな言葉は「J Cライク」一番の思い出は、袋川を以前の川に戻そうと、鯉が死ぬからとの市民の反対を押し切って、3年間連続鯉の放流をし、潮氏、態田氏と、鯉が定着するまでの2年間、餌づけをした事。そして、少年野球、施設の合同運動会に一度も欠席せずやって来た事。それから、総務副委員長をした時、米原会頭と1年間、北海道、東北、関東、中国、四国、九州、他、一緒に回った事。

あっという間に1時間が過ぎてしまいました。最後に中山先輩は「経営者は自分でブレーキを掛ける事、そうすれば、おのずから失敗はなくなる。」「お酒は二次会までですまそう。」と、我々に助言をして下さいました。先輩方の築いて来られた鳥取J Cを、もっともっと社会の為に、そして自分の為に発展させようではありませんか。

インタビュー 田中 博文



角脇篤彦
(52年卒)

(株)一広 代表取締役社長
鳥取市栄町412 27-6911
鳥取市立川町5丁目66-9 23-5214

私のJ Cでの思い出は多過ぎて何から述べたらいいか迷いますが、子供まつりの第1回実行委員長をした時の事を話します。

第1回目であるので、当時の子供達の考え方を把握する為に、10数校の小学校を回って、どんな遊びが行なわれているか実態調査し分析しました。その結果、自然の下で子供自身が自由に、大人が造ったものでなく、遊ぶということの主眼に行なうこととしました。又、将来の事を考え軌道に乗れば、子供まつりから手を離し抜けられる体制も考えていました。

子供まつりが無事成功に終わって特に感じた事は、J Cには熱い友情と強烈なパワーが集まって、実行委員だけではなく全て一丸となって行なったことが成功につながり出来たのです。このJ C精神を持って、現役の皆様の活動を見守って行きたいと思います。

インタビュー 墨土 功一

MESSAGE



本田 博

(53年卒)

㈱木村塗料商会 代表取締役
鳥取市二階町1丁目203 22-4078
同上 同上

「我々の時代の先輩後輩の関係は大変きびしかった。しかし、いくら怒鳴られても、本人の事を思ってくれているので、腹が立たなかった。常に先輩は思いやりがあり、ばらばらの行動でなく、集団で行動をし、連帯感を深めていった。JCはすばらしい団体であるが、自分の足元を見つめることも必要である。JC活動を通して、おのれのトレーニングの場として、常に努力しなさい。」
1976年度理事長の本田先輩は、今後のJC活動に必要な事をお話になりました。第1回こどもまつり大会長の時、角脇実行委員長と雨で中止と決断しながら続々とやって来る子供達を見て決行したこと、10周年記念誌『ひらけゆく鳥取』の発刊準備に1年のうち280日も費やしたことを、思い出として話されました。現役中に肝臓と奥様からの評判を悪くされた先輩は、卒業後は50才までは力いっぱい働くということで、他団体に入会されることなく、地域の活動に活躍されておりますが、今もなお、JCが大好きな先輩であると確信しました。

インタビューー 矢谷 浩之



松本 順一

(53年卒)

㈱愛進堂 常務取締役
鳥取市商栄町 211-1 26-2441
鳥取市大覚寺 77-16 24-9660

現在、㈱愛進堂常務取締役として御多忙な毎日を送られている。松本OBに「JC」の思い出を語っていただいた。

「私にとって一番思い出深い事業に、第1回こどもまつりがある。意義のある事業にする為に苦労したが、今思えば楽しかった。思い出深い広報委員会、現在、扶桑銀行の山本真琴君に知り会えたのも良き思い出である。今の私の交友関係の軸にJCがある。JCのおかげで、ゴルフ(HD13)も上手になった。JC生活は100%楽しかった。私は今、発想の転換を企業で行なっている。JCによって自分自身を修練し、信念を築いた。」

最後に松本OBから家庭円満の秘訣を教わった。『現役時代から今日に至るまで、家族全員で一緒に風呂に入る』事が家庭円満の秘訣だそうである。

松本OB ありがとうございます。

インタビューー 中河 秀樹



村上 征男

(53年卒)

モリフードセンター
鳥取市湖山町北3丁目304 28-4680
鳥取市湖山町東1丁目428 28-2846

村上先輩は昭和49年に入会され、昭和53年に卒業されました。ちょうど卒業された年に私は入会し、偶然、広報委員会をごいっしょさせていただきました。ちょうど監事もやっておられました。その後、職場が変わり、現在のスーパー業界に入られたのは、うわさで知っていましたが、今年の3月も末頃、湖山へお客様への配達を夜の9時半頃たのまれ、あまり気の進まない商売をすませて帰る途中、湖山ストアの前を通りかかると、村上さんが黙々と店頭で、商品の整理をなさっている姿を見て、一瞬はっと息がつかまるおもいになりました。その時は声をかける事はできませんでしたが、私は村上さんから何か大切な事を学ばせていただいたように思います。帰りの車の中で急に明るい気分になっていました。後日、インタビューで店にうかがいましたが、変らぬ優しい口調で思い出を語っていただきました。卒業式で前後不覚に酔っぱらわれた姿を思い出しました。

インタビューー 山県 勇太郎

MESSAGE



濱崎 貢三

(54年卒)

山陰水道設備工業 代表取締役
鳥取市川端4丁目115 24-6221
鳥取市賀露町 1703 28-1531

今回鳥取青年会議所25周年を迎えるにあたりまして、浜崎貢三先輩にインタビューをさせていただきました。理事長を経験されたOBという事で、大変緊張して話を伺いましたが、先輩の15年にも及ぶJC生活の一端に触れるにあたり、いまだ現役の最中であると感じました。JC時代に数多くの事業、たとえば「花と木のまつり」「少年野球大会」その他。精力的に全国を股にかけて作られた熱きメンバーとの友情、いつも前向きな姿勢、そしてストレートな行動力、JC活動、そして事業はこうあるべきではないかと思われる全てに対して全力投球される姿勢は大変な迫力でありました。2時間のインタビューで我々後輩が濱崎先輩から盗むのは、迫力ある行動力そしてその中に流れる思いやり、それが熱き友情に変るのではないかという事です。先輩大変お忙がしい身でありながらこころよくインタビューに応じていただきまして、大変ありがとうございました。今後共に後輩であります私達を御指導下さいませ様よろしくお願い致します。

インタビューー 松下 和則



谷本 光正

(54年卒)

谷本酒店 専務取締役
鳥取市末広温泉町 274 24-6781
同上 同上

私のJC生活12年の間、思い出に残る事業のひとつとして少年野球大会があります。その当時メイン事業のひとつで、メンバー全員が公設、醇風小（後に千代河原）等に分かれトンボ掛け、水撒き、審判等すべてやったものでした。その中でも野球を余り知らない私が塁審をした時、スライディングをして来た子供にアウトと言った時の顔を今でも忘れることが出来ません。ああ、セーフと言ってやれば良かったと後悔したものでした。

酒屋でありながら飲めない私の楽しみのひとつは麻雀でした。賭けると必ず勝つのですが、賭けることの嫌いな私は、皆に計って賭けの一切ない景品だけの会をしばらくの間楽しみました。気楽さのあまり相手がどんな手であろうがどんどん向かって行きました。現在はどうですか。賭けない麻雀をやられてはどうでしょうか。最後になりましたが、JCの一員にさせて頂き沢山の良き友人の出来ましたことを大変嬉しく思っています。

インタビューー 八木 重雄



牧浦 繁雄

(54年卒)

牧浦商店 代表取締役
鳥取市元大工町 25 23-0591
鳥取市元大工町 3-2 同上

54年卒業された牧浦OBを元大工町の職場に尋ねたのは原稿締切り間近の3月下旬、久しぶりに上着だけの外出となり栗谷から江崎を抜け、池内ふとん店へと露地から露地へ20年振りに細道を通りOB宅へ。少し湿めっぽいにおいのする昔ながらの道を通ったせいか、牧浦OBとの話は鳥取大火の頃からの思い出話。温厚な人柄そのものの牧浦OBと、現在に至るまでの事業拡大、経営者として企業運営の方法等々つついとお互いに話はずみ長居をしてしまいました。やっとお暇をする段になり、JCの話となりましたが、入会動機は隣組の池内元理事長と天徳寺の宮川住職に誘われるがまま……。居心地は可もなく不可もなく楽しいJC生活が送れ、井の中の蛙にならずに済んだ事が一番良かった由。袋川の鯉の放流、美化運動、そして少年野球、施設の合同運動会と話が進み、又々、帰りそびれ、お昼のみそ汁の匂いで長話にピリオドを打ちました。

インタビューー 本村 暁司

MESSAGE



岡垣 彰

(54年卒)

日産サニー鳥取販売㈱ 代表取締役社長
鳥取市岩吉 194 28-6111
鳥取市丸山町 75 24-2338

インタビューー 渡辺 博

岡垣先輩といえば「アリとトンボと花とJC」をスローガンに、鳥取砂丘子供園で開催された、第4回鳥取ブロック会員大会が先づ思い出されます。第4代ブロック会長として活躍された訳ですが、当時を振り返り「生まれて間もない小さな鳥取ブロックにとって、会員、家族が共に参加し交流を深めることを目的とした、この大会は意義があったように思う。」ということでした。又、この時は多くの人々の協力を得て、良い経験をつまさせていただきます感謝をしているとのことでした。「JC活動は奉仕、友愛、修練の三つが強くむすびあって進むのが理想かもしれないが、その時々にあったテーマの下に創造的活動をすることが必要に思う。」ということでした。「JC活動の良さは、新入会員の時は先輩の言われるまま事業に参加することにより学び、又、事業のリーダーシップをとる立場に立ち活動するということにあると思う。」ということでした。



山田 弘

(54年卒)

山田金庫店 専務取締役
鳥取市元町 281 23-0808
鳥取市瓦町 79 24-0381

インタビューー 山田 清

JCの思い出について……「鳥取に象を!!をスローガンに当時の委員会でもじめに検討をかさねた。青少年に夢と希望を膨らませ健全なあそび場所を提供しようといへん燃えた。」また現在の国際問題委員会の発足にたいへん努力された当時のメンバーの1人でもあり、このころが一番燃えたとのこと。現在でも当時の委員会のメンバーが年1回ぐらい夜の会をもっておられる様です。

JCメンバーに望むこと……「JCメンバーはロマンを求める団体になってもらいたい。またJCメンバー1人ひとりが『ジゲ』の若い衆との交流をもっと深めてほしい。」

最後に一言、「当時の山陰には動物園が一つもなかった、子供達の象とたわむれるたのしい姿がいまでもまぶたにうかぶ、当時の理事会で否決されなかったらなあ～……………」



中島 康介

(55年卒)

㈱一乃湯 専務
鳥取市末広温泉町 501 22-2281
同上 454 26-4781

インタビューー 山本 仁志

私のJCの思い出は、平田奏一郎なくしては語れません。もちろん、平田君がからんでいる以上、まともな事ではすみません。

当時、『アラジン』で、ゴキブリグループを結成しました。名誉会長は私で、会長は福田OB、他に水野君、尾崎義人君、平田君、智恵袋は松岡君というメンバーでした。北海道大会の時、アラジンから女性の声で水野君に電話させ、寒いロビーに1時間以上も待たせた事、大阪世界大会の頃より、車内賭博大会を開き、レートを上げ一人勝ちした事。麻雀すれば、もやし山崎に連戦連敗、あげくのはては、アラジンで酒を飲み、風邪をひき、10日間も寝こんだ事。釣りクラブ会長時、大荒れの美保ノ関で、全員船酔いした事等々、まだまだ素晴らしい思い出があります。

しかし、私がメンバーに望むことは、謙虚さを失わず、JCを通じ、友人をできるだけ増し、さらにこの不況時を乗り越えてほしいものです。

MESSAGE



田中英教

(55年卒)

宝珠院
鳥取市南町 605
同上

副任職
22-5786
同上

喫茶店のガラス扉を開くと笑顔で私を迎える方がいる。田中英教先輩である。エンジと白を基調にした洒落たネクタイ、白と黒のチェックの背広、僅かに髪形が職業を思わせるだけでお坊さんという感じはほとんどしない。驚くほどダンディである。挨拶を終え、早速本題へ……「ＪＣでの思い出、そうですネ。理事経験は委員長を含め２度ありましたが、これとって印象深いものはないです。ＪＣに対してのめり込んで活動したことがなかったからでしょう。でも出席はしてましたし、その時々においては、とても楽しかったです。」34才で入会され、同年市議会に出られた田中先輩は、その立場上、一心不乱な活動を控えられた様である。その後政治の話題となり今後のＪＣと行政との関わりについて、「行政に利用されるようになってはいけない。行政に働きかけのできるＪＣであってほしい。」と希望され対談を終了しました。田中先輩、コーヒーご馳走様でした。

インタビューー 前田 昌志



建部 徹

(55年卒)

㈱建部機材料店
鳥取市川端 1 丁目 111
同上

代表取締役
23-2741
同上

鳥取ＪＣ創立25周年おめでとうございます。私は42年に入会し、55年に卒業しましたが、今つらつら思い出しますと、中期がなくて、前期と後期とに大別できます。前期は積極的にＪＣ活動に参加し、後期はこれ又積極的にスリーピングした時期であった様に思います。悪友、良友、旅の思い出等、特に特筆すべきことはありませんが、14年間の在籍中に3つの委員会の委員長をさせて頂き、特に広報委員長の時でしたか、メンバーの原稿を日本海新聞に持ち込みまして、新聞紙二面程度の折込みをＪＣニュースとして出させて頂いたことが、なつかしい思い出として残っております。

最後に、人々の生活も時と共に多様化して、複雑になり、ＪＣの進むべき道、方向を定めるのも難かしい時ですね。羅針盤をくるわす事なく皆さんの英知と勇気と情熱でもって、この混迷の時を切り開き、頑張ってください。

インタビューー 山崎 敏夫



水田 国文

(56年卒)

㈱水田洋装店
鳥取市戎町 514
同上

代表取締役
22-2238
22-2230

ＪＣ生活で印象に残ってる思い出は？ リッチランドでの暁の大論争。清水理事長の時、総務委員長をさせてもらい、理事長職というものは、1年間で1人の人間を変えさせていくものだと感じ、理事長とは素晴らしいものだった事。日本ＪＣへ出向して、ＪＣの値打ちが判り、会議所運動の再発見をし開眼したこと。1年間休会をして、もうこれで終わりかなと思いついたところ、田中英教さん、岩本君、その他16年組などが陰で支えてくれた友情を、非常にうれしく感じた事。安東理事長の時、子供まつり実行委員会で、尾崎義人君のサポート役を命じられ、彼が気を使って、引き立ててもらった事。そして「水野君の時に監事、縫谷君の時に副理事長と、卒業の最後をしめくくれた。いい先輩、いい後輩に恵まれ、非常に感謝している。」と、たくさんの思い出の中で、人間関係を中心に話してもらいました。最後に、現役へ一言「先輩後輩との交流を通じて、素晴らしいキャラクター、素晴らしい人材として伸びて頑張ってもらいたいと望んでいます。」

インタビューー 池上 博行

MESSAGE



木村 修

(56年卒)

木村電機商会
鳥取市卯垣2丁目203
同上

代表者
24-3177
同上

木村先輩は50年後期に入会され、各委員会を経験され、56年卒業まで6年半活躍されました。53年青少年委員会の時、谷口委員長（OB）の下、2人で副委員長をやり、1年間、委員会活動を共にし、酒を飲みかわし、先輩の一本気な所、多少気の短い所、しかし、やる時はやるというガッツを感じました。

J Cの思い出はと聞くと、「こんな人間だけ、あんまり思い出はないが、自分なりに人間関係は大事にしてきた。」とっておられました。

第3回こどもまつりでの苦労話（放送設備、電気配線等）、ブロックスポーツ大会野球の名（迷）ピッチャー、4番打者、西高野球部監督時代、J C活動、仕事と大変だった。

J Cが第2の青春時代ではなかったのでしょうか？ 現在、ライオンズクラブで活躍中とのこと、オジンくさくならないよう、第3の青春時代をおくってください。

インタビューー 姫村 光則



岩本章嗣

(56年卒)

メナード鳥取統轄販売㈱ 代表取締役
鳥取市川端4丁目121 23-5501
岩美郡国府町宮ノ下以原 23-5615

問：J C生活で一番印象に残る事は…色々ありますが、日本青年会議所アカデミー委員会へ出向した事です。寒中、伊勢のいすず川でみそぎをし、感動と涙の1年間を通じて素晴らしい友人を全国に作り得た事です。厳しかっただけに印象深いです。

問：酒席、友人関係について如何ですか…様々な酒席を通して、たくさんの良き先輩にめぐり会え、幸せだと思います。事業を一生懸命やりながら友を得る。これがJ Cの貴重な断面じゃないですか。ロムの先輩後輩ともに長くお付き合いを頂いていますが、出向当時の付き合いも今でも続いています。

問：現役メンバーに一言ありましたら……玉木理事長の時入会し、12年間に亘りJ C活動をしてきた訳ですが、卒業時よりまた一層経済環境が厳しくなっていますね。それだけにJ C活動も種々の困難な要因が起ってくるのではないかと思います。今後共増々、仕事に、J Cに励まれん事をお祈り致します。

インタビューー 松岡 正樹



武坂喜巳

(56年卒)

三基商事㈱鳥取営業所 代表者
鳥取市良田 60-10 57-0630
同上 同上

J C事業について特別な思い出は……地環委員長の頃、袋川に放流した鯉を釣ったり、捕ったりする者がいるというので、有門橋から大杣の水門まで家族ハイキングでパトロールした事があります。そうそう今回のグリコの江崎社長誘拐事件がありましたが、私が日本J C出向した委員会の委員長を当時しておられました。2年後には社長就任祝賀会が大阪であり、私も出席しました。

酒席での思い出は如何ですか……酒の思い出は余りないが、麻雀とゴルフはよくやりましたね。本田理事長の年、青雀会、じゃがいもの年間優勝をし、大きなトロフィーを2つ頂きました。

その他、印象に残る事は？……卒業前年11月、ふとした事から職業を替え、翌年監事が決まっていたので、苦労しながら例会出席しました。今となっては籍し良かったと思うのは、付き合いの幅ができた事です。多くのメンバーとの親交が大事だと思います。

インタビューー 松岡 正樹

MESSAGE



吉川 哲

(56年卒)

寿販売㈱ 代表取締役専務
鳥取市富安2丁目79 26-4121
鳥取市立川5丁目225-5 24-5759

吉川哲OBは、現在、お菓子の寿販売㈱の代表取締役専務として元気に頑張っておられました。JC時代の思い出をうかがいますと、入会は50年に足立・岩本両OBの推薦によるとのことでした。仕事の関係で十分にJC活動への参加が出来なくて残念であったが、安東理事長時代に社会福祉問題の委員長をやり、子供の国で、終日施設の合同運動会で子供達に喜んでもらったことは感慨深いものであった。又、献血では、清水OBが献血の会員制的なものを言われ、大々的に宣伝なされたのが記憶に新しいとのことでした。現役時代には仁保・岩本両OBに大変世話になったとのこと、山本雅明OBと同じ委員会の時、打上げで韓国旅行に参加できなくて残念であったこと、家庭的にはJCと仕事で、母子家庭であったこと等、話はつきませんでした。吉川先輩のさらなる御活躍を願いながら、25周年への出席をお願いして辞してまいりました。

インタビューー 玉川 海潤



仁保 統博

(56年卒)

サンライズ工業㈱ 代表取締役
岩美郡国府町大字庁117-1 23-2731
鳥取市卯垣3丁目403 24-1571

思いおこせば、私がJCに入会したのは確か昭和49年でした。ということは、今から10年前、ちょうど15周年にあたる年でした。当時のメンバーの数は、そのためだったかどうか、かなり多く、今と同じぐらいだった様に記憶します。

8年間のJC生活でしたが、いろいろ事業活動に積極的に参加し、また役員を数々歴任させていただきました。

しかし、なにか特別にこれはといわれても、今から思うと、すぐには頭に浮かびませんが、私の人生におけるもっとも充実した時期の一つではなかったのではないかと思います。あれが、「青春」ではなかったのでしょうか。

ただこれも、私の人生の中での通過点であり、このJC生活によって、人生が左右されるものではないように思います。

インタビューー 稲垣 喜弘



福田 修三

(56年卒)

㈱インテリア・フクタ 代表取締役
鳥取市元魚町4丁目101 23-6501
同上 同上

Q「先輩が入会されてから一番印象に残っている事業は、どんな事業ですか。」
A「何ととっても、入会した時に始まった『鯉の放流』です。袋川のドロをすくってやったものでした。」
Q「JCに関してどう思われますか。」
A「JCは基本的にまじめだと思う。30代によく合った勉強をさせてもらった。失敗したら、やり直せばいい、思う存分に活動された方がいいです。」

Q「現在はどんな活動をされていますか。」
A「鹿野街道振興会青年部の会長をしています。JCで学んだ事が大変役に立っています。」

Q「最後に一言。」

A「みなさん、JC活動をされるのはいい事だと思いますが、それを自分の企業、地域にもって帰らなくては、意味がないと思います。」

インタビューー 阿部 正昭

MESSAGE



丸山 陽光

(56年卒)

まるい食品(株) 代表取締役
鳥取市富安2丁目127 26-2191
八頭郡郡家町郡家75-3 2-0084

インタビューー 永東 明

(JCでの思い出) 5年間という短い期間でした。そのうち、連続3年間は会員開発委員会に所属しました。竹内委員長時代は接待役に徹し、滝尾委員長時代は、友愛の尊さを知りました。そして、委員長をやった時は、JC生活の中で、最とも充実した1年間を過ごしました。それは素晴らしいメンバーと一緒に活動が出来たことです。事業の一つ一つに素晴らしい思い出がありますが、特に打上げの時、委員会メンバー全員が奥様同伴で参加して頂けたことが最高でした。現役メンバーの方々に、是非委員長を経験されることを希望します。

(現役メンバーへ一言) JCには、いろいろな人材が豊富ですから、自分の中味を正直にさらけ出して男を磨いて欲しいと思います。そして例会、委員会は2時間の短い時間です。その2時間に素晴らしいドラマを演出して頂きたいと思います。是非、皆様頑張って下さい。



青山 征洋

(57年卒)

青山製麺(株) 代表取締役
鳥取市立川町5丁目158-2 22-3972
同上 100-12 26-5440

インタビューー 門脇 善和

今、青山製麺の製品は鳥取で高い評価を受けております。その秘密を先輩にお聞きすると、防腐剤・着色剤を使わずに手づくりの感覚で造っておられるとの事で、その経営姿勢に私は青山先輩の人柄がよくでていたと思います。

JC生活では数々の委員長を歴任し、副理事長経験者でもあられ、特にこう言っておられました。「委員長は必ず経験しなさい。委員長を経験しないとJCに入会した意味がない。」と。そして委員長時代、鯉の放流や袋川の美化ポスター展等を一生懸命やったことやアジアコンファレンスで香港に行った時のこと等、思い出話は尽きませんでした。そして最後に先輩は、「どちらかと言うと無口で人前で話をするのは大変苦手で苦勞した。」とのことですが、「自分はスピーチがヘタでどうしようもないナァと思っていても他人はそれほど気にはかけていない。「要するに、取り越し苦勞にすぎないから何事も自信をもってやりなさい」と言われました。



奥田 東一郎

(57年卒)

日本海テレビ放送(株) 販売促進部副部長
鳥取市本町3丁目102 24-7111
鳥取市猪子168 53-0690

インタビューー 植田 哲朗

現役メンバーの中でも大半のメンバーが、奥田先輩のことはおぼえていると思いますが、現在、JC事務局の下の階、日本海テレビの営業局で副部長として御活躍中です。入会は昭和49年、卒業は昭和57年、9年間の在籍中に出来た友人は数知れないと聞きます。卒業年度の57年には会員開発委員長として最後のクリスマス家族会までリーダーシップを発揮されていました。

思い出としては、創立15周年記念式典の時オープニングでのテープスピード調整のまちがいが、今でも残っており、57年の釧路JC30周年に訪問した時、釧路JCの歓待はそれはすごいものだったということです。朝から夜までメンバーがつきっきりで、いたれりつくせり、時間外の事は別として、とにかくすごかったと言われており、逆に鳥取の25周年はどうかと気をつかって頂きました。

ゴルフのHC11、白いものが目立ちだしながらも、かっ歩する姿は、やはり昔の「とらさん」そのままでした。

MESSAGE



角 田 正 昭

(57年卒)

㈱いさみや呉服店

鳥取市新町 111

同 上

取締役

22-2506

同上

私は9年間J Cに在籍していましたが、入会した年が、15周年。次の年が、中国地区会員大会と、大変な事業が続きました。そして、川上野球の担当になりました。走り回っていました。大変なつかしい思い出です。総務委員長、副理事長、ブロック会長と、させていただきまして、素晴らしい出会い、思い出がたくさんあります。中でもJ C活動を通じて、政治的な付き合い、又最近は国際的な付き合いも出来るようになりました。J Cを離れてからでも、付き合いが出来る事は素晴らしいと思う。副理事長の時、理事長代理で、いろんな行政の場に出席しました。たとえば市政90周年、水道料金審議会等ですが、そういう経験がブロック会長の時に、行革に結び付いたのです。J Cも原点にかえり、あまり派手さはないが、息の長い、地味なJ C活動をしていただきたいと思います。25周年をむかえ、ひとつの曲り角に来ていると思います。

インタビューー 森 康彦



足 立 克 之

(57年卒)

㈱鳥取銀行

鳥取市弥生町 323

鳥取市正蓮寺 129-3

調査役

22-8181

24-0307

5年間の短い在籍期間であったが、自分の財産となったのは数多くの友人との交際であろう。仕事を通じての知り合いも多く出来るが、それを上回る中味の濃い付き合いをしてもらった事が何より思い出であり、ありがたい事であった。J Cの活動では年を重ねる毎に段々と興味を増して行き、卒業の年は理事会メンバーにさせていただいた事もあり益々熱を入れて、ほとんどの行事に参加した。今日楽しい思い出ばかりとなったが、こどもまつりのプロジェクトチーム、施設合同運動会、雨中にさまよった泥んこの歩行ラリー、ネパールJ Cとの片言の英会話、卒業生を中心にして参加した釧路J C 30周年記念行事、いつも境港J Cにあと一步で涙をのんだバレーボールなど思い出はつきない。

J C入会を契機として始めた献血は25回を超え、今は自分の年齢に追い付く献血回数を目指している。

インタビューー 筒井 和彦



尾 崎 英 篤

(57年卒)

尾崎金物㈱

鳥取市元魚町2丁目 213

同 上

専務取締役

22-2953

同上

入会は何でも来年中国地区会員大会が鳥取であるとかで大量に入会した時だった様です。作業員代わりにひどくこき使われたことを記憶しています。数年後、尾崎義人君委員長の青少年委員会に所属し事業活動が大変盛りだくさんで、1年中バタバタしたこともありました。やはり、こんな時が一番楽しく、又充実した委員会活動が出来た様です。しかし副理事長を務めた時は非常に苦勞をさせられました。理事長は飛ぶ鳥を落とすいきおいの水野君であった訳ですが、実際はなかなか動かない人で話合いは進展しないし、酒を飲めば荒らけるだけ荒らけておいて後はよろしくというのが常でして、あくる日おわびに回ったものです。現在ではあの様な方はいないだろうと思いますがあまり感心したことではないのでおたがいに気をつけましょう。その他広報委員長や社福委員長をやりましたが、社長になった今ではその当時経験したことを生かし、着実に進むよう努力しております。健康第一、体に気をつけて今後共頑張りましょう。

インタビューー 平田奏一郎

MESSAGE



福田 洋一郎

(57年卒)

福田 酒店 店主
鳥取市元魚町2丁目213 22-2953
同 上 同上

福田先輩に会えたのは4月5日、締切りはとっくに過ぎていた。先輩とは、56年（私の入会の年）広報委員会でお世話になりました。福田先輩は、昭和44年入会、同級生は4人で、卒業されたのは福田先輩1人であつたらしいから、いかにJCを楽しんでこられた方がよく解る。「JC当時の思い出は？」の質問に、「いろいろありすぎて……」第5回鳥取ブロック会員大会、福田実行委員長のもとに、初めての運動会形式での運営の思い出、ひらけゆく鳥取パートⅡの折、角田OBと半年間かかりっきりだった等々、JC賛歌の言葉がでてくる。「JCに入ったのが人生間違いか、間違いでないかわからない。」と言いつつ、とにかく、JC生活が楽しく、又機会があればもう一度JCにもどりたかなと思われるくらい。先輩に、「今のJCは？」の質問をなげかけたら、「OBは卒業したら口出ししない方が良い。」という先輩らしい返事がもどってきた。

インタビューー 大西 克典



安東 正

(57年卒)

㈱マルテ食品 代表取締役
鳥取市安長633-1 26-2006
八頭郡智頭町智頭400 5-0025

安東先輩には大変お忙しい中で、いろいろな体験談、JC感等お話いただきました。この事は私にとっても大変良い勉強となりました。

先輩は21才でJCに入会し40才で卒業されるまでの約20年間、多くの委員会の委員長として、理事長として活躍されました。「思い出は」との質問に、JC以外の団体に所属した事もなく、「自分にとってJCが青春そのものだった」と述べられた事が大変印象的でした。そして、企業人として仕事をする上で、JCで学んだLDを通じての訓練が大変役に立っている事、又逆に、現在、他団体（ロータリークラブ、PTA、町内会等々）に所属してのJCとの比較など、なるほどと思う事もいろいろとお聞きする事ができました。特にJCは1年単位でリーダー、事業共に変わり、リーダーの考えた事業には全員従って行くというまれに見るチームワークのとれた団体である事、LDの運動がJCのエネルギーの源であるという事、JCメンバーは早い時期から地域団体に参加し、社会の一員として勉強し活躍してほしいという事、JCは市民運動の一つであるという謙虚な気持で活動してほしい。

インタビューー 中村 隆



山根 弘志

(57年卒)

前田建設工業㈱鳥取営業所 課長
鳥取市西町1丁目118 24-5096
鳥取市吉方温泉1-509-2 26-2408

サラリーマンの小生が鳥取の若手経営者の団体である青年会議所に入会させて頂いて、人生の中の6年間であったが、大変勉強させて頂いた事に感謝しております。

青年会議所での思い出はなんといっても研修会員の時、一緒に入会した太田泰裕君と当時の山陰ブロックの平田青年会議所へ行き、夜遅くまで青年会議所について話合った事、また最初の委員会が青少年開発委員会で尾崎義人委員長、仁保統博副委員長のもとで厳しくしごかれ、佐治のワークマンキャンプで準備、設営に苦勞をし、やりとげたあとの満足感にひたつたものです。その年錦鯉の袋川への放流、少年野球がありました。少年野球の準備のため3日間会社を休み、一生懸命がんばりました。他の多くの会員と違いサラリーマンですので会社の理解がなければ続けられなかったわけですが、その分卒業後会社に恩返しをしたいと思っています。沢山のひと知り合いになれ有意義な6年間でした。

インタビューー 古田 治人

MESSAGE



山本 雅 明

(57年卒)

南万年筆博士
鳥取市栄町 605
鳥取市瓦町 371

代表取締役
22-3630
22-4822

25周年おめでとうございます。今若い諸君に「40才までにたらほど恥をかきなさい。」と勧めたい。失敗をし、恥をかき、その悔しさをバネにして次のステップへ進むのです。かって、青年の翼でネパールへ行き、訪問スピーチの際、全く喋れず赤面し、はずかしい思いをしたことがありました。その思いが、帰国後、英会話教室の開講、思い出深い国際問題委員会の新設、企画室の充実強化等のエネルギーとなり燃えてやりました。

安東正君に誘われて入会し、青山征洋君、林繁之君らの友人、諸先輩にも恵まれ幸せなJ Cライフ10年間でした。感謝しています。最近のJ Cについては、行事が多すぎ、やたら忙しいけど何をしているかわからないという傾向がありませんか。25年たったから良いというものではありません。組織とは、外からの力より、内部の力によって音もたてずに崩壊するものだといわれます。将来50周年、100周年が盛大に祝えるよう、現役の諸君、気を引き締めて頑張ってください。
インタビュアー 坂本 治



今井 陸 雄

(58年卒)

大山証券 株
鳥取市吉方温泉3丁目101
鳥取市南吉方3丁目432

専務取締役
23-2811
22-4941

事業では、こどもまつりの景品集めが一番大変だった。又、委員会では経営開発の委員長を務めさせてもらいましたけど、この時に事業所案内を作らせてもらいました。これがまた、非常に大変でした。それから指導力での座禅は、冬の寒い時でしびれました。でも楽しかったです。

私はJ Cに入る前はビールをコップ半分しか飲めなかったのが、卒業の時はお付き合いができるようになっていました。そうそう一番の思い出は、秋田での全国大会です。鳥取J Cが優秀賞をいただいて、そして夜は米原元会頭と酒がのめて、秋田の酒は最高にうまかったですよ。

私はJ Cに入って本当に自分自身が大きくなったと思っています。多数の人を前にしての話し方、会議の進め方等、今、本当にたすかっています。最後にコメントとして、社会、地域、会社、自己、鳥取のために、英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会づくりにがんばりましょう。

インタビュアー 刈込 晴彦



谷 口 武

(58年卒)

谷口医院
鳥取市南町 425
同上

事務長
22-2332
24-2550

J Cには10年在籍しました。色々思い出がありますが特に印象深いのは少年野球に目一杯、力を注いだ事です。その少年野球を私が青少年の委員長をしている時継続事業からはずすという話があり、やめなければならなくなった事は残念な事でもあり勇気のいる事でもありました。その他酒の思い出では京都会議など他の土地で大勢のメンバーと飲んだ事など思い出されます。とにかく百人からの若い団体というのは大きな力です。特に皆さんは職場等で他の人をリードしてゆく立場の方も多いのですから、これからの鳥取を変えてゆく軸になって欲しいと思います。J Cで勉強したり、訓練を受けたりした事を、他の場でもっと役立てて戴きたいと願っております。多忙な方も多くなかなか大変な事とは思いますが、P T A、町内自治会等市民との深いかかわりの中から一人ひとりが仲間をふやし、大きくなって教育を、鳥取を変えていってくれる事を願います。

インタビュアー 中村 睦二

MESSAGE



赤松 英洋

(58年卒)

㈱ サウナ 高砂 専務取締役
鳥取市吉方温泉2丁目509 22-7620
鳥取市本町3丁目220 22-3258

昭和47年に入会されたのですが、その動機としては、学生生活も含め10年程鳥取を離れていたもので、46年に帰って来たとき、そのブランクを埋め、鳥取をよく知る事と、友達をつくる事の2点であったそうです。J C生活の中で忘れられない思い出は、昭和50年青少年委員長の時、V 9監督の川上哲治氏を招かれ少年野球教室と講演会を開いた事だそうです。

昭和50年というと、ミスタージャイアンツ長島が引退し、川上氏の後継者として巨人軍監督に就任した年であり、川上氏は勇退後、少年野球の育成にのりだされた年でした。丸2日間美食家で聞こえた川上氏と飲んで食べて大いに語り合った日の事を目を輝かして大いに語られました。

只の野球人でなく、実績に裏打ちされた実践理論の人生哲学に素晴らしい人間性を学ばれたとの事でした。現在はライオンズクラブに加入され大いに頑張っておられました。

インタビューー 瀬川 健一



濱岡 俊夫

(58年卒)

鳥取マツダ自動車㈱ 総務課長
鳥取市今町2丁目382 22-7211
鳥取市丸山町 81 23-3226

J Cとは「自己啓発」「友人づくり」に最適の場であるとの話から、良友・悪友の名前が挙げられました。森田善美、真先信男、瀧本紀晴、伊藤学、阿部正昭、田淵吉男各氏の順不同、区分は？であります。

苦勞された事は、55年のこどもまつりで、工作コーナーを1人で担当され、山中深く割り入り竹を切った竹取物語。特に、J C諸メンバー氏に絶大な協力を得て盛況に終えられた点についてはJ C活動をして得たプラス点として挙げられた「協力体制」を充分裏付けられるお話でした。現在も第9回こどもまつりの準備が最高潮であり青少年委員会の一員として参加している私にとっても非常に勇気づけられる貴重な体験談でありました。

そして57年の総務委員会で京都会議、伊勢の全国大会での時の森田委員長への思いやり等、非常に温かい人柄にふれ「友情」の温かさを感じ取りました。

インタビューー 瀬川 健一



水野 一水

(58年卒)

水野商事㈱ 営業部長
鳥取市吉方町2丁目451 26-5551
同上 24-3297

J Cでの思い出は、きりがいいようですが、やはり各事業の中で一番印象深かったのは「いなばっ子スクールでした。」計画実施にあたって石川県まで『はくいっ子スクール』を見学に行かれたこと、第1回参加の小学生は、今ではもう高校1年生になっていること。又、新聞での高校入試合格発表の中に彼ら1人ずつの名前を見つけては、よくやっとなと喜んだ等々。

J C歴10数年の間、旅行は数え切れない程行かれたそうだが、互いのコミュニケーションをはかるには「旅が一番」だそうである。

お互いに裸になって話ができて(別にトルコ風呂のことではない)深い友情が生まれる最高の機会でもある。久しぶりに会っても「あの時はこうだった。」と、長い年月を超えて共有の世界を持てる仲間ができる。すなわち、長い目でみれば自分にとって非常に大きな財産をつくるチャンスだということである。

インタビューー 矢谷 博志

MESSAGE



荒田 英毅

(58年卒)

㈱千代田工務店 代表取締役
鳥取市二階町3丁目211 22-3435
鳥取市湯所町1丁目618-3 26-1787

見るからに磊落な人柄です。10年間JC活動をしてこられた荒田OBは一つの哲学を持っておられました。曰く、「JC活動とはロム単位で行なうものである。」というわけで、県外での事業参加の方は、専ら親睦会やお遊び中心だったようで。

数々の事業の中で一番印象深いのは第2回こどもまつりだそうです。前日搬入した機材を不とどき者に荒らされるのを心配して、アコヤの前でカブをやりながら一晩中パトロールされたとか。しかし、事業の成功よりOBにとって真の友情をメンバーと得たことの方が大きかったそうです。その後も大変力になってくれ、結局JC活動とは人の為にするのではなくて、後から全て自分自身にかえてくることを知ったそうです。

自分にとって本当に有意義な10年であり、JCという場を得たことを非常に感謝しているとの感想でありました。

インタビュー 矢谷 博志



寺谷 誠一郎

(58年卒)

㈱光南 代表取締役
八頭郡智頭町芦津277 5-3311
同上 (08587)5-0582

智頭の秘境から出て10数年、2世との付き合い・男同士の付き合いで、一歩大人になる前の男の心を知る事が出来ました。JCとはなんぞや？ 何時も問題になることですが、結論を出してしまうと終止符であり、「なんたらあなあ」と思っているところに継続の意義を感じる事ができ、40才の天井で新陳代謝があるから「すばらしい」と表現できる活動であります。

理事長時代大ざっぱな感覚で、副委員長、各委員長のみなさんにのびのび活動してもらったつもりです。しかし特に20周年記念にあたり、大方の不安を押し切り、まつり屋さんの本領を發揮し、理事長権限でストリップ(トップレス)ショウを強行しました。男本来の式典をすることが出来たと、今では非常に良い思い出です。

JC活動は、人生の一点ですが「燃える時には燃える活動」を期待します。

インタビュー 加賀田和久



森田 勝憲

(58年卒)

㈱森田印房 代表取締役
鳥取市吉方温泉1丁目329 23-4547
鳥取市東今在家87-68 29-0351

「JCは金石の契たれ」 森田勝憲先輩は昭和54年入会され、指導力開発委員会、経営開発委員会、社会福祉問題委員会と歩んでこられ、昨年(58年)卒業されました。入会時はJC20周年記念事業があり、大変な労働力(鉢運び)と頭脳(鉢配置)等々を發揮されたそうです。社会福祉問題委員会には3年間に在籍され、委員長時は委員会を自分の企業として考え、運営されたそうです。又「JCは、青年として先を見る事業を行うべきだ。」との考えに基づいて、国際障害者年の翌年、継続事業の多い中、社会福祉問題委員会では手話活動を導入されました。4年半という在籍年数は、現在「新記録」だそうです。例会欠席1回と言われるように、JC活動に完全燃焼されました。酒・ゴルフ・麻雀なんでもござれの万年青年(?)その結果、悪友多く良友少なし??森田先輩曰く、私の財産は「友」と左親指の「タコ」と語っておられました。「JCは金石の契たれ」森田先輩、有りがとうございました。

インタビュー 田中 道明

MESSAGE



大久保 善 夫

(58年卒)

オオクボ正時堂

八頭郡智頭町智頭 1539-3 (08587)

同 上

5-0323

インタビューー 加賀田和久

昭和50年に入会しましたが、私の場合は自分の店が八頭郡智頭町にあるためまず地域性のギャップを感じました。JC活動のために往復2時間もかかる、酒を飲むと帰れない、etc…のハンディキャップの中で、入会以来8年間「自己修練」「友人づくり」を2本柱に、一貫して取り組んでまいりました。入会した時から卒業までこの考え方は変わりませんでした。計画をもって向かえば、自営の仕事も家庭もなんとか都合をつけれるものです。

40才までという限りのあるJC活動を通じ、8年の間に年代を問わない先輩後輩と知り合いになれたことが、私にとって非常にプラスになり、且つJCのもつ最大の魅力でありました。



林 繁 之

(58年卒)

㈱林洋品店

鳥取市川端5丁目207

鳥取市行徳い152

代表取締役

23-1058

24-2529

インタビューー 田中 道明

林繁之先輩は、昭和49年入会されJC在籍10年というキャリアウーマンならぬキャリアボーイ？「入会時は15周年で20周年の為の水増し人間として入会した。」と言っておられました。本当ですか？林先輩は入会時、青少年開発委員会を振り出しに指導力・広報・社会福祉問題委員会と歩んでこられました。中でも広報委員会の経験が豊富で、その委員会でJCとは何か分かったとの事。又、指導力委員会時、最優秀委員会賞を受賞されました。一方、国際特別委員会（設立準備委員会）にも参加され、第1回青年の翼でネパールを訪問、現地では国賓として招待され、大変思い出深い経験をし、現在もその翼（友情）が広がっているそうです。又、マニラ、シンガポール、台湾など世界会議に参加され、ここでも「友情の輪」を広げ、有意義な体験をされたそうです。

中国地区ブロック大会準優勝、58年度取りきり戦優勝と輝しいゴルフ戦歴も残されました。林先輩、有り難うございました。

森田 一郎 (44年卒)

松浦 寛 (44年卒)

芝岡 禎一 (47年卒)

宮本 博介 (49年卒)

森 修二 (51年卒)

上記先輩は、残念ながら編集期日までにご連絡がつかず、インタビューを頂戴することができませんでした。

鳥取青年会議所
会員名簿

四

役



理事長 **大呂 隆則**
 大一林業 (O型)
 代表取締役 (08587)
 689-15 八頭郡智頭町大呂404 ☎5-0074
 同 上 ☎5-0074
 S 20. 8. 25生 S 46入会 育代



直前理事長 **安田 晴雄** (指導力開発委員会)
 安田精工株
 常務取締役 (O型)
 680 鳥取市正蓮寺99 ☎23-2451
 680 鳥取市浜坂548-5 ☎23-8997
 S 19. 6. 27生 S 50入会 清都子



副理事長 **山田 富士雄**
 大森タクシー株
 専務取締役 (A型)
 680 鳥取市幸町82 ☎22-8575
 680-11 鳥取市倭文401 ☎53-1402
 S 19. 6. 5生 S 47入会 好江



副理事長 **福本 登**
 観光タクシー株
 常務取締役 (A型)
 680 鳥取市末広温泉町355-2 ☎27-6075
 680-14 鳥取市桂見826-2 ☎28-6330
 S 22. 6. 16生 S 54入会 智子



副理事長 **西本 昇一**
 南西本酒造場
 専務取締役 (B型)
 680 気高郡青谷町青谷3960 ☎85-0917
 同 上 ☎85-0917
 S 24. 1. 11生 S 48入会 真里

企画



室長 **門田 成男**
 不動産工業 (B型)
 部長
 680-11 鳥取市玉津48 ☎53-0011
 680-11 鳥取市玉津50-2 ☎53-3272
 S 25. 1. 15生 S 52入会 政江



松谷 一生
 松谷商店 (A型)
 680 鳥取市新町110 ☎22-2313
 同 上 ☎22-2313
 S 22. 8. 31生 S 52入会 幸枝



谷口 博文
 谷口和紙株
 代表取締役 (O型)
 689-05 気高郡青谷町河原358-1 ☎86-0116
 同 上 ☎86-0701
 S 23. 3. 3生 S 50入会 成子



熊田 一隆
 南熊田ビル
 代表取締役 (B型)
 680 鳥取市吉方温泉3-852 ☎22-3333
 同 上 ☎22-4248
 S 23. 9. 2生 S 49入会 結子



大西 左登志
 鳥取県錦鯉養殖業生産組合 (B型)
 681 岩美郡岩美町大谷1706 ☎72-8280
 同 上 ☎72-8280
 S 26. 3. 22生 S 50入会 元子

総務委員会



委員長 **松下 栄一郎**
 中央印刷株
 生産部長 (O型)
 689-11 鳥取市南栄町34 ☎53-2221
 680 鳥取市東今在家72-4 ☎27-7887
 S 25. 10. 29生 S 52入会 鏡子



副委員長 **山崎 安造**
 山崎税理士事務所
 所長 (A型)
 680 鳥取市南町327 ☎27-0182
 同 上 ☎27-0182
 S 25. 2. 26生 S 56入会 朋子



伊藤 学
 ホテルニューオータニ鳥取
 営業部長 (A型)
 680 鳥取市今町2-153 ☎23-1111
 680 鳥取市浜坂1513-4 ☎23-5806
 S 22. 11. 5生 S 56入会 邦子



石井 秀樹
 鳥取信用金庫西支店
 次長 (A型)
 680 鳥取市川端4-128 ☎23-0081
 680 鳥取市松並町2-260 ☎24-3356
 S 19. 2. 17 S 54入会 富子



竹崎 栄志
 竹崎洋服店 (O型)
 680 鳥取市弥生町282 ☎22-2502
 680 鳥取市弥生町278 ☎24-7569
 S 28. 11. 21生 S 57入会 智子



太田 泰裕
 南山陰都市開発研究所
 専務取締役 (A B型)
 680 鳥取市南町816 ☎29-1235
 680 鳥取市湖山町南3-311 ☎23-4678
 S 24. 1. 22生 S 52入会 悦子

広報委員会



委員長 **植木 聡**
 総合印刷出版株
 取締役総務部長 (A型)
 680 鳥取市西町1丁目215 ☎23-0031
 680 鳥取市青葉町2丁目216 ☎23-2038
 S 26. 6. 21生 S 51入会 英重



副委員長 **伊吹 直仁**
 伊吹商店 (O型)
 680 鳥取市川端1丁目118 ☎26-1260
 同 上 ☎26-1260
 S 30. 1. 10生 S 57入会



加納 衛
 南加納
 代表取締役 (O型)
 680 鳥取市二階町2丁目216 ☎23-5611
 同 上 ☎23-5611
 S 19. 2. 23生 S 43入会 幸子



縫谷 昌生
 鳥取米油株
 専務取締役 (A型)
 680 鳥取市吉方温泉3-106 ☎23-2291
 680 鳥取市浜坂1607 ☎22-6487
 S 19. 6. 26生 S 42入会 洋子

広報委員会



平木 正治

扶桑相互銀行本店
部長代理 (O型)
680 鳥取市栄町403 ☎22-2131
680 鳥取市馬場町279 ☎53-1079
S 25.1.13生 S 56入会 真弓



吉村 隆彦

鳥取防災株
取締役 (B型)
680 鳥取市二階町4丁目208 ☎23-3241
680 鳥取市二階町4丁目117 ☎23-3241
S 27.1.1生 S 54入会 真理恵



松本 智賀男

株愛進堂 (O型)
680 鳥取市栄町221-1 ☎26-2441
689-02 鳥取市美萩野1丁目70 ☎59-0506
S 31.10.31生 S 56入会

国際問題委員会

委員長 太田 義人



鳥取 杞柳
専務取締役 (A B型)
680 鳥取市青葉町3丁目212 ☎23-1321
680-07 八頭郡若桜町若桜1223-2 ☎(08588)2-0611
S 28.4.8生 S 53入会 克江



副委員長 藤原 正

株藤原組
取締役土木部長 (O型)
680 鳥取市行徳は114 ☎23-5641
680 鳥取市東町3丁目153 ☎22-4392
S 27.1.1生 S 57入会 さとみ



西山 林一

株西山家具
専務取締役 (A型)
680 鳥取市古海328 ☎23-3697
680 鳥取市里仁34-11 ☎28-5096
S 22.3.23生 S 49入会 幸代



山内 一博

山内写真館 (A型)
689-02 気高郡気高町浜村55-1 ☎82-0595
同上 ☎82-0595
S 22.6.22生 S 58入会 貞子



高岡 繁

電化の店タカオカ (A型)
680 鳥取市栄町754 ☎22-3870
680 鳥取市行徳い-226 ☎24-2928
S 24.5.11生 S 57入会 美和子



真嶋 茂

日ノ丸印刷株 (O型)
680 鳥取市寿町915 ☎22-2248
680 鳥取市今町1丁目561 ☎22-2540
S 25.3.29生 S 50入会 朋枝



西尾 正博

日本テレコム株 (A型)
代表取締役
680 鳥取市弥生町274 ☎26-0510
同上 ☎23-0037
S 25.1.27生 S 57入会 余詠子

国際問題委員会



中村 睦二

扶桑電気工事 (B型)
専務取締役
680 鳥取市栄町124-1 ☎23-0408
680 鳥取市栄町226-1 ☎23-5895
S 27.3.28生 S 57入会 美智子



石本 隆

株石本組 (O型)
専務取締役
680 鳥取市古海661の1 ☎24-1581
680 鳥取市桂見501 ☎28-3490
S 27.7.6生 S 57入会 千代子

地域環境開発委員会

委員長 谷本 真一



株谷本酒店 (B型)
680 鳥取市末広温泉町274 ☎24-6781
680 鳥取市古海1138-8 ☎26-6833
S 23.6.18生 S 55入会 順子



副委員長 手島 充

東京印刷株 (A B型)
営業課長
680 鳥取市南吉方1-63-1 ☎22-1425
680 鳥取市浜坂1390-14 ☎26-1497
S 29.1.2生 S 57入会 年代



田淵 克夫

株オリエント会館 (B型)
専務取締役
680 鳥取市栄町626 ☎23-2101
680 鳥取市立川5丁目165-18 ☎22-7452
S 19.3.3生 S 45入会 千鶴子



西原 淳吉

西原鉄骨工業株 (B型)
680 鳥取市古海365-3 ☎23-6441
680 鳥取市若桜町53 ☎23-6406
S 19.1.1生 S 50入会 愉子



森原 強

司法書士 森原 強事務所 (B型)
代表者
680 鳥取市西町3丁目101 ☎24-5881
680 鳥取市西町2丁目122 ☎24-3267
S 22.6.12生 S 50入会 洋子



竹内 敬雄

竹内石油店 (A B型)
専務 (08587)
680-04 八頭郡郡家町郡家 ☎2-0111
680-04 八頭郡郡家町郡家74-次1 ☎2-0011
S 23.7.1生 S 48入会 直子



姫村 光則

有姫村電器商会 (O型)
680 鳥取市大工町頭29 ☎22-2675
同上 ☎22-2675
S 25.12.2生 S 46入会



児島 均

株児島商店 (A型)
680 鳥取市川端5丁目205 ☎22-4624
同上 ☎22-4624
S 27.3.19生 S 57入会 知子

地域環境開発委員会

刈込 晴彦



南嶋 屋 (B型)
680 鳥取市商栄町160-7 ☎23-0261
680 鳥取市美萩野3丁目134 ☎59-0138
S 22.5.15生 S 59入会 由紀

田中 道明



株一 広 (B型)
営業課長
680 鳥取市栄町412 ☎27-6911
680-06 八頭郡八東町島232 ☎(085884)3363
S 27.1.30生 S 59入会 京子

経営開発委員会

委員長 植田 哲朗



植田印判 (A B型)
駅前店長
680 鳥取市川端2丁目221 ☎22-2841
同 上 ☎22-2841
S 26.6.25生 S 56入会 祥子

副委員長 林 憲二



株林兼太郎商店 (A型)
680 鳥取市元町309 ☎23-2511
680 鳥取市川端4丁目215 ☎23-2071
S 28.4.26生 S 56入会

金沢 泰治



ミサワホーム鳥取株 (A B型)
専務取締役
680 鳥取市富安2丁目69 ☎24-4491
680 鳥取市立川町3丁目459 ☎23-2508
S 21.2.11生 S 51入会 順子

三谷 鉄夫



南ザ・ファースト (O型)
代表取締役
680 鳥取市今町2丁目127 ☎26-6871
同 上 ☎24-6849
S 21.8.27生 S 56入会 紀子

有本 義和



大崎瓦鳥取販売株 (O型)
代表取締役
680 鳥取市桜谷271-13 ☎26-3378
同 上 ☎26-3378
S 23.11.30生 S 57入会 文子

大月 徹



鳥取ホンダ販売株 (A型)
専務取締役
680 鳥取市秋里244の2 ☎28-3111
680 鳥取市浜坂561-2 ☎27-0179
S 24.10.10生 S 55入会 克子

矢谷 英次



南コロナ無線電器 (O型)
680 鳥取市富安2丁目93 ☎26-0811
同 上 ☎26-0811
S 27.5.2生 S 58入会 惠津子

田中 謙



鳥取県庁 (B型)
主 事
680 鳥取市東町1丁目220 ☎26-7097
680 鳥取市覚寺50-1 ☎23-0010
S 27.7.5生 S 58入会 加代子

経営開発委員会

乾 康彦



株イヌイ (B型)
マネージャー
680 鳥取市栄町616駅前杏番館内 ☎26-3396
680 鳥取市御弓町56 ☎22-5556
S 32.1.6生 S 58入会

青少年開発委員会

委員長 瀧本 紀晴



株瀧本塗工店 (A型)
専務取締役
680 鳥取市川端3丁目216 ☎26-3515
同 上 ☎26-3515
S 26.1.1生 S 54入会 八重子

副委員長 小林 充典



和風レストランニューなかじま (B型)
専務取締役
680 鳥取市栄町401本通ビル ☎22-3105
680-05八頭郡八東町新興寺563-3 ☎(085884)3056
S 28.4.4生 S 57入会 晶子

中井 郁



メガネのナカイ (B型)
代表取締役
680 鳥取市永楽温泉町106 ☎23-1139
680 鳥取市青葉町3丁目314 ☎23-7270
S 21.2.18生 S 50入会 春恵

水田 憲夫



山陰合同銀行鳥取支店 (A型)
得意先 主任
680 鳥取市栄町502 ☎26-4151
680 鳥取市西町5丁目175 ☎26-1812
S 21.11.2生 S 58入会 智香子

真先 信男



マサキ花店 (A型)
店主
680 鳥取市新町116 ☎22-2974
同 上 ☎22-2974
S 22.1.19生 S 54入会 佳代子

中谷 浩輔



鳥取銀行総合企画部 (O型)
副調査役
680 鳥取市弥生町323 ☎22-8181
680 鳥取市中町62 ☎23-4222
S 22.7.31生 S 58入会 泰江

八木 重雄



やぎや菓舗 (B型)
代表取締役
689-11鳥取市南栄町工業センター ☎53-3123
680 鳥取市田園町4丁目252 ☎24-4408
S 22.11.3生 S 45入会

田淵 吉男



南田淵商店 (A B型)
常務取締役
689-11 鳥取市南栄町33-6 ☎53-3001
680 鳥取市桜谷33 ☎26-5896
S 23.4.28生 S 50入会 陽子

引地 雅己



三和工業株 (O型)
専務取締役
689-11 鳥取市南栄町33-19 ☎53-3032
680 鳥取市南町153 ☎22-4724
S 23.8.18生 S 53入会 泰恵

青少年開発委員会

梨原 剛



株鳥取読売
専務取締役 (A型)
680 鳥取市行徳ろ-313 ☎23-1831
680 鳥取市湯所1丁目536 ☎23-3490
S 28.9.27生 S 58入会 裕子

田中 敏明



田中瓦店 (A型)
689-02 気高都気高町宝木917 ☎82-0354
同 上 ☎82-0354
S 33.9.2生 S 58入会

瀬川 健一



戸田建設株鳥取営業所
営業主任 (A型)
680 鳥取市吉方温泉町3丁目705 ☎23-7239
680 鳥取市永楽温泉町505 ☎27-7707
S 26.4.16生 S 59入会 小夜子

教育文化問題委員会

委員長 亀井 邦夫



南亀井堂
常務取締役 (O型)
680 鳥取市徳尾122 ☎22-7293
680 鳥取市材木町103 ☎23-4797
S 26.3.25生 S 55入会 慶子

副委員長 岡村 稔



鳥取プロパン南
専務取締役 (O型)
680 鳥取市寿町619 ☎24-8321
680 鳥取市浜坂1536 ☎27-0062
S 29.9.5生 S 57入会 美智子

山本 洋



株山本建築工業
取締役社長 (A型)
680 岩美郡国府町分上282 ☎23-3656
680 鳥取市吉方町2丁目454 ☎22-2617
S 21.8.25生 S 48入会 絃子

森田 善美



株森田屋呉服店
専務取締役 (O型)
680 鳥取市弥生町179 ☎26-1208
同 上 ☎26-1208
S 23.9.1生 S 52入会 恵子

藤原 義博



日産サニー鳥取販売株
業務部長 (O型)
680 鳥取市岩吉194 ☎28-6111
680 鳥取市湯所町1丁目736 ☎22-8783
S 25.3.19生 S 51入会 まち子

田中 博文



南田中製作所 (O型)
680 鳥取市伏野239-5 ☎59-1121
680 鳥取市伏野1043 ☎59-0378
S 27.1.17生 S 56入会 郁子

墨土 功一



日興土地観光有
常務取締役 (B型)
680 鳥取市末広温泉町659 ☎22-8081
680 鳥取市南吉方1丁目68-6 ☎23-8382
S 27.3.5生 S 58入会 仁美

教育文化問題委員会

矢谷 浩之



矢谷板硝子株 (B型)
680 鳥取市行徳は358-2 ☎23-3724
680 鳥取市東今在家537-13 ☎22-4394
S 29.1.8生 S 54入会 里美

中河 秀樹



中河酒店 (RH<->B型)
680 鳥取市行徳い740 ☎22-5668
同 上 ☎22-5668
S 31.2.12生 S 58入会

社会福祉問題委員会

委員長 山県 勇太郎



ヤマガタカメラ店 (A型)
680 鳥取市川端1丁目202 ☎22-2959
同 上 ☎22-2959
S 22.10.8生 S 53入会 美代子

副委員長 松下 和則



南仏蘭西屋
代表取締役 (A B型)
680 鳥取市栄町408 ☎26-5561
680 鳥取市湖山町北5丁目209-1 ☎28-4686
S 26.9.4生 S 55入会 和恵

尾崎 義人



南尾崎プレス工業所
取締役工場長 (A型)
680 鳥取市布勢115 ☎28-1884
680 鳥取市湯所町1丁目726-3 ☎22-4572
S 20.1.2生 S 47入会 満子

本村 暁司



日本海テレビ放送 (B型)
副 参 事
680 鳥取市本町3丁目102 ☎24-7111
680 鳥取市栗谷町1 ☎29-1160
S 21.1.22生 S 57入会 幸世

渡辺 博



株サービス呉服店 (A型)
680 鳥取市戎町422 ☎22-8315
同 上 ☎23-2225
S 22.7.2生 S 49入会 光子

山田 清



毎日タクシー株 (O型)
専務取締役 (O型)
680 鳥取市今町1丁目133 ☎22-8289
同 上 ☎26-0065
S 22.9.11生 S 51入会 ツチエ

山本 仁



ベビーセンターやまもと (B型)
680 鳥取市職人町25 ☎22-5219
同 上 ☎22-5219
S 31.6.5生 S 58入会 安代

前田 昌志



前田呉服店 (O型)
680 鳥取市新町201 ☎22-3046
同 上 ☎23-4040
S 31.10.15生 S 58入会

社会福祉問題委員会

矢谷 博志



アロ一産業株
専務取締役 (A型)
680 鳥取市立川5丁目50 ☎22-5538
680 鳥取市吉成914 ☎53-4120
S 26.12.9生 S 59入会 直子

指導力開発委員会

委員長 山崎 敏夫



丸福産業 (A型)
代表取締役
680 鳥取市行徳ろ-818 ☎22-6238
同上 ☎22-6238
S 22.11.7生 S 53入会 美恵

副委員長 池上 博行



南山陰不動産センター (A型)
取締役
680 鳥取市末広温泉町158 ☎24-2251
同上 ☎26-9679
S 25.1.17生 S 57入会 英子

角谷 春海



カドヤ証券 (B型)
取締役
680 鳥取市二階町1丁目113 ☎29-0111
680 鳥取市湖山町2960-179 ☎28-0745
S 20.7.6生 S 52入会 照代

松岡 正樹



株ひつじや洋服店 (O型)
代表取締役
680 鳥取市元町270 ☎24-2322
同上 ☎24-2321
S 23.3.21生 S 47入会 昌子

玉川 海潤



玉東観光 (B型)
取締役営業部長
680 鳥取市安長393-3 ☎24-4548
同上 ☎22-5449
S 27.7.1生 S 57入会 洋子

稲垣 喜弘



山陰電気工業株 (O型)
営業課長
680 鳥取市職人町33 ☎23-3061
680 鳥取市庵丁人町16-1 ☎22-2098
S 29.1.8生 S 58入会

阿部 正昭



株アベ鳥取堂 (A型)
専務取締役
680 鳥取市富安2-28 ☎26-1311
同上 ☎22-4933
S 32.1.1生 S 54入会

加賀田 和久



株鳥取マツダ自動車 (A型)
課長
680 鳥取市今町2丁目382 ☎22-7211
689-12八頭郡用瀬町金屋169 ☎(085887)2439
S 21.6.12生 S 59入会 みさ子

会員開発委員会

委員長 永東 明



株山陰放送鳥取支社 (A型)
主事
680 鳥取市元町124 ☎23-5581
680 鳥取市桜谷192-19 ☎27-6870
S 23.4.1生 S 56入会 瑞枝

会員開発委員会

副委員長 門脇 善和



いわし屋 (A型)
店長
680 鳥取市吉方温泉3丁目501 ☎22-3851
680 鳥取市大杵371-9 ☎27-1410
S 27.4.2生 S 56入会 真弓

岩見 経行



株岩見水産 (O型)
取締役専務
681 岩美郡岩美町岩本 ☎72-8030
681 岩美郡岩美町網代118-20 ☎72-8211
S 19.12.10生 S 48入会 歌子

森 康彦



南森食品 (B型)
専務取締役
680 鳥取市行徳ろ829 ☎22-7493
680 鳥取市西品治936 ☎24-7064
S 21.3.4生 S 55入会 由美子

筒井 和彦



筒井被服南 (A型)
専務取締役
680 鳥取市立川町4丁目101 ☎22-2517
680 鳥取市大杵297-7 ☎26-0383
S 22.3.19生 S 53入会 京子

平田 奏一郎



ヒラタ塗装工芸社 (O型)
専務取締役
680 鳥取市興南町140 ☎23-6561
同上 ☎23-6561
S 22.12.6生 S 49入会 博子

大西 克典



大西ゴム工業所 (A型)
専務
680 鳥取市片原4丁目 ☎23-7411
同上 ☎23-7411
S 23.1.14生 S 56入会 佐代子

中村 隆



アコヤ楽器店 (A B型)
680 鳥取市元町318 ☎23-1331
680 鳥取市富安327-1 ☎29-0283
S 23.2.15生 S 51入会 佳子

古田 治人



鳥取互助センター (A型)
代表取締役社長
680 鳥取市富安2-47 ☎26-3535
680 鳥取市下段188-1 ☎23-8888
S 23.3.21生 S 57入会 りつ子

坂本 治



坂本治事務所 (B型)
所長 (08588)
680-12八頭郡河原町大字曳田255-2 ☎5-0126
680-12八頭郡河原町大字曳田203-1 ☎5-1251
S 27.12.15生 S 57入会 美幸

事務局員 大倉 美代



680 鳥取市吉成110-26 ☎24-8064
S 35.4.17生 (A型)

25周年記念式典案内



過去・現在……

いま新たなる未来に向かって

5月26日(土)

記念ゴルフコンペ

時 間 9:00スタート
場 所 日本海カントリークラブ稲葉山コース
住 所 鳥取県岩美郡岩美町唐川 ☎(0857)75-2121(代)

5月27日(日)

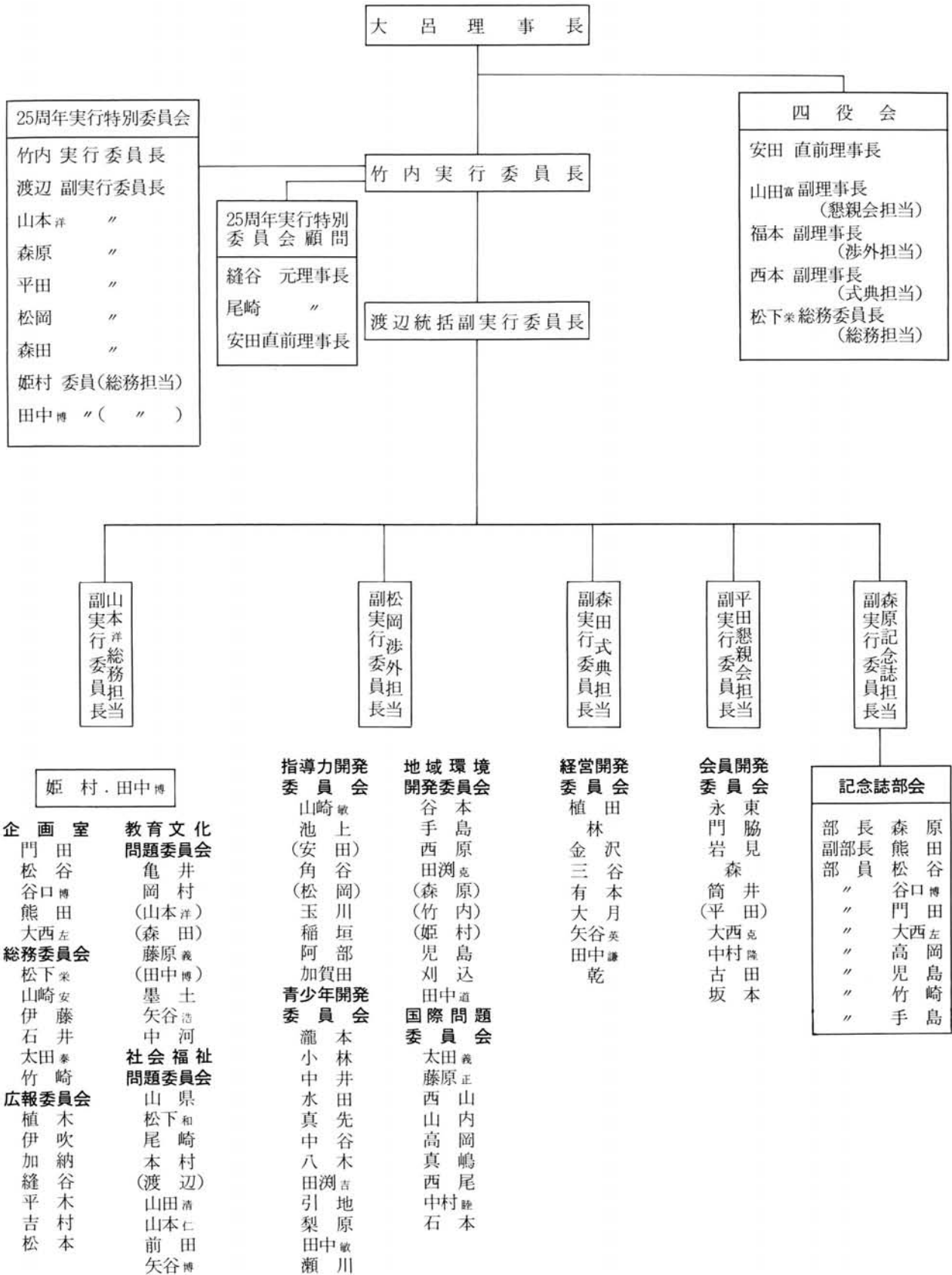
記 念 式 典

時 間 登録受付 9:00～10:00
開 会 10:00～11:30
場 所 鳥取県立社会教育センター
住 所 鳥取市扇町21 ☎(0857)27-5252

懇 親 会

時 間 12:00～14:00
場 所 ホテルニューオータニ鳥取 鳳凰の間
住 所 鳥取市今町2-153 ☎(0857)23-1111

式典組織図



あ と が き

(社)鳥取青年会議所は、昭和34年に設立され、本年25周年を迎えました。これを祝って記念誌を発刊した次第ですが、竹内敬雄実行委員長の「先輩の皆様のご苦労・ご努力を記念誌に表わしたい!!」との方針に基づき、編集、努力いたしました。

その内容は大きく分けて二つの主題に分かれています。一つは4半世紀の流れ、とくに鳥取青年会議所で大きな位置を占めていた五つの継続事業を振り返って先輩たちの足跡を記録し、現在を確認しながらこれを明日への糧とすることです。もう一つはその歴史を支えてこられた多くの先輩たちに、お一人残らず冊子に登場して頂き少しでも感謝の意を表したいということです。そこで我々現役のメンバーが手分けして先輩お一人お一人の生の声を集録させて頂き、これを掲載するというものです。

幸いにも、ほとんどの先輩の皆様は、インタビューに応じて頂くことが出来ました。おかげさまで、現役メンバーも、先輩のご苦労、そして運動展開されて来た事業の意味を充分知ったことと思います。

今後、これらを踏えて鳥取青年会議所は、「新なる未来に向って」挑戦して行かなければならないと感じている次第です。

最後になりましたが、発刊に際しまして、西尾邑次鳥取県知事のご祝辞をはじめ、西尾優鳥取市長、米原稯商工会議所会頭等各方面からのお祝のご芳名を頂戴し厚く御礼申し上げます。

ここに、なんとか、25周年記念誌を発刊することが出来ましたが、担当者全員未熟でもあり、その意図を十分に尽し得なかったことをお詫び申し上げます。また関係各位の暖かいご協力に感謝いたします。



1984
(杜鳥取青年会議所)